# 大学生のお金に対する信念が家計管理と社会参加に果たす役割

人間総合科学研究科心理学専攻

渡辺　伸子

# 目次

はじめに ..... 1

本論文の構成 ..... 3

第Ⅰ部　理論的検討

第１章 お金に関する論考の概観 ..... 5

第１節 お金とは何か ..... 5

第２節 貨幣の性質 ..... 6

第３節 経済学における貨幣の機能 ..... 7

第４節 本研究において扱うお金の範囲 ..... 7

第２章 お金に関する心理学的研究の概観 ..... 8

第１節 お小遣いについての研究 ..... 8

第２節 経済意識についての研究 ..... 8

第３節 心理的財布についての研究 ..... 9

第４節 お金の機能についての研究 ..... 12

第５節 お金に対する態度についての研究 ..... 12

第３章 お金に対する態度の概念の整理 ..... 13

第１節 お金に対する態度を測定する尺度の概観 ..... 13

第２節 本論文におけるお金に対する態度の定義 ..... 30

第４章 お金に対する態度の関連研究の整理 ..... 32

第１節 就業領域におけるお金に対する態度 ..... 32

第２節 購買領域におけるお金に対する態度 ..... 34
第３節 お金に対する態度の位置づけ ..... 36
**第５章 本論文の目的 .....38**
第１節 先行研究の問題点と本論文における対応 ..... 38
第２節 本論文の目的 ..... 43

## 第Ⅱ部　実証的検討

**第６章 お金に対する信念の測定尺度の開発 .....45**
第１節 お金に対する信念の内容の検討【研究 1】 ..... 45
第２節 お金に対する信念の項目の作成および予備的調査【研究 2】 ... 49
第３節 お金に対する信念尺度の作成および妥当性の検討【研究 3】 ... 53
第４節 お金に対する信念尺度の再検査信頼性の検討【研究 4】 ..... 68
第５節 お金に対する信念尺度の各年代への適用および大学生の特徴の検討【研究 5】 ..... 70
**第７章 お金に対する信念と個人の家計管理意識の関連の検討 .....81**
第１節 お金に対する信念と消費意識の関連の検討【研究 6】 ..... 81
第２節 お金に対する信念と貯蓄意識の関連の検討【研究 7】 ..... 91
第３節 お金に対する信念と職業意識の関連の検討【研究 8】 ..... 101
**第８章 お金に対する信念と社会参加の関連の検討 ..... 114**
第１節 お金に対する信念と募金行動の関連の検討【研究 9】 .....114
第２節 お金に対する信念と経済的社会参加意識の関連の検討【研究 10】 ..... 125

## 第Ⅲ部　総括

第９章 総合考察 ..... 135

第１節 実証的検討の整理 ..... 135

第２節 本論文の結論 ..... 142

第３節 本論文の理論的位置づけ ..... 148

第４節 本論文の限界と今後の課題 ..... 155

論文概要 ..... 157

引用文献 ..... 163

本論文を構成する研究の発表状況 ..... 170

謝辞 ..... 172

資料 ..... 174

## はじめに

私たちは，日々，お金を用いて生きている。しかし，お金について日々考えていることについては，十分に理解しているとは言い難い。

お金について思考されている内容はどのようなものであるのだろうか。また，モノを買う，貯金をする，職に就くといった個人の生活のための行動の背景には，お金についての考え方がどのように働いているのだろうか。さらに，募金をする，税金を納めるといった社会的な行動の背景には，お金についての考え方がどのように働いているのだろうか。

これらの問いは，様々な問題の理解に役立つと考えられる。例えば，借金を苦にした自殺や，国民の貯蓄率の低下，働けるにもかかわらず働かない若者など，お金が関連すると考えられる深刻な社会問題も存在する。また，募金や税制などは，より活発に運用されることが望まれているが，積極的に参加していない人々も存在し，それらの人々の対策が十分に行われているとは言い難い。

そこで本論文では，お金に対する考え方の個人差を「お金に対する信念」と呼び，研究を行う。特に，お金の用いられる場面を，個人内の領域である家計管理と，個人間の領域である社会参加に大別し，調査を行う。そして，お金に対する信念が，家計管理と社会参加の領域でどのような役割を果たしているのか明らかにする。最終的に，お金に対する信念の構造を明らかにした上で，家計管理と社会参加の領域でどのような役割を果たしているのか明らかにすることを目指す。

本論文は，理論的検討，実証的検討，総括の 3 部で構成されている。第 I 部の理論的検討では，お金に関する論考を紹介した後，お金に関する心理学的研究を概観する。また，その中でも，お金に対する態度について，概念と関連領域の点から整理する。第 II 部の実証的検討では，測

定尺度の開発を行う。その後，お金に対する態度が家計管理および社会参加の 2 領域でどのような役割を果たすのか検討する。第Ⅲ部の総括では，第Ⅰ部と第Ⅱ部を対応づけて整理する。

## 本論文の構成

### 第Ⅰ部　理論的検討

| |
|---|
| 第 1 章　お金に関する論考の概観 |
| 第 2 章　お金に関する心理学的研究の概観 |
| 第 3 章　お金に対する態度の概念の整理 |
| 第 4 章　お金に対する態度の関連研究の整理 |
| 第 5 章　本論文の目的 |

### 第Ⅱ部　実証的検討

| |
|---|
| 第 6 章　お金に対する信念の測定尺度の開発<br>お金に対する信念の内容の検討【研究 1】<br>お金に対する信念の項目の作成および予備的調査【研究 2】<br>お金に対する信念尺度の作成および妥当性の検討【研究 3】<br>お金に対する信念尺度の再検査信頼性の検討【研究 4】<br>お金に対する信念尺度の各年代への適用および<br>大学生の特徴の検討【研究 5】 |
| 第 7 章　お金に対する信念と個人の家計管理意識の関連の検討<br>お金に対する信念と消費意識の関連の検討【研究 6】<br>お金に対する信念と貯蓄意識の関連の検討【研究 7】<br>お金に対する信念と職業意識の関連の検討【研究 8】 |
| 第 8 章　お金に対する信念と社会参加の関連の検討<br>お金に対する信念と募金行動の関連の検討【研究 9】<br>お金に対する信念と経済的社会参加意識の関連の検討【研究 10】 |

### 第Ⅲ部　総括

| |
|---|
| 第 9 章　総合考察 |

# 第 I 部　理論的検討

# 第Ⅰ部　理論的検討

第Ⅰ部では，お金に関する論考を紹介した後（第 1 章），お金に関する心理学的研究を概観する（第 2 章）。そして，既存の尺度を中心に，お金に対する態度の概念の整理（第 3 章）と，関連研究の整理（第 4 章）を行う。その後，本論文の目的を述べる（第 5 章）。

## 第 1 章　　お金に関する論考の概観

本章では，お金や貨幣についての言説を紹介した後（第 1 節，第 2 節，第 3 節），本研究におけるお金の定義を述べる（第 4 節）。

### 第 1 節　　お金とは何か

「お金」については，『新明解国語辞典 第六版（机上版）』（山田・柴田・酒井・倉持・山田（編），2005）では，「日びの生活を営む上で不可欠のものとしてとらえた“かね”」と定義されている。なお，「金（かね）」は，「金銭。貨幣」と定義されている。

一方で，『広辞苑 第六版』（新村（編），2008）や『大辞泉 増補・新装版』（松村（監），1998）には，「お金」の項目はない。「金（かね）」の項目を見ると，『広辞苑 第六版』には，「貨幣としての黄金など。金銭」とある。『大辞泉 増補・新装版』には，「貨幣。金銭。おかね」とある。

いずれの辞典においても，お金，あるいは金（かね）が，貨幣であるとされている点に共通性がある。

では，貨幣とは何であろうか。岩井（1998）は，貨幣の定義について次のように述べている。「貨幣についてまともに論じたければ，“貨幣と

は何か？”という問いにまともに答えてはいけない。もしどうしてもそれに応える必要があるならば,“貨幣とは貨幣として使われるものである”というよりほかにない。」（p.232）つまり，貨幣とは，定義が困難なものであり，強いて言えば人間によって貨幣として扱われるものであることを述べている。しかし，この循環論的な定義について，鈴木（1995）は異議を唱えており，貨幣の流通条件として，市民や国家社会による信用が付与されていることを挙げている。両者を併せて考えた場合，貨幣とは，市民や国家社会による信用を備えて，人々の間で貨幣として利用されているもの，と捉えることができる。

一方，貨幣の形態について，岩井（1998）は,「モノとしての貨幣とは，みすぼらしい金属のかけらや薄汚れた紙の切れはしや目にも見えない電磁気的なパルスといった,ものの数にもはいらないモノでしかない。」（p.210）と述べており，貨幣の物理的状態については問わないとしている。これについては，岩井（1998）への反論である鈴木（1995）も，貨幣のモノとしての形態には具体的に言及せず,どのような形態であれ，社会的に認められていればよいと述べている。また，鈴木（1996）は，その際には，その貨幣に信用が付与されていることが必要であるとも指摘している。これらのことから，貨幣の形態は現在では不問とされていることがうかがえる。

### 第２節　貨幣の性質

加えて，岩井（1998）は，貨幣の性質として,「貨幣とは，言語や法と同様に，純粋に“共同体”的な存在である。」（p.210）として，共同体を必要とすることを挙げている。

また，これを，第１節において述べた，人間によって貨幣として扱わ

れるものが貨幣であることと併せて考え，「貨幣を手にしている人間を，貨幣を貨幣として受けとってくれる人間の集団から切り離してしまったならば，その瞬間にその手にある貨幣は貨幣であることをやめて，ほんとうにものの数にもはいらないモノになってしまうのである」（p.210-211）と述べている。つまり，貨幣は人と人の間で用いられる，社会的な道具であると結論づけられる。

### 第３節　経済学における貨幣の機能

経済学では，一般に，貨幣には，一般的交換手段，価値尺度手段，価値貯蔵手段の 3 点の機能が備わっているとしている（片平，2003）。一般的交換手段とは交換の道具としての機能，価値尺度手段とは価値の高さを測り表す機能，価値貯蔵手段とは価値を保存する機能である。つまり，経済学における貨幣とは，売買の場で交換に使用され，値段としてモノの価値の高低を可視化し，貯蔵に耐えられるものであると言い換えられる。

### 第４節　本研究において扱うお金の範囲

第 1 節と第 2 節から，「お金」は「生活を営む上で不可欠のものとしてとらえた貨幣」と捉えられてきたと概括することが可能である。

しかしながら，第 1 節から第 3 節において概観したのは心理学以外の学問領域におけるお金についての知見である。そのため，お金を心理学的に扱った場合，心理学以外の学問領域で指摘されているお金の定義をそのまま反映したものとはならない可能性もある。本論文におけるお金の定義については，既存の尺度を概観した後，第 3 章第 2 節第 3 項において述べる。

# 第２章　　お金に関する心理学的研究の概観

本章では，お金に関する心理学的研究として 4 種の研究領域について紹介する。お小遣い（第 1 節），心理的財布（第 2 節），お金の機能（第 3 節），お金に対する態度（第 4 節）について紹介する。

## 第１節　　お小遣いについての研究

児童期から青年期にかけてのお金の研究に，お小遣いの研究がある。竹尾・高橋・山本・サトウ・片・呉（2009）は，小中高校生に対してお小遣い使用の規範意識やお金を媒介とした友人関係および親子関係を尋ねている。結果からは，学校段階が上昇するに伴って，お金の面で親からの自立が見られること，親から自立し自由にすることができるようになったお金は，おごり合いや嗜好品の購入など，友人との世界を共有するために用いられることが示唆された。

また，日韓中越の 4 ヵ国で調査を行った呉・竹尾・片・高橋・山本・サトウ（2012）からは，子どものお小遣いの使用の規範意識等に国による差があることが明らかになった。子どもが消費生活に関わりを持つ程度は，日本，韓国，中国，ベトナムの順で低くなっていた。一方で，お金を友人との交際に使う際の相互交換的な程度は，ベトナム，韓国，中国，日本の順に低くなっていた。相互交換的な程度とは，金銭の貸し借りや，おごったりおごられたりすることへの肯定度である。

これらの研究は，お金の機能を発達心理学的な観点から扱ったものであり，お小遣いには発達差と文化差が見られることが推察される。

## 第２節　　経済意識についての研究

高校生や大学生を対象として，経済意識や経済的自立に着目した研究

が行われている。

高校生では，経済的自立に対する意識を調査したものが多い。望月・中島・大根田（1992）が高校生および大学生を対象として行った，規範に関する調査には，「経済的に自立する」という項目が含まれていたが，この項目への承認率は 90%を超えていた。家庭科教育の領域においても，志村・佐藤（2003）によって高校生を対象として経済的自立に関する調査が行われている。

大学生においては，経済意識に着目した研究が行われている。経済意識に関しては具体的な定義が見出せないが，お金に関する行動や親への金銭的な依存の程度を尋ねる項目によって測定されている。篠原・原崎（2002）は甘えと経済意識の関連について検討を行い，甘え得点の高い者は，経済的に親に依存している傾向を明らかにした。また，篠原・原崎（2004）においても同様の傾向が示された。これらの研究からは，社会に出てお金を自分の責任で使いこなしていく前段階として青年期が注目されていることがうかがえる。

### 第 3 節　心理的財布についての研究

商品を購入する際に感じる支払いへの抵抗感を指標として，商品のまとまりを把握したものが，「心理的財布」（小嶋，1972）として概念化されている。心理的財布は，各心理的財布の大きさが個人差として扱われる。心理的財布が大きいとは，言い換えれば，当該の商品カテゴリーに支払ってもかまわないと思える金額が高いということである。また，小さい場合には，金額が安いということである。たとえば，化粧品に対する心理的財布が大きい人は，高い化粧品を買うことへの抵抗感が弱く，心理的財布が小さい人は抵抗感が強いと考えられる。測定の際には，支

払いへの抵抗感が強い場合には心理的財布が小さく，抵抗感が弱い場合には心理的財布が大きいと解釈する。

心理的財布は，尺度の作成が行われておらず，各研究者がそれぞれの判断で商品項目を選定して調査を実施するのが通例である。

蜂屋（2005）は，1995 年度の調査の結果と 2000 年度の調査の結果を比較することによって，心理的財布の時代による変化を検討した。大学生を対象にした調査から，1995 年度には「高級品用サイフ」,「おしゃれ用サイフ」,「家電用サイフ」,「気晴らし用サイフ」,「日常生活用サイフ」,「生活必需品用サイフ」の 6 つの財布が見出された。一方，2000 年度の調査からは,「高級品用サイフ」,「家電用サイフ」,「日常生活用サイフ」,「生活必需品用サイフ」の 4 つのサイフは 1995 年度と同様に見出されたが,「気晴らし用サイフ」と「趣味・嗜好品用サイフ」については内容に変化が見られた。「気晴らし用サイフ」は 1995 年度には酒やパチンコなど，ストレス発散に関係する商品で構成されていたが，2000 年度には酒やゴルフセット，キャンプ用品など，趣味や嗜好品などで構成されたため，新たに「趣味・嗜好品サイフ」と命名された。また,「おしゃれ用サイフ」は 1995 年度にはコート，G パン，ファンデーションなど，男女のおしゃれに関連する商品で構成されていたが，2000 年度には女性用ヘアスプレー，口紅，ファンデーションなどで構成され，新たに「女性のおしゃれ用サイフ」と命名された。この結果から，商品と各心理的財布の関係は，時代によって異なると結論づけられる。

大西・神山（2008）では，学生と社会人を対象に調査を行い,「生活インフラ用財布」,「身体リラックス用財布」,「趣味娯楽用財布」,「外食・旅行用財布」,「オシャレ用財布」,「生活保障，安心用財布」,「美容健康増進用財布」,「財産用財布」,「情報機器用財布」の 9 つの心理的財布が

見出されている。加えて，性別（男女）・学生か社会人か・既婚か独身かによって 8 グループに分け，それぞれの財布においてどの属性のグループの財布が大きいのか検討している。ただし，実際には学生の既婚者が少なく,男子学生と女子学生は婚姻状況を問わずに分類し分析したため，6 グループによる検討となった。その結果,「生活インフラ用財布」,「生活保障，安心用財布」,「美容健康増進用財布」,「財産用財布」の 4 種類の財布において社会人既婚男性が最も財布が大きいことが明らかになった。次いで,「身体リラックス用財布」,「趣味娯楽用財布」,「外食・旅行用財布」の 3 種類の財布で社会人独身男性の財布が大きかった。「オシャレ用財布」は女子学生が,「情報機器用財布」は男子学生が大きかった。一方で，財布の小ささについては,「生活インフラ用財布」,「趣味娯楽用財布」,「外食・旅行用財布」,「生活保障，安心用財布」,「財産用財布」で女子学生が最も小さく,「身体リラックス用財布」,「美容健康増進財布」で男子学生が最も小さかった。「オシャレ用財布」は社会人独身男性が,「情報機器用財布」は社会人既婚女性が最も小さかった。総じて，既婚か独身かを問わず，社会人の男性は財布が大きく，男女学生は財布が小さいと結論づけられる結果である。

以上から，商品と各心理的財布の関係は，時代によって異なることおよび，心理的財布の大きさは，世代や性別等のデモグラフィックな変数によって異なることが推察される。

しかしながら，心理的財布を用いて個人差を安定的に測定することには限界があると考えられる。なぜならば，蜂屋（2005）で明らかにされたように,時代によって心理的財布を構成する商品には変化があるため，同一項目群を異なる時代に使用して，個人を比較することは難しい。そのため，心理的財布は，ある時点での比較でのみ用いるべきである。具

体的には大西・神山（2008）のように，研究ごとに新たに心理的財布を構成した上で，心理的財布を従属変数として用い，消費者の特徴を捉える方法が有益であると考えられる。

### 第４節　お金の機能についての研究

お金を刺激として与えた場合の社会的認知や社会的行動の変化が検討されている。Vohs, Mead, & Goode（2006）の実験からは，お金を思い出させると，人からの助けを望まなくなり，自分が人を助けることも減少することが明らかとなっている。Zhou, Vohs, & Baumeister（2009）では，お金に触れると，社会的排除による苦痛や身体的な痛みが軽減することが明らかになっている。これらの実験から，お金は援助や排除という社会的な性質と関連するものであると結論づけられる。

また，Yang, Wu, Zhou, Mead, Vohs, & Baumeister（2013）は，お金が人の道徳判断に与える影響を検討している。きれいなお金と汚いお金の影響を比較するため,新品の紙幣と新品の紙幣を汚した紙幣を用意し，複数の実験を行った。その結果,汚した紙幣を提示された実験協力者は，売り物を少なく計量するなどの不公平な行為に，より寛容になった。これについても，公平さや不公平さは社会的な認知と考えられるため，お金は社会的な道具であることが強調される結果である。

### 第５節　お金に対する態度についての研究

お金に関わる行動を検討する際には,「お金に対する態度（money attitudes: Yamauchi & Templer, 1982)」の概念が用いられてきた。お金に対する態度の研究では，尺度の作成の他，就業や消費との関連の検討などが行われている。詳細については第 3 章および第 4 章で論じる。

# 第３章　　お金に対する態度の概念の整理

お金に対する態度を測定する尺度は複数存在するが，明文化されたお金に対する態度の定義はいまのところ見られない。そこで，本章では，既存の尺度を概観し，各尺度で扱われている内容を整理する（第 1 節）。そして，お金に対する態度の本研究での定義づけを行う（第 2 節）。

## 第１節　　お金に対する態度を測定する尺度の概観

本節では，お金に対する態度の測定のために作成された尺度を概観する。海外で作成された複数の尺度および日本で作成された 1 尺度を紹介する。第 1 項では Money Attitudes Scale（Yamauchi & Templer, 1982）を，第 2 項では Money Beliefs and Behaviour Scale（Furnham, 1984）を，第 3 項では Money Ethic Scale（Tang, 1992）を，第 4 項では Symbolic Money Meanings Scale（Rose & Orr, 2007）を，第 5 項ではお金に対する態度尺度（原岡，1990）を，第 6 項ではその他の派生尺度を紹介する。そして，第 7 項において，お金に対する態度の定義を行う。

### 第１項　　Money Attitudes Scale

Money Attitudes Scale（以下，MAS とする）は，Yamauchi & Templer（1982）において作成された，4 下位尺度 29 項目の尺度である。因子分析では 5 因子が得られたが，そのうち 1 因子を採用せず，尺度としては 4 下位尺度である。下位尺度は，他者に対して自分を印象づけるようなお金の使い方をするという内容の「勢力・名声」（9 項目），無駄遣いをせず将来のためにお金を蓄えるよう気をつけるという内容の「保存・時間」（7 項目），お金を使うことに対する不信感や不快感を表す内容の「不信」（7 項目），お金を不安の原因，あるいは不安からの保護要因と考えたりする内容の「不安」（6 項目）である。MAS は，臨床的および

理論的文献を精査して作成された項目から構成されている。

妥当性は 7 点の尺度との相関を算出することによって検討されている。MAS の下位尺度ごとに紹介する。「勢力・名声」は，マキャベリアニズムおよび心配と正の関連を示した。「保存・時間」は時間能力と負の関連を，強迫性と正の関連を示した。「不信」はパラノイアと正の関連を示した。「不安」は状態不安および特性不安と正の関連を示した。以上の関連から，MAS は妥当性の確認された尺度であると考えられる。

なお，MAS の調査協力者はアメリカに住む 17 歳から 75 歳までの人々，合計 300 名であった。

MAS の下位尺度の信頼性については，次のようであった。α 係数は.69～.80 で，尺度全体での α 係数は.77 であった。また，MAS は 5 週間の期間をおいて再検査信頼性も検討されている。下位尺度の相関係数は，.87～.95 であり，尺度全体では.88 であった。再検査信頼性の調査協力者は 31 名であった。

MAS の項目を日本語に訳したものを Table 3-1 に示した。

Table 3-1　MAS の項目

| 因子 | 番号 | 項目 |
|---|---|---|
| 第1因子：<br>勢力・名声 | – | 私は、他の人が私に何かしてくれるように仕向け<br>金を使う。 |
| | – | 私は人に自分を印象づけるので、その品物を買 |
| | – | 正直なところ、私は人に自分を印象づけるために<br>のを所有する。 |
| | – | 私は、お金が究極的な成功の象徴のように思う |
| | – | 私はときどき、自分の稼ぎを自慢に思っている。 |
| | – | 私は他の人から、人の稼ぎを成功の象徴として<br>と言われる。 |
| | – | 私は、自分よりお金を持っている人をより尊敬し |
| | – | 私は、その人の功績よりも、その人の持っている<br>影響される。 |
| | – | 私は、しばしば他の人が自分よりも多くのお金を<br>どうかを知ろうとしている。 |
| 第2因子：<br>保存・時間 | – | 将来のために資産の計画を立てている。 |
| | – | 将来のために貯金をしている。 |
| | – | 老後に備えて貯金をしている。 |
| | – | 私は自分のお金について絶えず注視している。 |
| | – | 予算立てには注意している。 |
| | – | 私は、お金にはとても慎重である。 |
| | – | 不景気に備えたお金がある。 |
| 第3因子：<br>不信 | – | 買ったものについて、議論したり不満を言ったり |
| | – | どこかでもっと安く買えたことがわかると、くよく |
| | – | 何かを買ってから、同じものを他の場所でもっと<br>かったかあれこれ思いめぐらす。 |
| | – | 払えるときでも払えないときでも、しばしば「払え<br>する。 |
| | – | 何か買ったとき、払った金額について不満を言う |
| | – | 必需品であっても、お金を払うのをためらう。 |
| | – | 大きな買い物をするときは、つけ入られているの<br>疑ってしまう。 |
| 第4因子：<br>質<br>（尺度に採用され | – | 最高級の製品を買う。 |
| | – | 最高のものを手に入れるためにお金を使う。 |
| | – | 最高のものを手に入れるためにより多くのお金を |
| | – | 可能な限り高い商品を買う。 |
| | – | 有名なブランドの製品を買う。 |
| 第5因子：<br>不安 | – | バーゲンに行かないのは難しい。 |
| | – | セールを無視するのは悩ましい。 |
| | – | よりよい気分になるためにお金を使う。 |
| | – | お金がないと不安になる。 |
| | – | お金のことになると心配になる。 |
| | – | 経済的に安全ではないのではないかと心配して |

### 第２項　Money Beliefs and Behaviour Scale

Money Beliefs and Behaviour Scale（以下，MBBS とする）は，

Furnham（1984）において作成された，6 下位尺度 51 項目の尺度である。項目は，MAS 等を参照して作成された。下位尺度は，お金のことを強く信頼して，お金がなくなることを心配する内容の「強迫性」（18 項目），他者に自分を印象づけるためにお金を使う傾向を表す内容の「勢力・使用」（8 項目），浪費をしない傾向を表す内容の「保存」（6 項目），お金に対して伝統的な態度であるという内容の「安心・保守的」（8 項目），お金を十分に持っていないと感じる程度である「不足」（7 項目），給料はその人の能力の評価であると考える傾向を表す「努力・能力」（4 項目）である。MBBS の α 係数は Furnham（1984）では報告されておらず，再検査信頼性も検討されていない。

妥当性は検討されていないが，基礎的な検討からは尺度について次のことが明らかになっている。すなわち，「強迫性」，「安心・保守的」，「努力・能力」では性差が見られ，「強迫性」は男性の方が，「安心・保守的」と「努力・能力」は女性の方が，得点が高かった。また，「勢力・使用」，「保存」，「安心・保守的」，「努力・能力」で年齢による差が見られ，「勢力・使用」は年齢が若い方が，「保存」，「安心・保守的」，「努力・能力」は年齢が高い方が，得点が高かった。加えて，「強迫性」，「勢力・使用」，「努力・能力」で収入による差が見られ，「強迫性」，「勢力・使用」は収入が低い方が，「努力・能力」は収入が高い方が，得点が高かった。このように，MBBS は，デモグラフィックな変数の点から，一定の妥当性が示されていると考えることができる。

なお，MBBS の調査協力者はイギリスに住む 18 歳以上の人々で，合計 256 名であった。

MBBS の項目を日本語に訳したものを Table 3-2 に示した。

Table 3-2　MBBS の項目（前半）

| 因子 | 番号 | 項目 |
|---|---|---|
| 第1因子:<br>強迫性 | 2 | 私は楽しみよりもお金を重要視する。 |
| | 10 | 私は買うものの値段について、議論したり交渉したりしないではいられない。 |
| | 17 | その人が何もしていないとしても、自分よりお金を持っている人と比べると、自分は劣っているように感じる。 |
| | 18 | 私の妨げになる人を支配したり怖がらせたりするための武器としてお金を用いることがよくある。 |
| | 19 | その人の能力や業績に関係なく、自分よりお金を持っていない人と比べると、自分は優れているように感じる。 |
| | 20 | お金は私の問題を解決してくれるものだと固く信じている。 |
| | 21 | 個人的な資産管理について人に訊ねられると不安で防衛的になる。 |
| | 22 | 何を買うにしても、目的が何であれ、最初に考えることは値段についてである。 |
| | 24 | 隣人よりも払い過ぎているとき、おもしろくないと感じる。 |
| | 28 | お金は、信頼できるたったひとつのものだと思う。 |
| | 36 | お金を得るための活動でない時間は、無駄な時間だと思う。 |
| | 43 | もし十分な金額であるならば、そのお金のために合法的な範囲でほとんど何でもするだろう。 |
| | 45 | 私は自分の経済的な成功を誇りに思っているし、友人たちもそれを知っている。 |
| | 50 | 給料は、その人の知能の評価だと思う。 |
| | 55 | 他の人と比べると、私は長時間お金のことを考えていると思う。 |
| | 56 | 私は私の家計について、長時間心配している。 |
| | 57 | 私はしばしばお金のことや、お金があったらできることについて空想する。 |
| | 60 | 英国では、お金は、人がお互いを比較するための方法である。 |
| 第2因子:<br>勢力・使用 | 3 | 自分を人に印象づけるために、欲しくも必要もないものをときどきは買う。 |
| | 15 | 月末にお金が残っていると、全部使ってしまうまで、不快な気持ちになる。 |
| | 16 | 気前よく振る舞うことで、私は友情を「買って」いる。 |
| | 25 | お金や、お金を持っている人を見下している。 |
| | 35 | 好きなウェイターやウェイトレスには、たくさんチップを払う。 |
| | 38 | 落ち込んでいるときには、しばしば自分のためにお金を使う。 |
| | 41 | 私は人にお金を貸すのが好きではない。 |
| | 58 | 貧困者や酔っ払いに頼まれても、お金をあげることはまれだ。 |
| 第3因子:<br>保存 | 1 | セールや処分品価格で売られているものを、必要だったり欲しかったりするわけではないのにしばしば買ってしまう。 |
| | 4 | 十分なお金のあるときでさえ、必要なものを買うときに罪悪感を覚える。 |
| | 7 | 払えるときでも払えないときでも、しばしば「払えない」と口にする。 |
| | 9 | 金額にかかわらず、お金を使うことを決断するのは私にとってしばしば難しい。 |
| | 17 | その人が何もしていないとしても、自分よりお金を持っている人と比べると、自分は劣っているように感じる。 |
| | 26 | 何かあって、現金が必要になることもあると思うので、お金を節約するのを好んでいる。 |

Table 3-2　MBBS の項目（後半）

| | |
|---|---|
| 第4因子:<br>安心・保守的 | 8 いつも、財布にいくら入っているか把握している。<br>13 クレジットカードより現金を使う方を好んでいる。<br>14 銀行口座にいくら入っているか把握している。<br>23 人に給料の額を訊ねるのは失礼だと思う。<br>26 何かあって、現金が必要になることもあると思うので、お金を節約するのを好んでいる。<br>32 私のお金に対する態度は、両親に似ている。<br>34 水道光熱費はすぐに払う。<br>59 自分の貯金の能力を誇りに思っている。 |
| 第5因子:<br>不足 | 27 私が節約したお金の額は、絶対に十分などではない。<br>42 私は、私の友人が思うよりも暮らし向きが良い。<br>46 私は、私の友人が思うよりも暮らし向きが悪い。<br>49 私はしばしば、パートナーとお金について論争する。<br>52 私の友人は、私よりもたくさんお金を持っている。<br>56 私は私の家計について、長時間心配している。<br>59 自分の貯金の能力を誇りに思っている。 |
| 第6因子:<br>努力・能力 | 33 その人の稼ぎは、その人の能力や努力と関連していると思う。<br>51 私の現在の給料は、私の仕事に見合っていると思う。<br>53 私の現在の給料は、私の仕事に見合わず、少ないと思う。<br>54 私は資産管理についてとても弱いコントロール力しか持っていない。 |

### 第 3 項　Money Ethic Scale

Money Ethic Scale（以下，MES とする）は，Tang（1992）において作成された，6 下位尺度 30 項目の尺度である。下位尺度は，お金に対するポジティブな考えを測定する内容の「善」（9 項目），お金に対するネガティブな考えを測定する内容の「悪」（6 項目），お金を成功や達成のシンボルと考えるという内容の「達成」（4 項目），お金が自分の評価につながっていると考えるという内容の「尊敬・自尊心」（4 項目），お金の管理をしっかり行う傾向を測定する内容の「節約」（3 項目），お金が自由や力，安心を与えてくれると考えるという内容の「自由・勢力」（4 項目）である。MES は MAS や MBBS の因子の一部を採用しながら，文献研究の知見も加えて下位尺度の概念を選定し，作成された。

MES の下位尺度の α 係数は，.68～.81 であった。また，4 週間の期間

をおいて 2 回の調査を行い，再検査信頼性も検討されている。2 回の調査の相関係数は.56～.83 であった。MES の項目を日本語に訳したものを Table 3-3 に示した。

MES の妥当性については，次の 5 点から検討されている。第一は，「節約」の得点が年齢と正の関連を示したことである。第二は，「節約」の得点は，女性の方が男性よりも高かったことである。第三は，収入の高い人々は，「達成」の得点が高く，「悪」の得点が低かったこと，また，若い人ほど，「悪」の得点が高かったことである。第四は，プロテスタント的労働倫理尺度の得点が高いほど，「節約」，「悪」，「自由・勢力」の得点が高かったことである。第五は，余暇倫理（Leisure Ethic）尺度の得点が高いほど，「善」の得点が高く，「悪」の得点が低く，「達成」と「自由・勢力」の得点が高かったことである。以上の検討から，MES の妥当性は確認されていると考えられる。

なお，MES の調査協力者はアメリカに住む 249 名であった。

MES の短縮版として Love of Money Scale（以下，LOMS とする）が，Tang & Chiu（2003）において作成されている。LOMS は 4 下位尺度 17 項目である。下位尺度は，お金は大切で良いものだという考えを表す「重要性」（5 項目），お金を成功や達成のシンボルと考える程度を表す「成功」（4 項目），お金によって仕事への動機づけを増す傾向を表す「動機づけ」（4 項目），お金持ちになりたい気持ちを表す「裕福」（4 項目）である。LOMS 全体としては，お金への積極性や接近性を測定していると考えられる。LOMS は香港で，211 名のフルタイムワーカーを調査協力者として作成されている。LOMS の $\alpha$ 係数は報告されておらず，再検査信頼性も検討されていない。また，妥当性も検討されていない。

LOMS の項目を日本語に訳したものを Table 3-4 に示した。

Table 3-3　MES の項目

| 因子 | 番号 | 項目 |
|---|---|---|
| 第1因子：善 | 1 | お金は皆にとって重要な要因だ。 |
| | 2 | お金は良いものだ。 |
| | 17 | お金は大切だ。 |
| | 46 | 私はお金を高く価値づけている。 |
| | 24 | お金には価値がある。 |
| | 36 | お金は木に生るものではない。 |
| | 27 | お金は贅沢さをもたらしてくれる。 |
| | 14 | お金は魅力的だ。 |
| | 45 | お金を蓄えることは大切なことだと考えている。 |
| 第2因子：悪 | 15 | お金は諸悪の根源だ。 |
| | 4 | お金は邪悪だ。 |
| | 21 | お金を使うのはお金を失くす（浪費する）のと同じだ。 |
| | 32 | お金は恥ずべきものだ。 |
| | 19 | お金は無益なものだ。 |
| | 37 | 1ペニーの節約は1ペニーの稼ぎだ。 |
| 第3因子：達成 | 5 | お金はその人の業績を表す。 |
| | 9 | お金は私の人生のもっとも重要なゴールだ。 |
| | 8 | お金は成功の象徴だ。 |
| | 3 | お金でなんでも買うことができる。 |
| 第4因子：尊敬・自尊心 | 20 | お金によって、私は周囲の人々から尊敬されるようになる。 |
| | 31 | お金は名誉なものだ。 |
| | 25 | お金はあなたの有能さと能力を表現するのに役立つ。 |
| | 12 | お金によって多くの友人ができる。 |
| 第5因子：節約 | 47 | 私は自分のお金をとても注意深く使っている。 |
| | 48 | 私はお金を上手にやりくりしている。 |
| | 43 | 私は、利息や罰を避けるために、すぐにお金を支払う。 |
| 第6因子：自由・勢力 | 11 | お金は私に自律と自由を与えてくれる。 |
| | 7 | お金が銀行にあることは、安全の証だ。 |
| | 29 | お金によって、私はなりたいものになる機会を手に入れる。 |
| | 30 | お金は権力と同義だ。 |

Table 3-4　LOMS の項目

| 因子 | 番号 | 項目 |
|---|---|---|
| 第1因子：重要性 | 1 | お金は重要だ。 |
| | 2 | お金には価値がある。 |
| | 3 | お金は良いものだ。 |
| | 4 | お金は人々の生活にとって重要な要因だ。 |
| | 5 | お金は魅力的だ。 |
| 第2因子：成功 | 6 | お金は私の業績を表現している。 |
| | 7 | お金は私の成功の象徴だ。 |
| | 8 | お金は私の成果の反映だ。 |
| | 9 | お金は、人がお互いを比較するための方法である。 |
| 第3因子：動機づけ | 10 | お金のためにもっと働こうと思う。 |
| | 11 | お金は私をもっと一生懸命働かせる要因だ。 |
| | 12 | 私はお金によって高いモチベーションを保っている。 |
| | 13 | お金は動機づけの要因だ。 |
| 第4因子：裕福 | 14 | お金をたくさん持っていることは良いことだ。 |
| | 15 | お金持ちだったらよいのにと思う。 |
| | 16 | お金持ちになりたい。 |
| | 17 | もし私がお金持ちでもっとお金を持っていたら、私の人生はもっと楽しいものになるだろう。 |

### 第 4 項　Symbolic Money Meanings Scale

アメリカではさらに，Rose & Orr（2007）が，先行研究にあたる MAS，MBBS，MES は信頼性と妥当性が不十分であるとして，4 下位尺度 19 項目の Symbolic Money Meanings Scale（以下，SMMS とする）を作成している。「心配」（5 項目）は，お金に関する心配をしやすく，お金を不安をもたらすものと考える傾向を測定している。「社会的地位」（4 項目）は，お金を社会的地位の象徴と考え，他者に自分を印象づけるような行動をとる傾向を測定している。「達成」（5 項目）は，お金を成功の象徴と捉える傾向を測定している。「安心」（5 項目）は，お金を安心をもたらすものと考える傾向を測定している。下位尺度の α 係数は.80～.81 であった。

SMMS の妥当性として，倹約的な人々は，そうではない学生たちと比

較して，「心配」と「安心」の得点が高く，「社会的地位」と「達成」の得点が低かったことが報告されている。その他にも，価値意識，強迫的な買い物行動などとの関連から妥当性が示されたとされている。

SMMS の調査協力者は，研究 1 で大学生 223 名，研究 2 で大学生 220 名，研究 3 で一般社会人 233 名，研究 4 で大学生 256 名であった。

SMMS についても，再検査信頼性の検討が行われている。調査協力者は 256 名で，2 回の調査の間は 2 週間であった。各下位尺度における相関係数は，.85～.93 であった。

SMMS の項目を日本語に訳したものを Table 3-5 に示した。

Table 3-5　SMMS の項目

| 因子 | 番号 | 項目 |
|---|---|---|
| 第1因子：心配 | − | お金について多くの心配をしている。 |
| | − | 多くの時間を使って自分の資産について心配している。 |
| | − | 収支を合わせられないのではないのかと心配している。 |
| | − | 貯金を失うのではないかと心配している。 |
| | − | 貯蓄額が十分ではないと思う。 |
| 第2因子：社会的地位 | − | 私は人に自分を印象づけるので、その品物を買う。 |
| | − | 自分を人に印象づけるために、欲しくも必要もないものをときどきは買う。 |
| | − | 私は人に自分を印象づけるために素晴らしいものを所有する。 |
| | − | 気前よく振る舞うことで、私は友情を「買って」いる。 |
| 第3因子：達成 | − | お金は成功の象徴だ。 |
| | − | 私はお金を、成功の証として高く価値づけている。 |
| | − | 高収入であることは、有能さの指標である。 |
| | − | お金はその人の業績を表す。 |
| | − | その人の稼ぎは、その人の能力と関連していると思う。 |
| 第4因子：安心 | − | お金を貯めることは安心感をもたらす。 |
| | − | 将来に備えてお金を貯めることは、私にとって重要である。 |
| | − | 将来の資産の計画を立てることは、私に安心感を与えてくれる。 |
| | − | 何かあって、現金が必要になることもあると思うので、お金を節約するのを好んでいる。 |
| | − | 家族の将来のためにお金を貯めておくことは、私にとって重要なことだ。 |

### 第５項　　お金に対する態度尺度

お金に対する態度尺度は，原岡（1990）において作成された，6 下位尺度 53 項目の尺度である。下位尺度は，お金が社会で力を持つ等の良いイメージの項目で構成される「お金の社会的価値」（19 項目），お金が不平等のような悪い状況を生んでいるという内容の「社会における諸悪の根源」（9 項目），お金を取り巻く社会構造についての項目で構成される「社会や人生を狂わせるマネーゲーム」（7 項目），お金と人生の関連性を意識する内容の「お金の使い方と人生の意義」（7 項目），お金が手に入った際に生じるポジティブな感情に関する内容の「金儲けと使用の楽しみ」（6 項目），貯蓄や借金等の規範に関する内容の「お金の利用と処世術」（5 項目）である。

お金に対する態度尺度の妥当性は，部分的に確認されている。まず，「現実に自由になる金額」を尋ね，回答者を「1 万円以下」,「2・3 万円」,「4 万円以上」の 3 群に分け，各下位尺度を従属変数として，分散分析を行っている。その結果,「お金の利用と処世術」で 3 群に得点の差が見られた。自由になる金額が高いほど,「お金の利用と処世術」の得点が高くなる傾向が見られた。

また,「希望の使用金額」を尋ね,「現実に自由になる金額」と同様に回答者を 3 群に分け，各下位尺度を従属変数として，分散分析を行ったところ,「お金の社会的価値」,「社会における諸悪の根源」,「お金の使い方と人生の意義」,「お金儲けと使用の楽しみ」,「お金の利用と処世術」の 5 下位尺度で 3 群に得点の差が見られた。「お金の社会的価値」,「お金儲けと使用の楽しみ」,「お金の利用と処世術」の 3 下位尺度では,「1 万円以下」と「4 万円以上」の得点が高く,「2・3 万円」の得点が低い，U 字型の関連が見られた。一方,「社会における諸悪の根源」と「お金の

使い方と人生の意義」では,「2・3 万円」の得点が高く,「1 万円以下」と「4 万円以上」の得点が低い，逆 U 字型の関連が見られた。

これらは，お金に対する態度尺度と回答者の経済状況の関連を示したものと考えられる。しかし，現実に自由になる金額や希望の使用金額が回答者の心理傾向を測定している可能性も排除できず，十分に妥当性が確認されているとは考えにくい。

お金に対する態度尺度は日本で作成された。23 歳から 60 歳の社会人 40 名から自由記述を得て KJ 法を実施し,項目を作成した後,大学生 525 名に調査を実施して因子分析を行っている。

お金に対する態度尺度は，α係数が.52~.82 であり，低い値の下位尺度が含まれている。また，再検査信頼性は検討されていない。

お金に対する態度尺度の項目を Table 3-6 に示した。

Table 3-6　お金に対する態度尺度の項目（前半）

| 因子 | 番号 | 項目 |
|---|---|---|
| 第1因子:<br>お金の社会的価値 | 8 | 人間は何をするにも先立つものはお金である。 |
| | 9 | たいていのことはお金で解決できる。 |
| | 13 | お金は人間を評価するものさしである。 |
| | 14 | 現代社会では「金の切れ目が縁の切れ目」である。 |
| | 16 | お金があれば心にゆとりがもてる。 |
| | 17 | 現代社会ではお金が価値基準となっている。 |
| | 18 | お金は持っていればいるほど幸せである。 |
| | 19 | 社会的付き合いにはお金が必要である。 |
| | 20 | お金がなければ、人は一人前になれない。 |
| | 22 | お金が現代社会の仕組みを支えている。 |
| | 29 | お金を持てば持つほど権力が増す。 |
| | 31 | お金さえあれば社会を思うように動かせる。 |
| | 34 | お金はたくさんあるにこしたことはない。 |
| | 35 | お金儲けは生きていく上で当たり前の活動である。 |
| | 51 | どれくらい財産をもってるかで社会的地位が決まる。 |
| | 59 | どれくらいの収入があるかによって能力が評価される。 |
| | 72 | 現代社会が何事についてもうまく機能するには、絶対にお金が必要である。 |
| | 76 | お金のある人は、お金のない人より幸福になる可能性が高い。 |
| | 80 | 地位体系が必要な場合、お金はその適切な基礎となる。 |
| 第2因子:<br>社会における<br>諸悪の根源 | 21 | 世の中に不公平があるのはお金があるためである。 |
| | 23 | 必要以上にお金を持つと人の心は醜くなる。 |
| | 28 | お金は犯罪のもとになる。 |
| | 33 | お金は人間を惑わす根源である。 |
| | 71 | お金は諸悪の根源である。 |
| | 73 | 社会病理的問題は、大部分、お金がもとで引き起こされたり悪化したりするものである。 |
| | 77 | 究極的には、お金は不潔なものか、不潔さを象徴化したものである。 |
| | 79 | 理想社会を確立するには、貨幣制度の廃止が前提条件である。 |
| | 81 | お金が関係してくると、何事も汚れたものになる。 |
| 第3因子:<br>社会や人生を狂わせる<br>マネーゲーム | 27 | 財テク・マネーゲームは経済の活性化に必要なことである。 |
| | 32 | マネーゲームは国や社会を崩壊させてしまうものである。 |
| | 37 | 財テク・マネーゲームは人々の勤労意欲を減退させるものである。 |
| | 39 | 財テク・マネーゲームをやっているとお金のありがたさがわからなくなる。 |
| | 44 | マネーゲームは人生の意義と経済感覚を狂わせる根源である。 |
| | 48 | マネーゲームのようにお金がお金を産むという機構は本来間違っている。 |
| | 54 | 財テク・マネーゲームなどをやるのは賭け事をやるのと同じである。 |

Table 3-6　お金に対する態度尺度の項目（後半）

| | | |
|---|---|---|
| 第4因子:<br>お金の使い方と<br>人生の意義 | 30 | 目先のためだけにお金を使うのはよくない。 |
| | 43 | 無駄金はなるべく使わず、意義のある使い方をすべきである。 |
| | 46 | お金で人間は評価できない。 |
| | 47 | お金の使い道を考え予算をたてることは、自己管理の意味で必要なことである。 |
| | 49 | お金の使い道や予算を考えることは、自分の人生設計を考えることにつながる。 |
| | 50 | お金の使い方でその人の価値観がわかる。 |
| | 61 | お金に対する態度はその人の人間性を反映するものである。 |
| 第5因子:<br>金儲けと使用の楽しみ | 56 | 人は誰しも限られた財産をどうしたら増やせるか考えている。 |
| | 65 | お金儲けはそれだけで楽しみである。 |
| | 66 | お金をもらうのはどんな場合でもうれしいことである。 |
| | 67 | どんな場合でも、お金を使うのは楽しいことである。 |
| | 68 | 贈り物は品物よりお金でもらう方がうれしい。 |
| | 69 | お金を貯めることそのものが楽しみである。 |
| 第6因子:<br>お金の利用と処世術 | 24 | 商売や事業をするには、借金は必要な行為である。 |
| | 40 | 上手な借金は処世術のひとつである。 |
| | 45 | お金を貯めるのは使うためであり、貯めるだけでは意味がない。 |
| | 55 | お金の使い道や予算を考えずに思い切り使うのは楽しいことである。 |
| | 60 | 借金ができるのは、その人に信用があるからである。 |

### 第６項　その他の派生尺度

MAS，MES，MBBS を参考として作成された尺度も複数存在する。

Lim & Teo（1997）では，MAS，MES，MBBS を参考にした項目を用いてシンガポールの大学生に調査を実施した。因子分析の結果，34 項目から 8 下位尺度が得られた。8 下位尺度の内訳は，お金のことを気にしている程度の強さを表す「強迫性」（7 項目），お金を力の象徴とみなすことを表す「勢力」（5 項目），貯蓄行動や貯蓄能力を表す「節約」（5 項目），お金を成功の象徴と考えたり給料を能力の反映と考える程度を示す「達成」（5 項目），お金を他者との比較に用いる程度を表す「評価」（3 項目），お金に対する心配を表す「不安」（4 項目），お金を使うことに関する慎重さを表す「保存」（3 項目），お金を貸したり募金したりしない

程度を表す「不寛容」（3 項目）である。

また，Baker & Hagedorn（2008）も MAS の項目と MBBS の項目をあわせて因子分析を行い，新たな尺度を作成している。MAS の作成者 Yamauchi & Templer と MBBS の作成者 Furnham のイニシャルをとって YTF scale と命名されたこの尺度では，「勢力・名声」（11 項目），「倹約・不信」（11 項目），「計画・節約」（10 項目），「不安」（8 項目）の 4 下位尺度 40 項目が得られている。

### 第 7 項　お金に対する態度を測定する尺度に共通の内容

前節までに紹介した尺度を，下位尺度の内容の観点から整理する。MBBS の「努力・能力」や MES の「達成」などで，お金についての考え方が測定されていた。また，MAS の「保存・時間」や MSSB の「努力・使用」などで，お金についての行動傾向が測定されていた。さらに，MAS の「不安」や MBBS の「強迫性」などで，お金にまつわる感情傾向などが測定されていた。そのため，本論文では，お金に対する態度の下位尺度を，これらの 3 点から整理する。つまり，各尺度について，下位尺度を，認知的側面・行動的側面・感情的側面の 3 内容で分類する。分類結果を Table 3-7 に示した。分類の結果から，お金に対する態度の測定では，認知的側面が 15 下位尺度，行動的側面が 9 下位尺度，感情的側面が 7 下位尺度あることが明らかになった。Lim & Teo（1997）の尺度は，先行研究の項目を用いて新たに因子分析をしたためか，3 側面すべてを含む網羅的な構造になっていた。主要な尺度では，MBBS が網羅的な構造を持っていた一方，MAS は行動的側面を，MES は認知的側面を，重視した構造を持っていた。

また，MBBS の「保存」のように考え方と行動など，3 側面のうち複

数の側面が混在した下位尺度が見受けられた。また，お金に対する態度尺度の「社会や人生を狂わせるマネーゲーム」などは社会についての意見などを問うており，お金に言及していない下位尺度も見受けられた。これは，お金に対する態度に該当しない内容の下位尺度であると考えられる。これらは，それぞれの研究において，お金に対する態度の定義を明確にしてこなかったことの結果であると考えられる。加えて，ひとつの下位尺度に複数の側面が混在しているものと，お金に直接関係しない内容を測定しているものについても,分類した。これらの点についても，定義を明確にしてこなかったことの結果であると考えられる。

これらの尺度の中で，後続の研究で最も頻繁に用いられているのはMES である。MES は認知的側面と行動的側面の下位尺度のみで構成されている。しかし，行動的内容は 6 下位尺度中 1 下位尺度しかなく，尺度全体で考えた場合，認知的内容の下位尺度の比重が大きい。また，先にも述べたように，全ての尺度を含めて考えた場合にも，認知的側面の比重が大きかった。これらのことから，本論文では，認知的側面を中心として扱う。

Table 3-7　既存の尺度の下位尺度の分類

| 製作者<br>（発表年） | Yamauchi & Templer(1982) | Furnham(1984) | Baker & Hagedorn(2008) | Tang(1992) | Tang & Chiu(2003) | Lim & Teo(1997) | Rose & Orr(2007) | 原岡(1990) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 尺度名 | Money Attitude Scale | Money Beliefs and Behaviour Scale | YTF scale | Money Ethic Scale | Love of Money Scale | – | Symbolic Meaning of Money Scale | お金に対する態度尺度 |
| 認知的側面 | | 努力・能力<br>（Effort/Ability） | | 達成<br>（Achievement）<br>尊敬・自尊心<br>（Respect-Self-esteem）<br>自由・勢力<br>（Freedom-Power）<br>善<br>（Good）<br>悪<br>（Evil） | 成功<br>（Success）<br>動機づけ<br>（Motivator）<br>重要性<br>（Importance） | 勢力<br>（Power）<br>達成<br>（Achievement）<br>強迫性<br>（Obsession） | 達成<br>（Achievement） | お金の社会的価値<br>社会における<br>諸悪の根源 |
| 行動的側面 | 保存・時間<br>（Retention-Time）<br>〔質（Quality）〕<br>勢力・名声<br>（Power-Prestige） | 勢力・使用<br>（Power/Spending） | 計画・節約<br>（Planning-Saving）<br>勢力・名声<br>（Power-Prestige） | 節約<br>（Budget） | | 節約<br>（Budget）<br>不寛容<br>（Non-generous） | 社会的地位<br>（Status） | |
| 感情的側面 | 不安<br>（Anxiety） | 強迫性<br>（Obsession） | 不安<br>（Anxiety） | | | 不安<br>（Anxiety） | 心配<br>（Worry）<br>安心<br>（Security） | 金儲けと<br>使用の楽しみ |
| 複数の側面が混在している | | 保存<br>（Retention） | 倹約・不信<br>（Frugality-Distrust） | | | 保存<br>（Retention） | | |
| お金に直接関係しない | 不信<br>（Distrust） | 安心・保守的<br>（Security/Conservative）<br>不足<br>（Inadequate） | | | 裕福<br>（Rich） | 評価<br>（Evaluation） | | 社会や人生を<br>狂わせるマネーゲーム<br>お金の使い方と<br>人生の意義<br>お金の利用と<br>処世術 |
| 下位尺度数（項目数） | 4（29） | 6（51） | 4（40） | 6（30） | 4（17） | 8（34） | 4（19） | 6（53） |
| 作成国 | アメリカ | イギリス | カナダ | アメリカ | 香港 | シンガポール | アメリカ | 日本 |

## 第２節　本論文におけるお金に対する態度の定義

本節では，前節の既存尺度の概観に基づいて，本論文におけるお金に対する態度の定義（第１項）と，「お金」の定義（第２項）を行う。

### 第１項　「お金に対する態度」の定義

本論文では，前節の整理より，「お金に対する態度」を「お金に対する認知・行動・感情の個人差」と定義する。「認知」とは，お金に対する考え方を指す。お金に対する認知とは，お金をどのようなものと捉えているかなどが含まれる。「行動」とは，お金を用いた行動の傾向を指す。お金に対する行動には，お金をどのように使いやすいかなどが含まれる。「感情」とは，お金に接した際の感情傾向を指す。お金に対する感情には，お金を意識した際の感情の反応の傾向などが含まれる。

### 第２項　「お金に対する信念」の定義

本論文では特に，お金に対する態度の中でも，認知的な面での個人差に焦点を当てて研究を行うこととする。その場合に，お金に関する認知の個人差を「お金に対する信念」と呼ぶこととする。つまり，本論文では，「お金に対する信念」を「お金に対する認知の個人差」と定義する。なお，「認知」の語を用いない理由は，本研究ではお金に関する考え方の正しさを問題としないためである。つまり，正しいか正しくないかは別として，個々人がそのように考えている状態を適切に表現するために，「信念」の語を用いる。

### 第３項　「お金」の定義

前節において概観した既存の各尺度において，お金は次のようにとらえられていると考えられる。まず，認知的側面では，お金は自己の社会的なあり方を知る手掛かりとして活用されるものであることが示唆されていた。また，行動的側面では，お金は道具として，管理の対象となる

ものであることが示唆されていた。さらに，感情的側面では，お金は人に何らかの影響を与えるものとされていた。これらのことから，「お金」とは，人から管理されると同時に，人に対して，行動の変容や感情の喚起など，心理的な影響を与えるものであると結論づけることが可能である。よって，本論文では，第 1 章第 4 節で述べた心理学以外の学問領域における指摘を踏まえた上で，「お金」を，「貨幣の形態を取り，人に対して心理的，行動的な影響を与える価値資源」と定義する。

# 第４章　　お金に対する態度の関連研究の整理

お金に対する態度の先行研究を，就業領域（第１節）と購買領域（第2節）に分け，それぞれ概観する。

## 第１節　就業領域におけるお金に対する態度

本節では，就業に関連した行動や考え方とお金に対する態度について概観する。第１項ではお金に対する態度と就業状態について，第２項ではお金に対する態度と就業中の行動について，それぞれ概観する。

### 第１項　お金に対する態度と就業状態

お金に対する態度と就業状態の関連が検討されている。福祉施設職員においては，お金は良いものと考え，お金の管理を十分に行っており，お金は自由や安心を与えてくれると考えているほど内的な職業満足感が高く，お金を悪いものと考えているほど内的な職業満足感は低かった（Tang & Gilbert, 1995）。加えて，お金に対する態度の得点と職業満足感が，18ヶ月後の退職を予測した（Tang, Kim, & Tang, 2000）。さらに，お金に対する態度の得点が，実際の収入とともに，Quality of Life に有意な影響を与えることも明らかになっている（Tang, 2007）。

一方で，就業状態の判別の試みもある。大学生の就業状態の判別にお金に対する態度が寄与するか確かめた Tang, Kim, & Tang（2002）では，お金に対する態度の得点は，フルタイム就業者，パートタイム就業の大学生，就業していない大学生の３群の判別に寄与しなかった。類似の研究として，生活保護受給者を対象とした Tang & Smith-Brandon（2001）がある。現在生活保護を受けている「生活保護群」，生活保護を受けながら職業訓練を受けている「職業訓練群」，以前生活保護を受けていたが現在は職に就き生活保護の受給を終了している「再就職群」の３群におい

て，お金に対する態度の得点に差が見られた。生活保護群では，お金を悪いものと考える程度が他より高く，お金を良いものと考える程度，お金は自分の評価につながっていると考える程度，お金の管理を十分に行っていると考える程度，お金は自由や安心を与えてくれると考える程度が他より低かった。

### 第２項　　お金に対する態度と就業中の行動

就業中の行動に関する研究としては，職務中の非倫理的行為や援助行動が取り上げられている。職務中の非倫理的行為，つまり勤務先の商品を自分のものにしてしまう，会社の備品を私的に使用するといった行為は，お金に対する態度と関連することが明らかになっている。香港のビジネスマンを対象とした Tang & Chiu（2003）では，LOMS の得点が非倫理的行為と正の関連を示した。その一方で，収入と非倫理的行為の関連は，LOMS と非倫理的行為の関連よりも絶対値の小さい弱い負の関連であった。これは，実際にどれだけの額を給与として受け取っているかよりも，お金に対してどう考えたり感じたりしているかの方が非倫理的行為と強く関連することを示唆する結果であり，デモグラフィックな変数よりも，心理的な変数が行為を強く予測する可能性を示している。

就業中の援助行動については，Tang, Sutarso, Davis, Dolinski, Ibrahim, & Wagner（2008）において，援助行動に対する内的な動機づけと実際の援助行動に正の関連がある一方で，LOMS と援助行動に対する外的な動機づけには正の関連があり，外的な動機づけと実際の援助行動には負の関連があるというモデルが示されている。つまり，お金に対して積極的な態度を持つ場合，間接的に，職場における他者への援助行動が抑制されるというモデルであり，お金に対する態度が，お金に関係ない行動を抑制してしまうことが示唆される。

以上のことより,お金に対する積極的な態度は非倫理的行為を促進し,援助行動を抑制するなど，向社会的な行動を抑制する役割を持つと考えられる。

### 第３項　　お金に対する態度と給与についての認知

お金に対する態度は，給与に関する認知との関連も示されている。お金に積極的な態度の男性はお金に消極的な男性と比べ，自分よりも地位の高い相手にはより多くの給与を配分し，自分よりも地位の低い相手にはより少ない給与を配分する傾向があった（Tang, 1996)。これは，お金に対する態度の違いによって適正と感じられる給与のレベルに差があることを示唆している。

## 第２節　購買領域におけるお金に対する態度

本節では，購買に関連した行動や考え方とお金に対する態度について概観する。第１項ではお金に対する態度とクレジットカードの保有および利用の関連について，第２項ではお金に対する態度と強迫的な買い物行動について，第３項ではお金に対する態度と消費者の非倫理的な考え方について，それぞれ概観する。

### 第１項　　お金に対する態度とクレジットカード

モノを買う際には，現金で支払う他に，クレジットカードを利用することも可能である。クレジットカードを持っているかどうかを扱った Hayhoe, Leach, & Turner（1999）では，持っていない大学生は持っている大学生よりも，お金を強く信頼し，浪費をしていなかった。また，カードの保有枚数別では，1~3 枚の保有者は，4 枚以上の保有者と比べ，給料はその人の能力の評価だという考えが低かった。

利用頻度に焦点を当てた Roberts & Jones（2001）では，自分を他者

に印象づけるようなお金の使い方をする傾向の高い者ほど，また，お金を不安感と結びつけて考える傾向が高い者ほど，クレジットカードの利用頻度が高かった。

カード利用の適切さを扱った Tokunaga（1993）では，カードの利用に問題のある者とない者では，問題のある者の方が自分を他者に印象づけるようなお金の使い方をする程度が高かった。また，同様に，問題のある者の方がお金を不安感と結びつけて考える程度が高かった。一方，問題のない者の方が無駄遣いをしない程度が高かった。

### 第２項　お金に対する態度と強迫的な買い物行動

度を超えた購買行動との関連も検討されている。Hanley & Wilhelm（1992）では，強迫的に買い物をする者は，そうでない者と比べて，お金を強く信頼し，自分を他者に印象づけるようなお金の使い方を好み，浪費をしておらず，お金が足りないと感じている一方，お金に対して保守的ではない考えを持っていた。Roberts & Jones（2001）でも，自分を他者に印象づけるようなお金の使い方をする傾向の高い者ほど,また，お金を不安感と結びつけて考える傾向が高い者ほど，強迫的な買い物をする傾向にあった。

### 第３項　お金に対する態度と消費者の非倫理的信念

消費者の倫理的信念との関連も検討されている。お金に対して積極的な考えを持っている人ほど，軽度の非倫理的信念を受容する傾向にあることが明らかになっている（Vitell, Singh, & Paolillo, 2007; Vitell, Paolillo, & Singh, 2006）。非倫理的信念の受容として，レジでおつりを多くもらってしまった場合でも黙っておく，期限切れの割引券を使うなどのことを受容する度合いが測定されている。つまり，お金に対する積極的な態度は，不適切な社会行動を促進する役割を持つと考えられる。

## 第３節　お金に対する態度の位置づけ

第１節および第２節において，お金に対する態度と就業および消費の関連を検討した研究を概観した。関連研究は，お金に対する態度を何らかの行動の規定因として扱ったものと，お金に対する態度を何らかの状況の結果として扱ったものに大別されると考えられる。関連研究を，お金に対する態度を規定因と捉えたもの，結果と捉えたもの，いずれかは判別ができないものに分類した結果を Table 4-1 に示した。

### 第１項　就業領域におけるお金に対する態度の位置づけ

第４章第１節では，就業領域におけるお金に対する態度の研究を紹介した。それらの中で，お金に対する態度を何らかの行動の規定因として扱った研究としては，福祉施設職員の就業状態を扱った Tang & Gilbert（1995）や Tang, Kim, & Tang（2000）および Tang（2007），就業中の非倫理的行為に焦点を当てた Tang & Chiu（2003），就業中の援助行動に焦点を当てた Tang et al.（2008）などがある。

一方，就業領域で，お金に対する態度を何らかの状況の結果として扱った研究としては，大学生の就業状態の判別を試みた Tang, Kim, & Tang（2002）や生活保護受給者に焦点を当てた Tang & Smith-Brandon（2001）がある。

### 第２項　購買領域におけるお金に対する態度の位置づけ

第４章第２節では，購買領域におけるお金に対する態度の研究を紹介した。それらの中で，お金に対する態度を何らかの行動の規定因として扱った研究としては，クレジットカードの利用頻度に焦点を当てた Roberts & Jones（2001），消費者の倫理的信念に焦点を当てた Vitell, Singh, & Paolillo（2007）および Vitell, Paolillo, & Singh（2006）がある。

一方，購買領域でお金に対する態度を何らかの状況の結果として扱った研究としては，クレジットカードの保有に焦点を当てた Hayhoe, Leach, & Turner（1999）がある。

購買領域では，いずれの因果モデルを想定したか判別しがたい研究も存在する。カード利用の適切さを扱った Tokunaga（1993）や強迫的な買い物行動を扱った Hanley & Wilhelm（1992）は，問題のある購買行動が，お金に対する態度の結果として想定されているのか，問題のある購買行動によってお金に対する態度に影響が見られるのか，いずれの方向も想定可能である。

Table 4-1　お金に対する態度の位置づけの分類

| | お金に対する態度の位置づけ | | |
|---|---|---|---|
| | 規定因 | 結果 | 判別不能 |
| 就業領域 | Tang & Gilbert(1995)<br>Tang, Kim, & Tang(2000)<br>Tang(2007)<br>Tang & Chiu(2003)<br>Tang et al.(2008) | Tang, Kim, & Tang(2002)<br>Tang & Smith-Brandon(2001) | |
| 購買領域 | Roberts & Jones(2001)<br>Vitell, Singh, & Paolillo(2007)<br>Vitell, Paolillo, & Singh(2006) | Hayhoe, Leach, & Turner(1999) | Tokunaga(1993)<br>Hanley & Wilhelm(1992) |

# 第５章　　本論文の目的

本章では，第 2 章から第 4 章の問題点を指摘し，本論文での対応を述べた後（第 1 節），本論文の目的を述べる（第 2 節）。

## 第１節　先行研究の問題点と本論文における対応

### 第１項　社会化の視点の欠如

これまでのお金に対する態度の研究では，主に購買と就業が取り上げられてきた。一方で，お小遣いの研究（竹尾ら，2009）では子どもの社会化，お金の機能の研究（Vohs, Mead, & Goode, 2006; Zhou, Vohs, & Baumeister, 2009）ではお金の社会的な機能などが扱われており，お金によって人が社会とつながっていることが強調されてきた。しかし，お金に対する態度の研究では，購買と就業という，比較的個人的な過程が中心的に扱われてきたため，社会化の視点がやや欠けていると考えられる。そこで，本論文では，お金に対する態度研究に，社会化の視点を取り入れる。社会化とは,「個人がその属する社会の価値観を取り入れていく過程」（子安，1999）とされている。この定義に照らすと，納税や募金など，お金を媒介とした社会との望ましい関わり方が形成されていく過程も社会化の一種と考えられる。そこで，本論文では社会化によって形成される社会と関わる状態を指して，社会参加と呼ぶこととする。これまで，お金に対する態度と社会参加の研究は見当たらない。そこで，本論文では社会参加についても取り上げる。

### 第２項　調査対象者の属性の特殊性

これまでのお金に対する態度の研究では，その機能を明らかにするため，研究ごとに適切と考えられる調査協力者を募ってきた。職務継続では福祉施設職員（Tang & Gilbert, 1995），再社会参加では生活保護受給

者と受給経験者（Tang & Smith-Brandon, 2001），職務中の非倫理的行為では香港のビジネスマン（Tang & Chiu, 2003）が調査協力者となっている。一方で，購買行動やクレジットカードの所有や利用では大学生（Roberts & Jones, 2001; Hayhoe, Leach & Turner, 1999）が調査協力者となっている。

これらはお金に対する態度の機能を明らかにするための適切な調査協力者であるが，これまでの研究知見は特殊な社会的属性を持つ調査対象者が多く含まれており，研究を概観した場合，一般的な結論を導くことは困難となっている。

本論文では，この点について，調査対象者を，大学生を中心とすることで対応する。大学生は，年齢としては 18 歳から 22 歳が中心であり，権利上は，成人と同等の様々なお金に関連する行動をとることが可能である。たとえば，労働領域では，18 歳から深夜の業務に従事することが可能となる。また，購買領域では 20 歳から様々な契約を結ぶことが可能となる。このように，大学生は高校生までと比較して，お金に関連する行動の種類が格段に増える。当然ながら，大学生のほとんどはまだ職についておらず，多様な経済的行動などを含めた知見の一般化のためには社会人で調査を行うことが望ましい。しかしながら，社会人では，最終学歴，職種，現在の収入，年齢，それまでの社会経験など，多くの要素でばらつきが生じていることが想定される。その点で，大学生は，ある程度均質な群と想定することができる。そのため，お金に対する態度の差によって判断や行動に差が生じることを確認するための調査協力者として，大学生は適切な集団である。なお，原岡（1990）でも大学生を対象としていることから，お金に対する態度研究において，大学生には十分な回答能力があると考えられる。

### 第３項　　お金に対する態度概念への様々な要素の混在

これまで，複数の研究者によりお金に対する態度を測定する尺度が作成されてきた。しかし，お金に対する態度の定義の明文化は行われなかった。また,「態度」の各尺度の中に認知的・行動的・感情的な内容の項目が偏って含まれていた。このように，不十分な測定が行われてきた。そのため，これまでの研究で，尺度の内容として表現された内容を参照し，定義を明確にする必要があった。また，同一尺度内で異なる水準の内容が測定されないよう，新たな尺度の作成が必要と考えられる。そこで，本論文では,「お金に対する態度」を「お金に関する認知・感情・行動の個人差」と定義した上で，お金に対する態度の中でも特に重要と考えられる，認知的側面，すなわちお金に対する信念を中心に測定を行うことで対応する。

### 第４項　　対象とした領域の偏り

これまでの研究を，どのような領域を想定したものかによって分類した場合，商品の購買領域と就業領域に研究が集中していた。しかし，お金は生活上広く用いられているため，これらの領域のみで十分とは考えにくい。経済学では家計を「支出」･「貯蓄」･「収入」の３機能で捉えるが，購買領域は「支出」に，就業領域は「収入」に対応するものと考えられる。一方で,「貯蓄」機能についてはお金に対する態度の役割が明らかになっていない。そこで,本論文では,「支出」に対応する意識として，消費意識を,「貯蓄」に対応する意識として貯蓄意識を,「収入」に対応する意識として職業意識を取り上げ，お金に対する態度と個人の家計管理全般の関係を扱う。「収入」のみ，職業意識として間接的に扱うのは，大学生にとっての収入は，奨学金や親からの仕送りなどが主であると想定され，現在の収入が経済的な活動によるものではないと考えられるた

めである。むしろ，大学生においては現在収入を得ることよりも，将来的に収入を得ることの方が長期的にみて重要な発達上の課題である。そのため，将来的に収入を得ることを予測する変数として，職業意識を取り上げる。

また，お金は社会全体で用いられる道具であり，社会ともやり取りされている。例えば，募金をしたり，税金を納めたり，社会保障制度を利用して給付金を受けたりすることが，これに該当する。そこで，これらの点については，第 1 項と同様，社会参加の観点から取り扱うこととする。

以上のように，本論文では，お金についての信念を家計管理に関わる領域と，社会参加に関わる 2 つの領域で検討する。

なお，職業は，「個人が行う仕事で、報酬を伴うか又は報酬を目的とするもの」と定義されており（総務省，2009），報酬を伴うことが要件であることが強調されている。当然，報酬は社会的組織からもたらされるものであることから，職業は社会的な性質の強い活動であると考えられる。また，尾高（1941）も，職業の 3 要素として，個人，社会，経済の観点を挙げていることから，職業は社会的な営みであり，社会参加領域で扱うことが自然であるとも考えられる。しかしながら，本論文においては，家計管理領域において収入，貯蓄，消費で構成される家計の構造を踏襲するにあたり，前述した通り，収入に関しては長期的な適応性を優先して，職業意識を用いることとした。

また，社会参加においては，募金，納税，社会保障制度の利用などを扱うが，これらの活動は，日常生活の中で必要に応じて時間を割いて行うものであり，平日の間 1 日の多くの時間を割いて行う活動である労働とは性質が異なっている。そのため，社会参加領域において，これらの

活動と職業意識とを並列で扱うことには困難が伴うと判断し，本研究における社会参加領域には職業の問題を含めないこととした。

### 第５項　お金に対する態度の時間的前後関係についての立場

第４章第３節で見たように，お金に対する態度の関連研究は，お金に対する態度を何らかの行動の規定因として扱ったものと，お金に対する態度を何らかの状況の結果として扱ったものに大別された。

当然ながら，お金に対する態度が何らかの行動を促進し，その結果社会的状況の変化が生じ,お金が得られたり失われたりすることによって，お金に対する態度に変化が起こるというような循環的なモデルが生活上では想定され得る。お金に対する態度が何らかの行動を促進し，その結果社会的状況の変化が生じ，お金が得られたり失われたりする部分は，お金に対する態度を何らかの行動の規定因として扱った研究に反映されていると考えられる。また，社会的状況の変化が生じ，お金が得られたり失われたりすることによって，お金に対する態度に変化が起こる部分は，お金に対する態度を何らかの状況の結果として扱った研究に反映されていると考えられる。

本研究では，社会的状況の変化が生じにくい時期である大学生を対象とすることから，お金に対する態度を行動の規定因として扱うこととする。本論文の立場を図示すると Figure 5-1 のようになる。

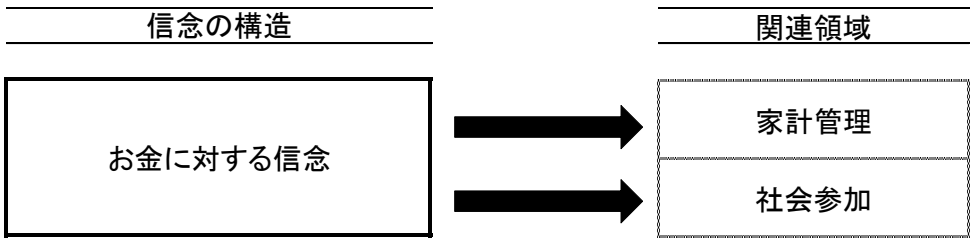


Figure 5-1　本論文におけるお金に対する態度の扱い

### 第 2 節　　本論文の目的

本論文では，次の 3 点を目的とする。第一の目的は，お金に対する信念を測定する，信頼性と妥当性を備えた尺度の作成である（第 6 章）。調査対象は大学生とし，お金に対する態度の中でも認知に焦点を当てた尺度作成を行う。

第二の目的は，お金に対する信念が家計管理領域でどのような役割を果たしているか明らかにすることである（第 7 章）。そのために，消費，貯蓄，職業の 3 点に着目して調査を行う。

第三の目的は，お金に対する信念が社会参加領域でどのような役割を果たしているか明らかにすることである（第 8 章）。社会参加については，募金行動の他，経済的な面で社会に参加していこうとする意識について扱う。

そして，これらの結果を総合し，お金に対する信念の構造と関連領域についての理論モデルを提出することを目指す。

# 第Ⅱ部　実証的検討

# 第６章　　お金に対する信念の測定尺度の開発

本章では，お金に対する信念を測定する尺度を新たに作成する。第 1 節では，文章完成法を用いて，お金に対する信念の内容を探索的に検討する。第 2 節では，お金に対する信念を測定する項目を作成し，予備的に因子分析を行う。第 3 節では，第 2 節の結果を受け，項目の追加を行った後，改めて因子分析を行う。また，妥当性も検討する。第 4 節では，お金に対する信念尺度の再検査信頼性を確認する。第 5 節では，web パネル調査を用いて 20～60 代の成人男女へのお金に対する信念尺度の適用可能性を確認するとともに，デモグラフィックな変数と尺度得点の関連を検討する。加えて，成人男女のデータと，大学生のデータを比較し，大学生の特徴について述べる。

## 第１節　お金に対する信念の内容の検討【研究 1】

### 第１項　目的

お金に対する信念の内容を探索的に検討することを目的とする。そのため，文章完成法を用いて調査を行う。

### 第２項　方法

調査時期　2010 年 2 月から 5 月にかけて調査を実施した。

調査対象　関東地方の国立大学 1 校および私立大学 3 校の大学生および大学院生 146 名（男性 58 名，女性 86 名，不明 2 名：平均年齢 24.72 歳，*SD*=8.93）が協力した。

調査内容　「あなたにとって，『お金』はどのようなものですか（お金の意味や，お金の性質など）。」と教示し，「お金は，＿＿。」という未完の文章を完成させる手続きをとった。記入欄は，5 つ用意した。なお，質問紙には，その他の項目も複数含まれていたが，解析の対象としないた

め記述しない（以下，全ての研究において同様）。

調査方法　授業時間の一部を利用して実施した。

### 第３項　　結果

得られた535件の記述を，筆者および心理学を専攻する大学院生２名の合計３名で分類し，９カテゴリーを得た。１人あたり平均3.66件の記述を行っていた。得られたカテゴリーは，「重要性」，「人への影響源」，「労働とのつながり」，「トラブルの原因」，「道具的側面」，「感情・気持ち」，「両面的価値」，「慣用句」，「規範」であった（Table 6-1）。

「重要性」は「お金は生活に必要不可欠だ」などの，お金の重要性に関する記述で構成されていた。「人への影響源」は「お金は人を変える」といった，お金が人に影響を与えているという内容の記述で構成されていた。なお，「人への影響源」に分類された記述には，「お金は人を狂わせる」といったネガティブな影響への言及と，「お金は自由を与えてくれる」といったポジティブな影響への言及があった。「労働のつながり」は「お金は働いて得るものだ」といった，お金と労働の関連性に言及する記述で構成されていた。「トラブルの原因」は「お金はトラブルの原因だ」といった，お金が対人関係上の問題を起こすことに言及する記述で構成されていた。「道具的側面」は，「お金は物を買える」といった，お金が備えている普遍的な性質に言及する記述で構成されていた。「感情・気持ち」は「お金はこわいものだ」といった，お金に関するイメージや感情を述べた記述で構成されていた。「両面的価値」は，「お金はありすぎると不幸になる」といったように，お金の良い面と悪い面の両方に言及した記述で構成されていた。「慣用句」は「お金は天下の回りもの」という慣用句に関する記述で構成されていた。「規範」は「お金は貸してはいけない」といった，行動の規範に言及した記述で構成されていた。

Table 6-1　お金に対する信念の内容の分類結果

| カテゴリー | 尺度への採用[注1)] | 内容 | 記述数 |
|---|---|---|---|
| 重要性 | ○ | お金の重要さ，有用さ。 | 215 |
| 人への影響 | ○[注2)] | お金は人にポジティブ・ネガティブな影響を与える。 | 58 |
| 労働とのつながり | ○ | お金は仕事の結果得られるもの。 | 30 |
| トラブルの原因 | ○ | お金は対人関係のトラブルのもとになる。 | 14 |
| 道具的側面 | △ | お金の機能について。 | 70 |
| 感情・気持ち | × | お金は汚い，こわい等。 | 85 |
| 両面的価値 | △ | お金の他にも大切なものがある。 | 22 |
| 慣用句 | × | “お金は天下の回りものだ。” | 8 |
| 規範 | × | お金は～すべき，～すべきではない。 | 3 |
| その他 | | | 30 |
| | | | 535 |

注1）○は尺度に採用した概念。△は，お金に対する信念と考えられるが，個人差の測定に適さないと判断した概念。×はお金に対する信念ではない概念。

注2）影響の方向性を考慮し，“ポジティブな影響源”と“ネガティブな影響源”に分割して利用することとした。

### 第４項　　考察

お金に対する信念の内容を探索的に検討することを目的として，文章完成法による調査を行った。分類の結果，「重要性」，「人への影響源」，「労働とのつながり」，「トラブルの原因」，「道具的側面」，「感情・気持ち」，「両面的価値」，「慣用句」，「規範」の 9 カテゴリーを得た。

尺度の作成のために，得られたカテゴリーから，お金に対する信念の概念に合致しないカテゴリーおよび尺度の構成が困難と考えられたカテゴリーを除外することとした。お金に対する信念の概念に合致しないと考えられるため，「感情・気持ち」，「規範」，「道具的側面」，「慣用句」の 4 カテゴリーを除外した。「感情・気持ち」は，お金に関連して生じる感情についての内容であり，お金に対する信念とは異なるものと判断される。また，同様に「規範」もお金を使う振る舞いについての内容であるため，不適合と判断される。さらに，「道具的側面」と「慣用句」はお金の普遍的な性質を指摘しただけの内容であるため，不適合と判断した。

また，尺度の構成が困難と考えられるものとして「両面的価値」のカ

テゴリーを除外した。「両面的価値」を測定するには，質問項目が複雑な内容にならざるをえないため，尺度に採用することは困難であると判断した。残ったカテゴリーを簡潔な尺度構成が可能である内容であると判断して，尺度に使用する概念として採用することにした。

内容から，尺度には，記述数が多く内容としてもお金に対する信念の個人差を測定することが可能と考えられる「重要性」,「ポジティブな影響源」,「ネガティブな影響源」,「労働とのつながり」,「トラブルの原因」の 5 カテゴリーを採用した。「重要性」は，生活の上でのお金の必要性を示した内容であった。「ポジティブな影響源」は,お金が人間に対して，余裕などの心理的に良い影響をもたらすという内容であった。「ネガティブな影響源」は，お金が人間に対して心理的に悪い影響をもたらすという内容であった。「ポジティブな影響源」と「ネガティブな影響源」は当初「人への影響」というカテゴリーにまとめられていたが，影響の性質を考慮し，分割して利用することとした。「労働とのつながり」は，お金は労働に関連したものだという内容であった。「トラブルの原因」は，お金があると対人関係などに問題が起こりやすくなるといった内容であった。

## 第２節　お金に対する信念の項目の作成および予備的調査【研究２】

### 第１項　目的

研究１で採用することとしたお金に対する信念の概念に基づいて項目を作成し，予備的に因子分析を行うことを目的とする。

### 第２項　方法

調査時期　2010 年 6 月に実施した。

調査対象　関東地方の国立大学１校および私立大学１校の大学生 313 名（男性 178 名，女性 126 名，不明 9 名：平均年齢 19.07 歳，*SD*=1.62）が協力した。

調査内容　5 カテゴリーに対して 42 項目を作成した。作成した項目については，心理学を専門とする大学教員 1 名および大学院生 1 名が内容を確認し，修正を行った。「お金に対して，あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく，あなた自身が考えていることについて答えてください。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか，○をつけて答えてください。あまり深く考え込まずに回答してください」と教示し，「そう思う」から「そう思わない」の 5 件法で回答を求めた。

調査方法　授業時間の一部を利用して実施した。

### 第３項　結果

最尤法・プロマックス回転による因子分析を行った。固有値の推移は，7.33，5.93，3.75，2.41，1.84，1.44，1.38…であった。よって，固有値の推移と解釈可能性から 5 因子解を採用することとした。どの因子にも.40 未満の負荷量しか示さなかった 8 項目を削除して再度分析を行い，34 項目から構成される 5 因子解の結果を得た。全体の説明率は，50.02%であった。結果を Table 6-2 に示した。

第 1 因子には,「ネガティブな影響源」と「トラブルの原因」に対応して作成した項目が高い負荷量を示したため,「ネガティブな影響源」因子と命名した。

第 2 因子には,「ポジティブな影響源」に対応して作成した項目が高い負荷を示したため,「ポジティブな影響源」因子と命名した。

第 3 因子には,「重要性」に対応して作成した項目が高い負荷を示したため,「重要性」因子と命名した。

第 4 因子には,「労働とのつながり」に対応して作成した項目のうち,お金を手に入れることの困難性を表す項目が高い負荷量を示したため,「獲得困難性」因子と命名した。

第 5 因子には,「労働とのつながり」に対応して作成した項目のうち,お金を自分のした仕事の対価と捉える項目が高い負荷量を示したため,「労働の対価」因子と命名した。

Table 6-2　お金に対する信念項目の予備因子分析の結果

| 番号 | 当初の想定[注1)] | | F1 | F2 | F3 | F4 | F5 | 共通性 | *M* | *SD* |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | T | お金は、仲たがいのもとだ | .81 | -.01 | .09 | .03 | -.05 | .67 | 3.02 | 0.97 |
| 39 | T | お金があると、もめごとが起こるものだ | .79 | -.02 | .08 | .06 | -.05 | .64 | 3.29 | 0.93 |
| 19 | T | お金は、人間関係を壊す | .79 | -.06 | .01 | -.01 | -.08 | .62 | 2.94 | 0.99 |
| 41 | T | お金は、いざこざの原因だ | .79 | -.08 | .09 | .02 | -.06 | .64 | 3.28 | 0.93 |
| 14 | T | お金は、人間関係を悪くするものだ | .76 | -.13 | .01 | -.13 | .06 | .62 | 2.88 | 0.99 |
| 17 | N | お金は、人を意地汚くする | .68 | .03 | -.08 | .00 | -.01 | .46 | 3.24 | 0.98 |
| 7 | N | お金は、人をダメにする | .68 | .05 | -.12 | -.03 | .12 | .50 | 3.25 | 1.06 |
| 33 | N | お金は、人を不幸にする | .64 | .00 | -.11 | -.12 | -.02 | .42 | 2.48 | 0.91 |
| 12 | N | お金があると、人はダメになる | .61 | .04 | -.07 | -.08 | .13 | .40 | 2.91 | 1.04 |
| 26 | N | お金があると、人は悪いことを考えるようになる | .60 | -.04 | .05 | -.04 | .03 | .37 | 2.86 | 0.97 |
| 4 | T | お金は、トラブルの原因だ | .53 | .12 | -.05 | .24 | .00 | .36 | 4.02 | 0.83 |
| 9 | T | お金は、争いをうむ | .53 | .09 | .00 | .17 | -.10 | .31 | 3.99 | 0.85 |
| 30 | N | お金があると、心が貧しくなると思う | .52 | -.03 | -.08 | -.11 | .07 | .30 | 2.46 | 0.92 |
| 22 | N | お金は、人の心を惑わす | .51 | .08 | .14 | .12 | -.01 | .33 | 3.91 | 0.84 |
| 16 | P | お金があると、心に余裕が生まれる | .01 | .77 | -.08 | .04 | -.03 | .54 | 3.96 | 0.83 |
| 2 | P | お金は、人にゆとりを与えるものだ | .02 | .73 | -.05 | .01 | .03 | .50 | 4.18 | 0.87 |
| 11 | P | お金があると、心が豊かになる | -.08 | .66 | -.03 | .00 | -.09 | .43 | 3.10 | 1.10 |
| 6 | P | お金は、人に自由を与えると思う | -.02 | .64 | .03 | .01 | -.07 | .43 | 3.71 | 1.00 |
| 21 | P | お金は、人を幸せにする | .03 | .60 | .18 | -.11 | .04 | .49 | 3.56 | 0.90 |
| 29 | P | お金は、人に活力をくれるものだ | .01 | .60 | .14 | -.06 | .08 | .47 | 3.74 | 0.85 |
| 15 | I | お金は、非常に重要なものだ | .06 | -.03 | .80 | -.05 | -.06 | .61 | 3.95 | 0.95 |
| 20 | I | お金は、生きていくためにとても必要なものだ | -.01 | -.07 | .79 | -.03 | .06 | .58 | 4.43 | 0.71 |
| 32 | I | お金は、大切だ | -.08 | .00 | .68 | .15 | -.03 | .52 | 4.49 | 0.66 |
| 5 | I | お金は、とても価値があるものだ | -.05 | .09 | .67 | -.12 | .02 | .49 | 3.91 | 0.92 |
| 36 | I | お金は、必要不可欠なものだ | .04 | .15 | .54 | .05 | .05 | .43 | 4.27 | 0.84 |
| 34 | W | お金は、得るのが大変だ | -.02 | .00 | .01 | .84 | .00 | .71 | 4.29 | 0.73 |
| 31 | W | お金は、稼ぐのが難しい | .02 | .03 | -.07 | .80 | -.08 | .60 | 4.22 | 0.77 |
| 38 | W | お金は、簡単には手に入らないものだ | -.03 | -.07 | .02 | .74 | .18 | .64 | 4.30 | 0.72 |
| 27 | W | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ | .01 | -.04 | .01 | .70 | .01 | .50 | 4.52 | 0.74 |
| 23 | W | お金は、労働の対価だ | -.05 | .03 | .06 | .04 | .78 | .64 | 3.99 | 0.88 |
| 13 | W | お金は、自分で働いて稼ぐものだ | .03 | -.10 | -.02 | .02 | .75 | .56 | 4.30 | 0.82 |
| 18 | W | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う | .07 | .13 | -.04 | -.01 | .69 | .53 | 3.74 | 1.04 |
| 3 | W | お金は、働いて得るものだ | -.05 | -.21 | .06 | .02 | .64 | .41 | 4.43 | 0.79 |
| 42 | W | お金は、自分のした仕事の評価だ | .02 | .29 | -.07 | .01 | .42 | .29 | 3.71 | 1.02 |
| | | 説明率 | | | | | | 50.02% | | |
| | | 因子関相関 | F1 | -.07 | .07 | .09 | .20 | | | |
| | | | F2 | | .47 | .12 | .16 | | | |
| | | | F3 | | | .28 | .12 | | | |
| | | | F4 | | | | .28 | | | |

注1）T：トラブルの原因，N：ネガティブな影響源，P：ポジティブな影響源，I：重要性，W：仕事とのつながり。
注2）*M*，*SD*については，欠損値のない全てのデータを用いた。

## 第４項　　考察

お金に対する信念を測定する項目を作成して調査を行い，因子分析を行った。

「ポジティブな影響源」と「重要性」については当初想定していた通りの因子が得られた。「ポジティブな影響源」は，お金は人によい影響をもたらすという信念であった。「重要性」は，お金は大切であるという信念であった。

一方で，当初の想定とは異なる因子が得られた部分もあった。「トラブルの原因」が「ネガティブな影響源」と共に 1 因子を構成した点は想定と異なる結果であった。お金が人との間でトラブルを引き起こすことは，お金が人に悪い影響を与えた結果であるので，同一因子となったと考えられる。新たに得られた因子については，お金が人に悪い影響を与えた結果として，トラブルが生じるという過程が想定可能であり，お金が人に悪い影響を与えることが基盤になっていると考えられたため,「ネガティブな影響源」と命名した。

また,「労働とのつながり」に対応して作成した項目が，2 因子を別々に構成した。「獲得困難性」と「労働の対価」の 2 因子はそれぞれ，お金の入手は難しいものであるという考えと，お金は働いた結果手に入るものであるという考えであった。これらの 2 因子は，入手について，積極的なあり方と，消極的なあり方を示した内容であると考えられる。そのため，異なる因子を形成したと考えられる。

## 第３節　お金に対する信念尺度の作成および妥当性の検討【研究３】

### 第１項　目的

研究２で見出された因子に基づき，内的一貫性と妥当性を備えた「お金に対する信念尺度」を作成することを目的とする。3 種類の既存尺度および，アルバイトの状態を問う項目を用いて，併存的妥当性および構成概念妥当性の検討を行う。

第一の既存尺度は，お金に対する態度尺度（原岡，1990）である。お金に対する信念尺度は，お金に対する態度尺度の中でも認知的側面を測定している下位尺度と有意な相関を示すであろう。そこで，第３章第１節において認知的側面に分類されている「お金の社会的価値（以下,「社会的価値」)」と「社会における諸悪の根源（以下,「諸悪の根源」)」の２下位尺度を用いて検討を行う。予備調査で得られた因子の中で，特に，お金に対する信念尺度のうち，ポジティブな内容である「ポジティブな影響源」と「重要性」は，お金に対する態度尺度のうちでもお金に対する良いイメージを反映した下位尺度である「社会的価値」と正の関連を示すと予測される。また，ネガティブな内容である「ネガティブな影響源」は悪いイメージを反映した「諸悪の根源」下位尺度と正の関連を示すと予測される。

さらに，お金に対する信念は労働とも関連していると考えられる。そこで，第二の尺度として，就業動機尺度（安達，1998）を使用する。就業動機尺度は，未入職者の持つ将来の職業に関連する動機を測定する尺度で，積極的に職業を探す志向を表す「探索志向」，就業場面での人との出会いや交流を重視する志向を表す「対人志向」，業績や給料を重視する志向を表す「上位志向」，難しい仕事にチャレンジする志向を表す「挑戦志向」の４下位尺度から構成されている。労働に関する下位尺度である

「労働の対価」は，就業動機尺度全般と正の関連を示すと予想される。一方で，同様に労働に関連する「獲得困難性」は，お金は手に入りにくいという考えであるため，就業の動機づけになるとは考えにくく，就業動機の各下位尺度とは無関連であろう。また，残りの 3 下位尺度については，労働とは関係ない概念であるが,「ポジティブな影響源」と「重要性」はお金に肯定的な価値を置いた考え方であるため，これらの考えの高い者は,給料を重視すると考えられる。よって,「ポジティブな影響源」と「重要性」は「上位志向」と正の相関を示すと予想される。

そして，第三の尺度として，REC Scale（佐々木, 1984）を使用する。REC Scale は，消費者の購買態度を,「合理性」と「情動性」の 2 次元で測定する尺度である。「合理性」は事前によく考えて買う物を決定するなど,計画性のある買い物傾向を測定する内容であることから「重要性」と正の相関を示すと考えられる。さらに，お金について考える際に収入を意識することによって,計画的な買い物行動に到ると予想されるため,「労働の対価」および「獲得困難性」も「合理性」と正の相関を示すと予想される。一方で,「情動性」は流行や広告，店員のすすめなどの要因によって買う物を決定する傾向であることから，お金は人に良い影響を及ぼすという考えである「ポジティブな影響源」と正の相関を示すことが予想される。なぜなら,「ポジティブな影響源」の得点が高い人は，買い物というお金を使用する行為から，心理的に良い影響を受けやすいことが想定可能なためである。

最後に，アルバイトをしているかどうかを尋ね，している者としていない者で各下位尺度の得点に違いが見られるか確認する。労働を体験することによって，お金は自分の労働によってもたらされるという考えは強まると考えられるため,「労働の対価」の得点は，アルバイトをしてい

る者の方が高いと予想される。また，働いてアルバイト代を受け取ることによって，お金は手に入りにくいという考えは弱くなると考えられることから,「獲得困難性」の得点は，アルバイトをしている者の方が低いと予想される。さらに，働くことによってお金の大切さを身を持って感じるようになると考えられることから,「重要性」の得点はアルバイトをしている者の方が高いと予想される。

### 第 2 項　　方法

調査時期　2010 年 9 月から 12 月にかけて調査を実施した。

調査対象　関東地方の国立大学 1 校，私立大学 3 校，および東海地方の私立大学 1 校の合計 5 校の大学の学生 645 名が調査に協力した。年齢の平均は 20.31 歳（*SD*=1.89）であった。性別は，男性が 229 名，女性が 398 名，不明が 18 名であった。

調査内容　（a）お金に対する信念の項目：研究 2 では項目数が少ない因子や，α係数がやや低い因子が見られたため，5 つの因子の概念に対応する項目として 19 項目を新たに作成し追加した。よって，合計 61 項目となった。追加項目の作成は，研究 2 と同様の方法で行った。追加した項目を含めると,「重要性」 13 項目,「ポジティブな影響源」11 項目,「ネガティブな影響源」16 項目,「労働の対価」11 項目,「獲得困難性」10 項目であった。回答は研究 2 と同様の 5 件法で求めた。(b) 妥当性検討に用いる尺度：①お金に対する態度の測定のため，原岡（1990）の作成したお金に対する態度尺度の中から,「お金の社会的価値（以下,「社会的価値」)」と「社会における諸悪の根源（以下,「諸悪の根源」)」の 2 下位尺度を用いた。5 件法で回答を求めた。②就業動機の測定のため，安達（1998）の作成した就業動機尺度を用いた。「探索志向」,「対人志向」,「上位志向」,「挑戦志向」の 4 下位尺度であった。合計 38 項目で，

5 件法で回答を求めた。就業動機尺度は，未入職者の持つ将来の職業に関連する動機を測定する尺度で，積極的に職業を探す志向を表す「探索志向」，就業領域での人との出会いや交流を重視する志向を表す「対人志向」，業績や給料を重視する志向を表す「上位志向」，難しい仕事にチャレンジする志向を表す「挑戦志向」の 4 下位尺度から構成されている。項目を Table 6-3 に示した。③購買態度の測定のため，佐々木（1984）の作成した REC Scale を用いた。「合理性」と「情動性」の 2 下位尺度であった。各 6 項目で，5 件法で回答を求めた。項目を Table 6-4 に示した。(c) アルバイトの状態：現在アルバイトをしているかどうかを 2 件法で尋ねた。(d) デモグラフィック変数：性別，年齢について尋ねた。

Table 6-3　就業動機尺度の項目

| | |
|---|---|
| **探索志向** | |
| | 将来就こうと考えている職業に関する情報には興味がある。 |
| | 将来就きたい職業のために努力しようと思う。 |
| | 将来仕事で活用できる知識や技術を身につけたい。 |
| | 日常生活の中で、仕事に役立つことは何でも吸収していきたい。 |
| | 将来就こうと考えている職業について自分で調べようと思う。 |
| | 将来就こうと考えている職業に関連した講習会やセミナーには進んで参加しようと思う。 |
| | 将来したい仕事に役立つ資格や免許を取得するつもりだ。 |
| | 将来就きたい職業がはっきり決まっている。 |
| | 仕事に活かせる事なら何でも学ぶつもりだ。 |
| | いつも目標をもって仕事をしたい。 |
| | 将来就こうと思う職業について考えるのは楽しい。 |
| **対人志向** | |
| | 周囲の人々とコミュニケーションしながら仕事をすすめたい。 |
| | 仕事を通じて色々な人に出会いたい。 |
| | 常に多くの人との出会いがある仕事をしたい。 |
| | 仕事そのものでなく職場の人間関係に興味がある。 |
| | 職場では周りの人々との調和が何よりも大切だ。 |
| | 仕事を通じて得たい最大の満足は、人との交流から得られる満足感だ。 |
| | 職場では一生つき合える友人を作りたい。 |
| | 仕事に就くのは人との接触をもっていたいからだ。 |
| | 個人の努力が重視される仕事ではなく集団の努力が重視される仕事をしたい。 |
| | 職場ではムードメーカーになりたい。 |
| **上位志向** | |
| | 地位や名誉をもたらす職業に就きたい。 |
| | 職場では高い役職につきたい。 |
| | 昇格や昇進の機会がある仕事を得ることは重要だ。 |
| | 世間で名前の通った企業や団体に就職したい。 |
| | 給料のいい職業に就くことは充実した生活に欠かせない。 |
| | 周りから賞賛されるような仕事をしたい。 |
| | 人より優れた仕事をすることが重要だ。 |
| | 何か価値ある業績をあげようと考えている。 |
| | 社会的に有意義な仕事をしたい。 |
| **挑戦志向** | |
| | 世間で非常に難しいとされている仕事をやり遂げたい。 |
| | 努力や能力を必要とする仕事がしたい。 |
| | 誰かの案に従うのではなく自分で計画をたてる様な仕事がしたい。 |
| | 仕事で成功するためには決して努力を惜しまない。 |
| | 困難な仕事でも人に助けを借りずに自分の力でやり遂げたい。 |
| | 人と張り合えるような仕事をしたい。 |
| | 自分の個性が活かせる仕事をしたい。 |
| | 仕事を通じて自分を向上させたい。 |

Table 6-4　REC Scale の項目

| | |
|---|---|
| **合理性** | |
| | 買う時にはよくバーゲンセールを利用する。 |
| | どの店で買えば得かを行く前によく調べてみる。 |
| | 買うのは必要最低限にとどめておく。 |
| | 実用性とか使いやすさを特に重視して買う。 |
| | できるだけ多くのものを比較したうえで買うものを決める。 |
| | とにかく安くて経済的なものを買う。 |
| **情動性** | |
| | 流行中のものを買う。 |
| | そのもののムードや情緒を特に重視して買う。 |
| | 買う時には店員がすすめるものにする。 |
| | 買う時にはよく広告しているブランドで買う。 |
| | 見た感じとか美しさを特に重視して買う。 |
| | 新しいものが出た時は人よりもはやく買う。 |

調査方法　質問紙は，授業時間の一部を利用して実施した。実施の都合上，いくつかの組み合わせの調査票を作成して実施したため，調査協力者は全ての項目に回答したわけではなかった。

### 第３項　　結果

#### お金に対する信念の構造の確認

お金に対する信念の項目について，予備調査と同様に最尤法・プロマックス回転を用いて因子分析を行った（$N$=625）。固有値の推移と解釈可能性の高さから，5 因子解を最終的に採用した（Table 6-5）。どの因子にも.40 未満の負荷量しか示さなかった 14 項目を削除し，47 項目で再度分析を行った。

各因子は，研究 2 の結果に対応していた。第 1 因子は，「ネガティブな影響源」因子と命名した。第 2 因子は，「労働の対価」因子と命名した。第 3 因子は，「獲得困難性」因子と命名した。第 4 因子は，「ポジティブな影響源」因子と命名した。第 5 因子は，「重要性」因子と命名した。なお，尺度として簡便に利用することを考慮し，お金に対する信念

は，各因子に負荷する項目のうち，負荷量の高いほうから 6 項目ずつを尺度項目として採用することとした。各下位尺度の平均値，標準偏差，α係数を Table 6-6 に示した。各下位尺度のα係数は.74～.90 と十分高い値を示した。

採用された項目を用いて，下位尺度間の相関係数を求めた。結果を Table 6-7 に示した。「ネガティブな影響源」と「重要性」の間を除く全ての下位尺度間で，有意な正の相関が見られた（$r$=.12~.41, $p$<.01）。

各下位尺度 6 項目ずつの尺度構成の因子的妥当性を確認するため，確認的因子分析を行った。その結果，下位尺度間に.14～.48 の相関を仮定したモデルで高い適合度指標が得られた（$\chi^2$（399）=1078.87, $p$<.01, *GFI*=.90, *AGFI*=.88, *RMSEA*=.05）。そのため，尺度は因子間に相互に関連がある 5 因子構造と考えられる。

## Table 6-5　お金に対する信念項目の因子分析結果

| 番号 | 当初の想定[注1)] | | | F1 | F2 | F3 | F4 | F5 | 共通性 | *M* | *SD* |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41 | N | ● | お金は、いざこざの原因だ | .81 | -.01 | .05 | -.04 | .08 | .68 | 3.31 | 0.96 |
| 19 | N | ● | お金は、人間関係を壊す | .80 | -.06 | -.02 | .12 | -.07 | .66 | 3.03 | 1.02 |
| 45 | N | ● | お金は、人との関係によくない影響を与える | .78 | -.09 | .01 | .01 | -.02 | .59 | 2.97 | 0.93 |
| 39 | N | ● | お金があると、もめごとが起こるものだ | .75 | -.04 | .09 | -.04 | .06 | .59 | 3.40 | 0.96 |
| 35 | N | ● | お金は、仲たがいのもとだ | .75 | -.08 | .06 | .07 | .00 | .58 | 3.08 | 0.96 |
| 14 | N | ● | お金は、人間関係を悪くするものだ | .73 | -.01 | .02 | .05 | -.09 | .56 | 2.99 | 0.94 |
| 17 | N | | お金は、人を意地汚くする | .68 | .05 | -.07 | .01 | .05 | .47 | 3.36 | 1.02 |
| 33 | N | | お金は、人を不幸にする | .59 | .03 | -.03 | .15 | -.22 | .41 | 2.55 | 0.91 |
| 4 | N | | お金は、トラブルの原因だ | .58 | .02 | .04 | -.14 | .17 | .37 | 4.08 | 0.83 |
| 12 | N | | お金があると、人はダメになる | .57 | .16 | -.09 | -.01 | -.03 | .35 | 3.02 | 1.00 |
| 7 | N | | お金は、人をダメにする | .54 | .18 | -.08 | -.05 | .05 | .34 | 3.44 | 1.01 |
| 9 | N | | お金は、争いをうむ | .53 | -.04 | .07 | -.14 | .20 | .32 | 3.98 | 0.83 |
| 26 | N | | お金があると、人は悪いことを考えるようになる | .53 | .18 | -.02 | .08 | -.12 | .35 | 2.92 | 1.05 |
| 18 | W | ● | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う | .00 | .72 | -.06 | .10 | -.01 | .49 | 3.94 | 1.02 |
| 55 | W | ● | お金とは、仕事の結果として与えられるものだ | -.08 | .71 | .01 | .09 | -.04 | .50 | 4.02 | 0.86 |
| 23 | W | ● | お金は、労働の対価だ | .05 | .69 | -.09 | .01 | .03 | .45 | 4.01 | 0.88 |
| 42 | W | ● | お金は、自分のした仕事の評価だ | -.03 | .67 | -.03 | .28 | -.06 | .50 | 3.84 | 0.99 |
| 13 | W | ● | お金は、自分で働いて稼ぐものだ | .09 | .67 | .00 | -.20 | .01 | .50 | 4.23 | 0.82 |
| 47 | W | ● | お金は、自分が働いた分だけ手に入るものだ | -.01 | .67 | .05 | .15 | -.08 | .48 | 3.81 | 1.01 |
| 3 | W | | お金は、働いて得るものだ | .02 | .65 | -.02 | -.22 | .04 | .45 | 4.47 | 0.74 |
| 51 | W | | お金は、自分の力で手に入れるものだと思う | .04 | .55 | .13 | -.16 | .08 | .44 | 4.16 | 0.82 |
| 59 | W | | 働かなければ、お金は得られない | .03 | .53 | .17 | -.04 | -.06 | .39 | 4.06 | 0.96 |
| 61 | W | | 苦労しないでお金を手に入れようというのは、間違っている | .13 | .52 | .02 | -.22 | .01 | .35 | 3.86 | 1.15 |
| 40 | W | | お金は、働く楽しみだ | .02 | .44 | -.06 | .19 | .08 | .25 | 3.68 | 1.03 |
| 31 | D | ● | お金は、稼ぐのが難しい | .01 | -.07 | .88 | .04 | -.12 | .67 | 4.20 | 0.85 |
| 34 | D | ● | お金は、得るのが大変だ | .00 | -.03 | .80 | .03 | .04 | .65 | 4.25 | 0.78 |
| 46 | D | ● | お金を手に入れるのは、とても難しいことだ | .04 | .03 | .79 | .08 | -.03 | .66 | 4.08 | 0.90 |
| 38 | D | ● | お金は、簡単には手に入らないものだ | -.04 | .06 | .76 | .05 | -.05 | .59 | 4.16 | 0.87 |
| 27 | D | ● | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ | -.01 | -.04 | .66 | -.06 | .18 | .50 | 4.55 | 0.66 |
| 50 | D | ● | お金を稼ぐのは、甘くないことだと思う | .01 | .19 | .65 | -.03 | .04 | .60 | 4.46 | 0.72 |
| 44 | P | ● | お金があると、人にやさしくなれる | .00 | -.04 | .11 | .64 | -.10 | .38 | 3.10 | 0.98 |
| 11 | P | ● | お金があると、心が豊かになる | -.07 | .04 | .01 | .63 | .07 | .44 | 3.39 | 1.06 |
| 57 | P | ● | お金があると、積極的になれる | .01 | .02 | .05 | .60 | -.07 | .33 | 3.19 | 1.07 |
| 6 | P | ● | お金は、人に自由を与えると思う | -.08 | .12 | -.05 | .51 | .12 | .33 | 3.68 | 1.05 |
| 10 | I− | ● | お金より大事なものなど、この世にはないと思う | .19 | -.11 | -.05 | .48 | .03 | .31 | 1.81 | 0.97 |
| 16 | P | ● | お金があると、心に余裕が生まれる | -.07 | .05 | .04 | .47 | .20 | .35 | 3.95 | 0.88 |
| 56 | I | | いろいろな問題は、お金で解決できると思う | .19 | -.18 | -.08 | .47 | .00 | .31 | 2.73 | 1.16 |
| 52 | I | | お金が少しなくなっただけでも、大変なことになるだろう | .10 | -.02 | .10 | .44 | .03 | .25 | 3.02 | 1.09 |
| 24 | I | | お金は、あればあるだけよい | -.14 | .08 | -.01 | .43 | .17 | .28 | 3.65 | 1.17 |
| 1 | I | | お金は、人生でもっとも大切なものだ | .09 | -.04 | -.02 | .41 | .15 | .25 | 3.22 | 1.19 |
| 36 | I | ● | お金は、必要不可欠なものだ | .06 | -.01 | -.08 | -.04 | .81 | .60 | 4.33 | 0.76 |
| 48 | I | ● | お金は、なくてはならないものだ | .05 | .00 | -.04 | .03 | .75 | .57 | 4.31 | 0.81 |
| 20 | I | ● | お金は、生きていくためにとても必要なものだ | .06 | -.03 | -.03 | .04 | .73 | .55 | 4.40 | 0.67 |
| 32 | I | ● | お金は、大切だ | -.08 | -.02 | .17 | .02 | .63 | .50 | 4.49 | 0.63 |
| 15 | I | ● | お金は、非常に重要なものだ | .02 | -.02 | -.04 | .14 | .61 | .45 | 4.02 | 0.89 |
| 43 | I | ● | お金がなくなったとしたら、非常に困るだろう | -.08 | -.01 | .14 | .06 | .50 | .33 | 4.62 | 0.63 |
| 5 | I | | お金は、とても価値があるものだ | -.05 | .08 | -.04 | .25 | .46 | .37 | 3.95 | 0.89 |
| | | | 説明率 | | | | | | 45.41% | | |
| | | | 因子間相関 2 | .20 | | | | | | | |
| | | | 3 | .23 | .46 | | | | | | |
| | | | 4 | .17 | .06 | .04 | | | | | |
| | | | 5 | .06 | .22 | .33 | .41 | | | | |

注1）N：ネガティブな影響源，W：労働の対価，D：獲得困難性，P：ポジティブな影響源，I：重要性。－は逆転項目。
注2）採用された項目には項目の前に●をつけた。
注3）*M*，*SD*については，欠損値のない全てのデータを用いた。

Table 6-6　各下位尺度の基本統計量とα係数

| | *N* | *M* | *SD* | α係数 |
|---|---|---|---|---|
| **お金に対する信念尺度** | | | | |
| ネガティブな影響源 | 643 | 3.13 | 0.79 | .90 |
| 労働の対価 | 645 | 3.97 | 0.70 | .84 |
| 獲得困難性 | 641 | 4.29 | 0.65 | .89 |
| ポジティブな影響源 | 640 | 3.19 | 0.67 | .74 |
| 重要性 | 643 | 4.36 | 0.55 | .84 |
| **お金に対する態度尺度** | | | | |
| お金の社会的価値 | 125 | 3.32 | 0.62 | .89 |
| 社会における諸悪の根源 | 125 | 2.81 | 0.62 | .80 |
| **就業動機尺度** | | | | |
| 探索志向 | 124 | 3.96 | 0.63 | .85 |
| 対人志向 | 128 | 3.60 | 0.69 | .82 |
| 上位志向 | 128 | 3.28 | 0.71 | .80 |
| 挑戦志向 | 128 | 3.43 | 0.72 | .81 |
| **REC Scale** | | | | |
| 合理性 | 121 | 3.45 | 0.68 | .66 |
| 情緒性 | 120 | 2.69 | 0.64 | .66 |

注）*M*および*SD*は，項目得点を単純加算したのち，項目数で除したものを記した。

Table 6-7　お金に対する信念尺度の下位尺度間の相関係数

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| **お金に対する信念尺度** | | | | |
| 1　ネガティブな影響源 | ― | | | |
| 2　労働の対価 | .15 ** | ― | | |
| | (643) | | | |
| 3　獲得困難性 | .23 ** | .39 ** | ― | |
| | (639) | (641) | | |
| 4　ポジティブな影響源 | .17 ** | .15 ** | .12 ** | ― |
| | (638) | (640) | (636) | |
| 5　重要性 | .07 | .18 ** | .30 ** | .41 ** |
| | (641) | (643) | (639) | (638) |

注）カッコ内は*N*。$^{*}p<.05$, $^{**}p<.01$。

妥当性の検討

妥当性の検討を行う準備として，妥当性用の尺度の尺度得点の平均値，標準偏差，各尺度のα係数を算出した（Table 6-6）。各尺度の平均には，素点を加算し項目数で除した値を用いた。

また，下位尺度間の相関係数も算出した（Table 6-7）。「ネガティブな影響源」と「重要性」の間を除く全ての下位尺度間で有意な正の相関が得られた。

お金に対する信念尺度とお金に対する態度尺度 2 下位尺度の相関係数を算出した（Table 6-8）。その結果，「ポジティブな影響源」と「重要性」が「社会的価値」と正の相関を示し，予測と一致した結果となった（ポジティブな影響源：$r$=.68, $p$<.01；重要性：$r$=.35, $p$<.01）。また，「ネガティブな影響源」が「諸悪の根源」と正の相関を示し，この点も予測と一致した結果となった（$r$=.58, $p$<.01）。

一方で，予測していない部分にも有意な相関が見られた。まず，「ネガティブな影響源」が「社会的価値」と弱いながらも有意な正の相関を示していた（$r$=.21, $p$<.05）。「社会的価値」には，お金の良い面だけでなく，お金を必要悪と見なし，お金の悪い面をも是認するような項目が含まれていた。そのため，お金が人間関係に悪影響を及ぼしているという内容である「ネガティブな影響源」と正の相関を示したと考えられる。さらに，「労働の対価」と「獲得困難性」が「諸悪の根源」と有意な正の相関を示していた（労働の対価：$r$=.21, $p$<.05；獲得困難性：$r$=.24, $p$<.05）。「労働の対価」と「諸悪の根源」の関連は，お金は仕事の結果得られるものだと考えている人ほど，お金の悪影響を強く意識する傾向にあることを示唆している。「労働の対価」で測定されている内容は，労働の結果適正な金額のお金が手に入る経験を積み重ねたために形成されると考え

ることもできるが，一方で，労働の結果，期待以下の金額しか手に入らないという経験によって強く意識されるようになる可能性もある。そして，後者のような体験の多い人は，「諸悪の根源」に含まれる，お金のせいで社会的な不公平や犯罪が起こるという考えを強く持つであろう。よって，この関連については，労働から期待されるよりも少ない金額しか得られなかった人において，「労働の対価」と「諸悪の根源」が高いという状態が考えられる。次に，「諸悪の根源」には，必要以上のお金を持つことによって悪影響があるという内容も含まれているために，「労働の対価」と相関を示したものと考えられる。また，「獲得困難性」と「諸悪の根源」の関連は，お金が手に入りにくいと考えている人ほど，お金は悪いものであると考える傾向にあることを示唆している。手に入りにくいお金を悪いものと考えることによって，認知的不協和を防いでいる可能性もあるが，本研究のデータは一時点のものであるため，因果関係まで言及することは難しい。予測された関連が示されたことから，本尺度がお金に対する認知的側面を測定していることが確認された。

次に，お金に対する信念尺度と就業動機尺度の相関係数を求めた（Table 6-8）。お金に対する信念尺度の「労働の対価」が就業動機尺度の「探索志向」，「対人志向」，「挑戦志向」と有意な正の相関を示し（$r$=.18~.40，$p$<.05），予想が概ね支持された。これは，「労働の対価」は就業動機の下位尺度全てと関連を示すという予測とは一部異なる。しかし，関連を示さなかった「上位志向」は，労働の中でより高い評価を得ることへの動機であることから，お金を労働への報酬と考える「労働の対価」と関連を示さなかったと考えられる。また，予測通り，「獲得困難性」は就業動機と有意な関連を示さなかった。さらに，「ポジティブな影響源」と「重要性」が就業動機尺度の「上位志向」と有意な正の相関

を示し（いずれも $r$=.28, $p$<.01），予想と合致した結果が得られた。

続いて，お金に対する信念尺度と REC Scale の相関係数を求めた（Table 6-8）。お金に対する信念尺度の「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が REC Scale の「合理性」と有意あるいは有意傾向の正の相関を示した（$r$=.17～19, $p$<.05）。また,「ポジティブな影響源」と「情動性」の間（$r$=.18, $p$<.10）に有意傾向の正の相関が見られた。よって，予測が支持された。

最後に，アルバイトの状態について分析を行った。アルバイトをしている者（406 名）としていない者（220 名）でお金に対する信念尺度の得点が異なるかどうかを確かめるため， $t$ 検定を行った（Table 6-9）。その結果,「労働の対価」と「重要性」において，効果量の値は小さいながらも有意な差が見られ，予測と一致した結果となった（労働の対価：$t$=2.47, $p$<.05， $d$=0.21；重要性：$t$=3.07, $p$<.01， $d$=0.26）。しかし，予測と異なり,「獲得困難性」で 2 群の得点に差が見られず，アルバイトをしているか否かによって，お金は手に入りにくいという考えの程度に差はないという結果となった。

Table 6-8　お金に対する信念尺度と他尺度との相関係数

| | お金に対する態度尺度 | | 就業動機尺度 | | | | REC Scale | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 社会的価値 | 諸悪の根源 | 探索志向 | 対人志向 | 上位志向 | 挑戦志向 | 合理性 | 情動性 |
| **お金に対する信念尺度** | | | | | | | | |
| ネガティブな影響源 | .21 * | .58 ** | .13 | .09 | -.10 | .14 | .02 | .06 |
| | (125) | (125) | (123) | (127) | (127) | (127) | (121) | (120) |
| 労働の対価 | .05 | .21 * | .40 ** | .18 * | .08 | .26 ** | .19 * | .10 |
| | (125) | (125) | (124) | (128) | (128) | (128) | (121) | (120) |
| 獲得困難性 | .07 | .24 * | .17 | -.02 | -.03 | .00 | .18 * | -.07 |
| | (124) | (124) | (124) | (128) | (128) | (128) | (121) | (120) |
| ポジティブな影響源 | .68 ** | -.09 | .02 | .02 | .28 ** | .03 | .04 | .18 † |
| | (123) | (123) | (123) | (127) | (127) | (127) | (121) | (120) |
| 重要性 | .35 ** | -.03 | .08 | .08 | .28 ** | .07 | .17 † | -.07 |
| | (125) | (125) | (124) | (128) | (128) | (128) | (121) | (120) |

注）カッコ内は$N$。$^{\dagger}p<.10$, $^{*}p<.05$, $^{**}p<.01$。

Table 6-9　アルバイトの状態ごとのお金に対する信念尺度の得点

| | アルバイトの状態 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | している | | していない | | | |
| | *M* | *SD* | *M* | *SD* | *t*値 | *df* |
| ネガティブな影響源 | 3.15 | 0.75 | 3.10 | 0.85 | 0.81 | 399.6 |
| | (405) | | (219) | | | |
| 労働の対価 | 4.03 | 0.68 | 3.89 | 0.70 | 2.47 * | 624 |
| | (406) | | (220) | | | |
| 獲得困難性 | 4.30 | 0.65 | 4.26 | 0.65 | 0.72 | 620 |
| | (404) | | (218) | | | |
| ポジティブな影響源 | 3.22 | 0.65 | 3.13 | 0.68 | 1.57 | 619 |
| | (404) | | (217) | | | |
| 重要性 | 4.42 | 0.53 | 4.27 | 0.59 | 3.07 ** | 622 |
| | (404) | | (220) | | | |

注）カッコ内は$N$。$^{*}p<.05$, $^{**}p<.01$。

### 第４項　　考察

5 下位尺度 30 項目から構成されるお金に対する信念尺度が作成された。また，既存の尺度との関連を検討し，妥当性の確認を行った。さらに，α係数を算出し，信頼性を確認した。

お金に対する信念尺度は,「ネガティブな影響源」,「労働の対価」,「獲

得困難性」,「ポジティブな影響源」,「重要性」の 5 下位尺度となった。

作成された尺度の内容について考察すると，5 つの下位尺度は次の 3 点の特徴を持つと考えられる。第一は,「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」が示す，お金が人に影響を与えるという考えである。人間は，お金から，ゆとりなどのよい心的状態や，人間関係上の困難などを生じると考えていることが示され，お金の持つ心理社会的な影響力が示唆される結果となった。

第二は,「労働の対価」と「獲得困難性」が示す，収入に関する側面である。収入は家計の重要な機能であることから，意識されやすい内容だったと考えられる。

第三は,「重要性」が示す，生活を送る上でのお金の重要性である。お金は生活を送る上で必要であるという内容から，お金は道具として重要であることが示唆される。第一の側面では，お金の持つ，人間への影響力について述べたが，第三の生活上の重要性は，心理社会的性質の少ない内容となっている。重要性に関しては，生活との関係の深い内容であるため，家計などのより経済的な営みと関連がある可能性がある。

妥当性については，次の点が確認された。すなわち，お金に対する態度尺度の認知的側面を測定する下位尺度との関連から，併存的妥当性が確認された。また，就業動機および購買態度との関連およびアルバイトの状態による得点差から，構成概念妥当性が確認された。よって，妥当性については，尺度全体として概ね確認されたと考えられる。

しかし,「獲得困難性」についてはやや不十分であった。「獲得困難性」は，アルバイトをしている者としていない者の間で得点に有意な差が見られず，この点からの構成概念妥当性を検証することができなかった。本研究では，アルバイトをしているかどうかを,「現在アルバイトをして

いるかどうか」として尋ねたため，調査時点ではアルバイトをしていないが，以前した経験がある人々が，アルバイトをしていない群に振り分けられていたために，予測が支持されなかったと考えられる。「獲得困難性」は現在のアルバイトの状態ではなく，アルバイトの経験の有無により得点が異なる可能性がある。

日本では，現在のところ，お金に対する考えを測定するための十分な尺度が存在しなかったことから，新たに尺度が作成されたことには一定の意義があると考えられる。

## 第４節　お金に対する信念尺度の再検査信頼性の検討【研究 4】

### 第１項　目的

調査 3 では，α係数を用いた内的一貫性を検討するに留まったため，尺度の信頼性を十分に確認したとは言い切れない。そこで，同一の調査協力者に 2 度に渡って調査を行い，再検査信頼性を検討する。

### 第２項　方法

調査時期　初回調査は 2013 年 6 月中旬に実施し，第二回調査は 3 週間後に実施した。

調査対象　関東地方の私立大学 1 校の学生 92 名が調査に協力した。初回調査時点の年齢の平均は 18.91 歳（$SD$= 0.94）であった。男性が 29 名，女性が 63 名であった。

調査内容　（a）お金に対する信念尺度：研究 3 で作成した 5 下位尺度 30 項目を用いた。（b）ID：電話番号の末尾 5 ケタを記載してもらい，データの対応を図った。（c）デモグラフィック変数：性別，年齢について尋ねた。なお，いずれの調査でも，用いた質問紙は同一の内容であった。

調査方法　質問紙は，授業時間の一部を利用して実施した。

### 第３項　結果

**相関係数の算出**

各下位尺度について，1 回目の得点と 2 回目の得点の相関係数を算出した。その結果,「ネガティブな影響源」で $r$（87）=.80,「労働の対価」で $r$（88）=.58,「獲得困難性」で $r$（90）=.73,「ポジティブな影響源」で $r$（89）=.76,「重要性」で $r$（88）=.83 と，いずれも 1%水準で有意な正の相関が得られた。「労働の対価」でやや低い値となっていた他は，十分に高い値が得られた。

### 第 4 項　　考察

お金に対する信念尺度の再検査信頼性を検討することが目的であった。3 週間の期間を置いて，2 度調査を行い，再検査信頼性を検討した。

「労働の対価」以外の 4 下位尺度では，高い相関係数が得られ，十分な再検査信頼性が確認された。また，最も相関係数の値の小さかった「労働の対価」でも中程度の値は得られた。そのため，尺度全体としては概ね十分な再検査信頼性が備わっていると判断される。

「労働の対価」の相関の弱さについては，調査対象者の属性と調査時期の影響が挙げられる。平均年齢から，調査協力者は大学 1 年生であると考えられ，さらに調査時期は夏休みの直前であった。そのため，1 回目と 2 回目の調査の間に，夏休みにアルバイトを始める計画を立てていた者も含まれていた可能性がある。「労働の対価」は，研究 3 においてアルバイトの状態により得点に差が見られることが明らかになっているため，アルバイトを計画した者がいたことによって，相関が低くなったと考えられる。

## 第５節　お金に対する信念尺度の各年代への適用および大学生の特徴の検討【研究 5】

### 第１項　目的

お金に対する信念尺度における大学生の特徴を把握することを目的とする。そのため，多様な年齢層の人々に対しお金に対する信念尺度を実施し，尺度の適用可能性を確認するとともに，デモグラフィックな変数と尺度得点の関連を検討する。また,大学生の特徴を明らかにするため，研究 8 のデータを併せて用いて，比較を行う。

大学生とその親を対象に，羞恥を感じやすい領域を検討した磯部・小谷・前田（2002）では，金銭領域において差が見られ，親世代の方が大学生よりも得点が高いことが明らかになっている。よって，お金に対する信念でも，世代あるいは年齢による差が見られることが予想される。特に，磯部・小谷・前田（2002）を参考にすれば，各下位尺度において，年齢が高いほど得点が高い傾向が見られると考えられる。

### 第２項　方法

調査時期　2012 年 2 月上旬に実施した。

調査対象　東京都に住む 20 歳～69 歳，合計 669 名が調査に協力した。

調査内容　（a）年齢，（b）性別，（c）婚姻状況（既婚配偶者あり/既婚死別/既婚離別/未婚），（d）お金に対する信念尺度について尋ねた。お金に対する信念尺度は研究 3 で作成した 5 下位尺度 30 項目を用いた。

調査方法　調査の実施は株式会社クロス･マーケティングに委託し，web 上で実施した。

### 第３項　結果

**お金に対する信念尺度のα係数**

年代ごとに分析を行った。各年代においてα係数を算出し，尺度の信

頼性を確認した（Table 6-10）。その結果，全ての下位尺度が，全ての年代で.81 以上の値を示したため，尺度の信頼性は十分であると判断した。

Table 6-10　各年代におけるα係数

| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 |
|---|---|---|---|---|---|
| ネガティブな影響源 | .93 | .94 | .94 | .92 | .90 |
| ポジティブな影響源 | .85 | .81 | .85 | .89 | .80 |
| 労働の対価 | .90 | .83 | .87 | .91 | .86 |
| 獲得困難性 | .95 | .95 | .95 | .95 | .92 |
| 重要性 | .96 | .94 | .94 | .94 | .90 |

お金に対する信念尺度へのデモグラフィックな変数の効果

また，性別，年代，婚姻の有無がお金に対する信念尺度の得点に違いをもたらすか検討するため，性別（男・女）×年代（20・30・40・50・60 代）×婚姻状況（未婚・既婚）の 3 要因の分散分析を行った。分析に用いたデータの内訳を Table 6-11 に示した。分析にあたって，既婚には既婚死別と既婚離別を含めなかった。

分散分析の結果を Table 6-12 に示した。また，各年代・性別・婚姻状況別の平均値と標準偏差を Table 6-13 に示した。

分散分析の結果，「ネガティブな影響源」では，年代の効果が見られた（$F$（4, 607）=4.06, $p$<.01; Figure 6-1）。多重比較から，20 代や 30 代の若い人々は，50 代の人々よりも得点が高いことが明らかになった。

「労働の対価」では，婚姻の効果が見られた（$F$(1, 607) =6.01, $p$<.05; Figure 6-2)。多重比較から，既婚者の方が未婚者よりも得点が高いことが明らかになった。

「獲得困難性」では，年代と性別の交互作用が見られた（$F$（4, 607）

=22.45, $p$<.05; Figure 6-3)。単純主効果の検定から，40 代において，女性の方が男性よりも得点が高いことが明らかになった。

「ポジティブな影響源」と「重要性」には，性別，年齢，婚姻の有無の効果は見られなかった。

Table 6-11　分散分析に用いたデータの内訳（人）

| | | 男性 | | 女性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 未婚 | 既婚 | 未婚 | 既婚 | 合計 |
| 20代 | 20～29歳 | 53 | 10 | 42 | 16 | 121 |
| 30代 | 30～39歳 | 48 | 39 | 31 | 47 | 165 |
| 40代 | 40～49歳 | 30 | 42 | 19 | 44 | 135 |
| 50代 | 50～59歳 | 16 | 40 | 7 | 34 | 97 |
| 60代 | 60～69歳 | 4 | 54 | 5 | 46 | 109 |
| | 合計 | 151 | 185 | 104 | 187 | 627 |

Table 6-12　分散分析の結果（$F$ 値）

| | ネガティブな影響源 | ポジティブな影響源 | 労働の対価 | 獲得困難性 | 重要性 |
|---|---|---|---|---|---|
| 性別 | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* |
| 年齢*性別 | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* | 2.45 * | *n.s.* |
| 年齢 | 4.06 ** | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* |
| 婚姻 | *n.s.* | *n.s.* | 6.01 * | *n.s.* | *n.s.* |
| 年齢*結婚 | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* |
| 性別*年齢*結婚 | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* | *n.s.* |
| 多重比較・単純主効果の検定結果 | 20代・30代>50代 | – | 未婚<既婚 | 40代において男性<女性 | – |

注）$^{*}p$ <.05, $^{**}p$ <.01。

Table 6-13　年代・性別・婚姻状況別の平均値と標準偏差

| | 年齢 | 20代 | | | | 30代 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 性別 | 男性 | | 女性 | | 男性 | | 女性 | |
| | | *M* | *SD* | *M* | *SD* | *M* | *SD* | *M* | *SD* |
| 未婚 | ネガティブな影響源 | 3.46 | 0.96 | 3.48 | 0.75 | 3.59 | 0.93 | 3.45 | 0.80 |
| | ポジティブな影響源 | 3.49 | 0.82 | 3.51 | 0.83 | 3.38 | 0.81 | 3.51 | 0.64 |
| | 労働の対価 | 3.67 | 0.84 | 3.68 | 0.78 | 3.86 | 0.70 | 3.70 | 0.56 |
| | 獲得困難性 | 4.01 | 0.74 | 3.97 | 0.96 | 4.19 | 0.85 | 3.93 | 0.81 |
| | 重要性 | 4.17 | 0.82 | 4.19 | 0.95 | 4.16 | 0.90 | 4.33 | 0.58 |
| 既婚 | ネガティブな影響源 | 3.22 | 0.77 | 3.72 | 1.06 | 3.43 | 0.81 | 3.55 | 0.91 |
| | ポジティブな影響源 | 3.58 | 0.63 | 3.22 | 0.80 | 3.60 | 0.61 | 3.71 | 0.54 |
| | 労働の対価 | 3.75 | 0.75 | 4.09 | 1.01 | 3.91 | 0.64 | 3.94 | 0.54 |
| | 獲得困難性 | 4.00 | 1.03 | 4.10 | 1.03 | 4.09 | 0.66 | 4.20 | 0.74 |
| | 重要性 | 4.55 | 0.49 | 4.21 | 1.09 | 4.40 | 0.53 | 4.48 | 0.44 |

| | 年齢 | 40代 | | | | 50代 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 性別 | 男性 | | 女性 | | 男性 | | 女性 | |
| | | *M* | *SD* | *M* | *SD* | *M* | *SD* | *M* | *SD* |
| 未婚 | ネガティブな影響源 | 3.54 | 0.71 | 3.41 | 0.85 | 2.85 | 0.45 | 3.05 | 0.54 |
| | ポジティブな影響源 | 3.50 | 0.62 | 3.68 | 0.71 | 3.19 | 0.73 | 3.26 | 0.62 |
| | 労働の対価 | 3.62 | 0.56 | 3.96 | 0.85 | 3.53 | 0.66 | 3.52 | 0.46 |
| | 獲得困難性 | 3.77 | 0.71 | 4.28 | 0.72 | 4.08 | 0.61 | 3.88 | 0.36 |
| | 重要性 | 4.07 | 0.67 | 4.50 | 0.74 | 3.98 | 0.94 | 3.95 | 0.62 |
| 既婚 | ネガティブな影響源 | 3.08 | 0.82 | 3.50 | 0.78 | 3.18 | 0.75 | 3.23 | 0.72 |
| | ポジティブな影響源 | 3.40 | 0.73 | 3.59 | 0.72 | 3.36 | 0.90 | 3.50 | 0.60 |
| | 労働の対価 | 3.68 | 0.72 | 4.01 | 0.59 | 3.86 | 0.86 | 3.84 | 0.55 |
| | 獲得困難性 | 3.94 | 0.76 | 4.19 | 0.70 | 4.10 | 0.76 | 4.01 | 0.71 |
| | 重要性 | 4.09 | 0.68 | 4.39 | 0.56 | 4.12 | 0.71 | 4.18 | 0.56 |

| | 年齢 | 60代 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 性別 | 男性 | | 女性 | |
| | | *M* | *SD* | *M* | *SD* |
| 未婚 | ネガティブな影響源 | 3.21 | 1.01 | 3.20 | 0.61 |
| | ポジティブな影響源 | 3.17 | 0.71 | 3.87 | 0.30 |
| | 労働の対価 | 3.50 | 1.00 | 4.00 | 0.59 |
| | 獲得困難性 | 4.25 | 0.50 | 3.73 | 0.90 |
| | 重要性 | 4.17 | 0.56 | 4.40 | 0.42 |
| 既婚 | ネガティブな影響源 | 3.04 | 0.65 | 3.12 | 0.76 |
| | ポジティブな影響源 | 3.40 | 0.58 | 3.45 | 0.52 |
| | 労働の対価 | 3.94 | 0.58 | 3.87 | 0.53 |
| | 獲得困難性 | 4.13 | 0.55 | 4.12 | 0.44 |
| | 重要性 | 4.26 | 0.57 | 4.21 | 0.54 |

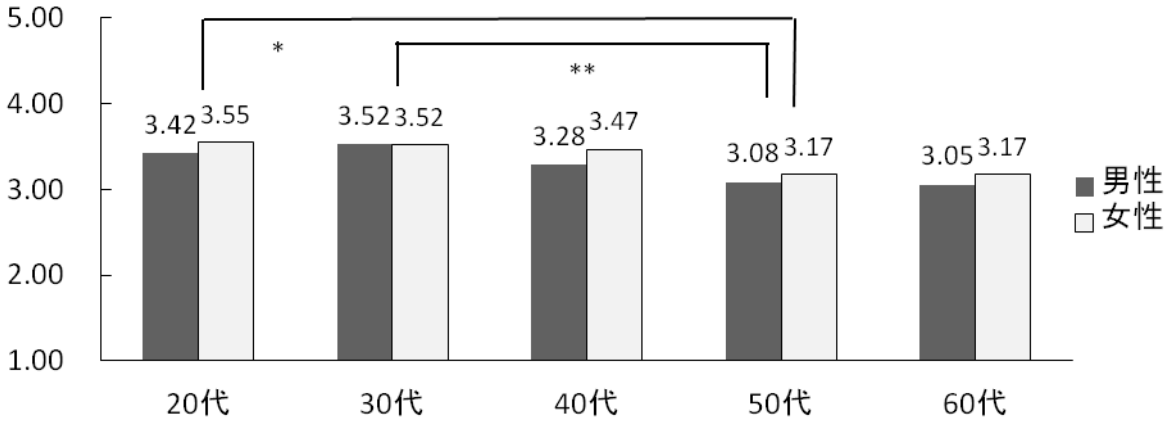


**Figure 6-1**　「ネガティブな影響源」得点の年代差

注）*$p$<.05, **$p$<.01。

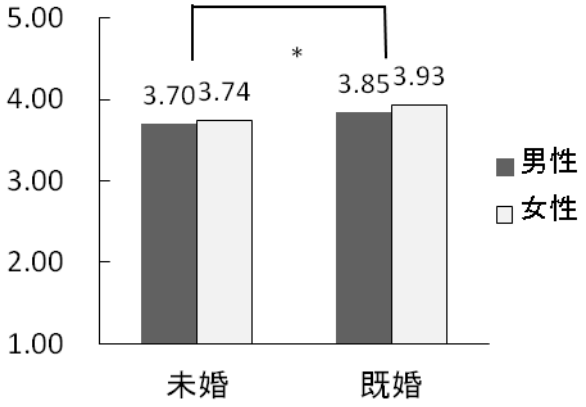


**Figure 6-2**　「労働の対価」得点の婚姻状況による差

注）*$p$<.05, **$p$<.01。

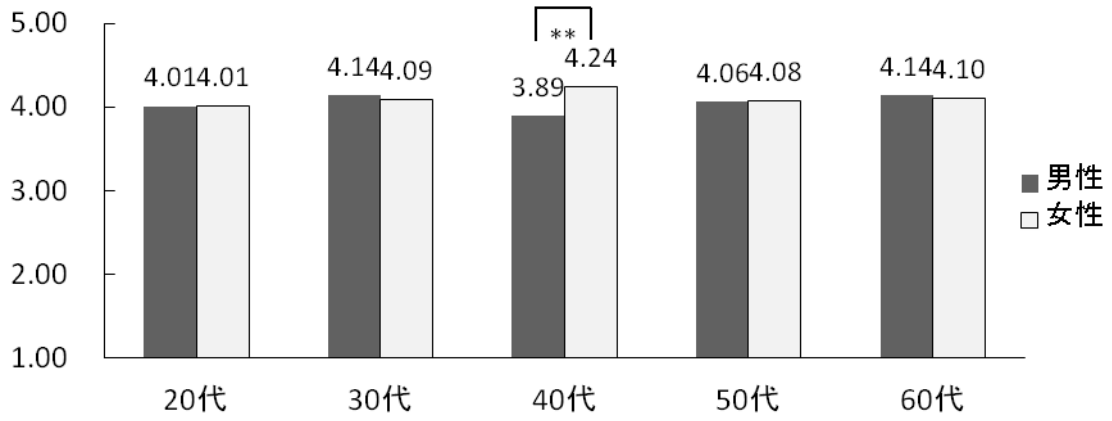


**Figure 6-3**　「獲得困難性」得点の年代と性別による差

注）*$p$<.05, **$p$<.01。

**webパネル内での大学生と社会人の相違の検討**

大学生と社会人を中心とした一般の人々において，お金に対する信念尺度の得点に違いがあるか検討を行った。就業状態に「学生」と回答した人とそれ以外の人々に分け，$t$検定を行った。「学生」は30名で，平均年齢23.90歳（$SD$＝4.72）であった。学生以外は639名で，平均年齢45.05歳（$SD$=12.69）であった。お金に対する信念尺度の各下位尺度を従属変数として$t$検定を行ったところ，「ネガティブな影響源」で10%水準の有意傾向が得られたほかは，有意な結果は得られなかった（学生：$M$=3.59, $SD$=0.93;学生以外：$M$=3.33, $SD$=0.82: $t$=1.71, $p$<.10, $d$=0.32）。

**大学生とwebパネルの相違の検討**

大学生の特徴を明らかにするために，大学生のデータとwebパネルのデータを比較した。大学生のデータは，調査時期の近かった研究8のものを使用した。関西地方および関東地方の私立大学2校，国立大学1校の計3校の大学生が調査に協力した。調査に協力した学生は160名（男

性 76 名，女性 78 名，不明 6 名）であった。平均年齢は 20.45 歳（*SD* ＝1.31）であった。なお，研究 8 の調査の性質上，調査協力者は 2 年生以上の学年であった。

web パネルと研究 8 の大学生の同質性を確認するため，web パネルの中で身分を「学生」とした者 30 名と，研究 8 の大学生を比較した。web パネルの学生の年齢の平均は 23.90 歳（*SD*=4.72）で，研究 8 の平均年齢は 20.45 歳（*SD*＝1.31）で，対応のない *t* 検定の結果，web パネルの学生の方が年齢が高かった（$t$=7.80，$p$<.01）。お金に対する信念尺度の各下位尺度についても同様に対応のない *t* 検定を行ったところ，全ての下位尺度で有意な差は得られず，web パネルの学生と研究 8 の大学生には同質と見なせると結論づけられた。

そこで，対応のない *t* 検定を用いて web パネルと研究 8 の大学生の 2 群を比較した。その結果，全ての下位尺度で有意な結果が得られた（Table 6-14；Figure 6-4）。しかし，いずれも効果量は小さかった（$d$=0.20～0.40）。

大学生の方が得点が高かったものは,「ネガティブな影響源」,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」の 4 下位尺度であった。web パネルの方が得点が高かったものは,「ポジティブな影響源」であった。

**Table 6-14**　大学生と web パネルのお金に対する信念尺度の得点の比較

| | 大学生（研究8） | | | webパネル | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | *N* | *M* | *SD* | *N* | *M* | *SD* | *t*値 | *df* |
| ネガティブな影響源 | 158 | 3.57 | 0.88 | 669 | 3.34 | 0.82 | 3.15 ** | 825 |
| ポジティブな影響源 | 159 | 3.34 | 0.77 | 669 | 3.48 | 0.70 | -2.13 ** | 223.60 |
| 労働の対価 | 160 | 3.97 | 0.65 | 669 | 3.82 | 0.69 | 2.50 ** | 827 |
| 獲得困難性 | 159 | 4.28 | 0.72 | 669 | 4.08 | 0.74 | 3.17 ** | 826 |
| 重要性 | 159 | 4.51 | 0.49 | 669 | 4.24 | 0.70 | 4.57 ** | 826 |

注）$^{*}p$<.05, $^{**}p$<.01。

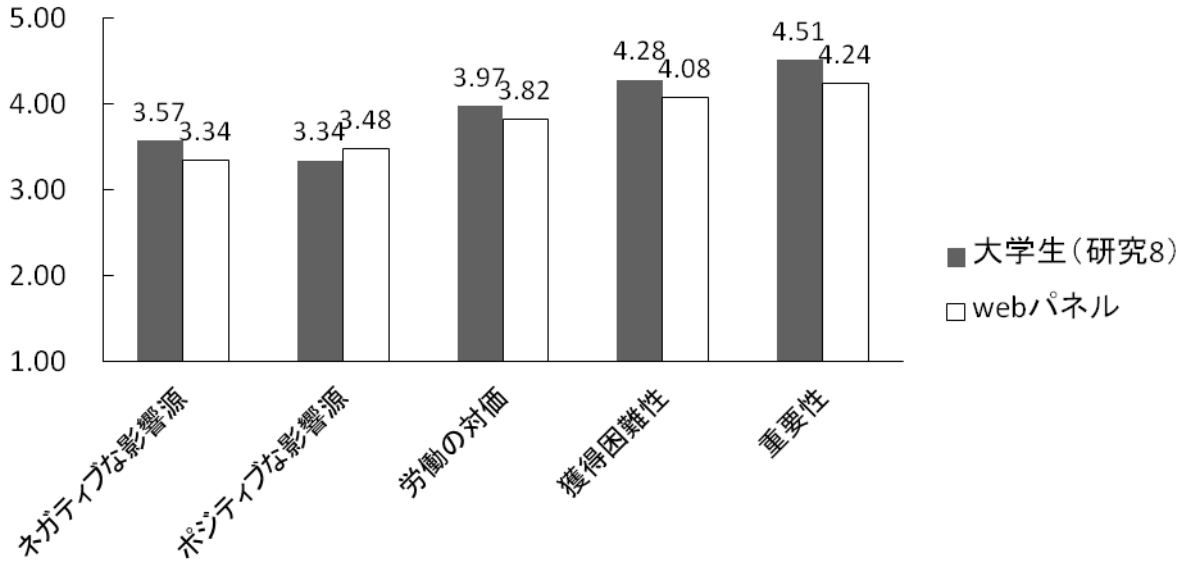


**Figure 6-4**　大学生と web パネルのお金に対する信念尺度の得点の違い

注）全ての下位尺度において 1%水準で有意な差が見られたため，有意性についての記号は省略した。

### 第４項　　考察

お金に対する信念尺度における大学生の特徴を把握することを目的として，多様な年齢層の人々に対しお金に対する信念尺度を実施した。そのために，尺度の適用可能性を確認するとともに，デモグラフィックな変数と尺度得点の関連を検討した。加えて，web パネルと大学生の比較を行った。

各年代において，全ての下位尺度のα係数が十分高かったことから，お金に対する信念尺度が大学生以外の人々にも使用可能であることが確認された。

デモグラフィックな変数との関連としては,「ネガティブな影響源」で年代の差,「労働の対価」で婚姻状況による差,「獲得困難性」で年代と性別の組み合わせによる差が見られた。このことから，お金に対する信

念の一部については，年齢，性別，婚姻状況の影響を受ける可能性が示唆された。

「ネガティブな影響源」で年代による差が見られ，20 代，30 代の方が 50 代よりもお金が人に悪影響を及ぼすという考えが強かった。つまり，若年層で，お金が人に与える悪影響を強く認識している状態にあった。若年層では相対的に給料が低いことが予想されるが，そのために，お金が人に与える悪い影響を過大視するものと考えられる。

「労働の対価」は，既婚者の方が未婚者よりも得点が高かった。つまり，既婚者の方が，お金は仕事の結果得られるものであると強く考える傾向にあった。既婚者と未婚者では，既婚者の方が，家族単位で消費を行うため，必要とする金額が高いと考えられる。それに合わせて，働いてお金を手に入れることが強く意識されるようになると考えられる。

「獲得困難性」は，40 代において，女性の方が男性よりも得点が高かった。40 代の女性について考えると，M 字型雇用曲線（新村，2006）の存在からも明らかなように，既婚者では子育てが一段落し再就職する時期である。しかし，再就職では思うような賃金が得られず，お金は手に入りにくいと考えるようになると考えられる。一方で男性は，子育てなどで中断することなく働き続けていれば賃金が上昇しているため，お金は手に入りにくいと考えにくくなる時期と推測される。よって，40 代において性差が見られたと結論づけられる。

一方，「ポジティブな影響源」と「重要性」では，デモグラフィックな変数による差は見られなかった。つまり，お金が人に良い影響を与えるという考えと，お金は生活上大切なものであるという考えには，年代，性別，婚姻状況による差がなかった。この 2 下位尺度は，消費生活と関連する内容であると考えられ，若い時期から一貫して得られやすい考え

方であると考えられる。そのために,差が見られなかった可能性がある。

磯部・小谷・前田（2002）からは，各下位尺度において，年齢が高いほど得点が高い傾向が見られると予測したが，webパネル内における比較では，そのような結果が得られた下位尺度はなく，予測は支持されなかった。

webパネル内で学生と学生以外の人々を比較したところ,「ネガティブな影響源」で有意傾向が得られたのみに留まった。一方で，研究8の大学生データを用いて大学生とwebパネルの人々を比較したところ,全ての下位尺度で有意な差が得られた。webパネル内では学生と学生以外の差は少ないが，webパネルと講義内調査の大学生には差が見られる結果となった。

大学生とwebパネルでは次のような差が見られた。「ネガティブな影響源」,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」の4下位尺度では大学生の方が得点が高く，大学生はwebパネルと比べて，お金の悪影響をより強く認識し，お金を仕事の結果得られ，手に入りにくく，重要であると考えていた。一方,「ポジティブな影響源」では大学生の方が得点が低く，お金の良い影響の認識はwebパネルよりも弱かった。全体として，大学生は，webパネルと比べてお金を悪いものと考える一方，お金と労働のつながりやお金の大切さを強く意識しており，お金を用いて社会で過ごすことを難しいことと捉えている様子がうかがえる。webパネルのほとんどはすでに何らかの形で社会参加していることを鑑みると，社会に出る直前である大学生ではお金について緊張状態が高まっているが，実際に社会に出てある程度生活できることが実感されれば緊張状態が低下するものと考えることが可能であろう。つまり，大学生の時期は，お金についてより意識されている時期と結論づけられる。

webパネル内での比較と，webパネルと大学生の比較において，一貫した結果が 1 点得られた。「ネガティブな影響源」は，web パネル内での比較では，若い年代の方が得点が高かった。また，webパネルと大学生での比較でも，大学生の方が得点が高かった。このことから，お金は人に悪い影響を与えるという信念は，より若い時期に強く持ちやすい信念であると推測される。この結果は，MESの「悪」の得点が，年齢が若い人々で高かったこと（Tang, 1992）とも整合的である。

大学生とwebパネルの比較においても，磯部・小谷・前田（2002）から導出した，年齢が高いほど得点が高い傾向が見られるという予測はほとんど支持されなかった。唯一,「ポジティブな影響源」において，相対的に年齢が上である社会人の方が得点が高かった。しかし，それ以外の下位尺度では，大学生の方が各下位尺度の得点が高く，予測とは逆の結果が得られた。「ポジティブな影響源」は，お金は人によい影響を与えるという信念であり，消費生活と関連する内容であると考えられ，消費の機会や経験の多い社会人の方が得点が高かったものと考えられる。しかしながら,「ポジティブな影響源」はお金に積極的な信念であり，親世代の方が大学生よりも金銭についての領域で恥を感じやすいという磯部・小谷・前田（2002）の結果とは整合性がないと考えられる。あるいは，お金に積極的なために，親世代は大学生よりもお金についての領域で恥ずかしさを覚えやすい可能性もある。いずれにせよ，規範意識等の影響も重要であると考えられるため，慎重な解釈が必要であるだろう。

本研究では，大学生のお金に対する信念の特徴を，社会人と比較することによって明らかにした。お金に対する態度の研究では，大学生を対象としたものは少なく，これまで，大学生の特徴について知ることはできなかったため，新たな知見を得ることができたと考えられる。

# 第７章　　お金に対する信念と個人の家計管理意識の関連の検討

本章では,お金に対する信念と個人の家計管理意識の関連を検討する。家計には，お金を遣うこと，お金を貯めること，職についてお金を獲得することが含まれる。そこで，これらに対応した意識として，第１節では，消費についての意識との関連を検討する。第２節では，貯蓄についての意識との関連を検討する。第３節では，職業についての意識との関連を検討する。

## 第１節　　お金に対する信念と消費意識の関連の検討【研究 6】

### 第１項　　目的

本節では，お金に対する信念と消費についての意識の関連を検討することを目的とする。消費についての意識として,「消費価値観」とクレジットカードを肯定する態度を，それぞれ測定項目を作成して検討する。加えて，消費に関連した行動として，クレジットカードの保有状況およびクーポン券の使用状況も尋ねる。

「消費価値観」は，こだわりと価格感度の２軸で消費者を４群に分類する試みである（野村総合研究所　松下・日戸・濱谷，2013)。本研究でも，商品に対して情報を集め，こだわる傾向である「こだわり」と，商品の価格の低さを重視する傾向である「価格感度」の概念を用いる。なお，本研究では,「こだわり」と「価格感度」を，特性的に扱うこととし，類型化しないこととする。お金は手に入りにくい，お金は大切であると考えるほど，お金を節約すると考えられる。そのため,「獲得困難性」と「重要性」は，価格感度と正の関連を示すと予想される。こだわりについては，商品への思考や行動の傾向であるため，お金に対する信念とは

関連を示さないと考えられる。

クレジットカードを肯定する程度も，価格感度と同様の理由により，「獲得困難性」と「重要性」が高いほど強いと予想される。

また，クレジットカードの保有状況についても検討する。Hayhoe, Leach, & Turner（1999）では，クレジットカードを持っている者と持っていない者の間で,お金に対する態度の得点に差が見られたことから，本研究でも類似の結果が得られると予想される。クレジットカードは高額の買い物で利便性を発揮すると考えられる。そのため，お金は手に入りにくいと考えている場合，高額の買い物を避け，クレジットカードの利便性を評価しないことにより，クレジットカードの保有に至らないと考えられる。よって,「獲得困難性」は，クレジットカードを持っていない者は，持っている者よりも得点が高いと考えられる。

加えて，クーポン券の利用についても尋ねる。クーポン券を用いた場合，商品やサービスをより安価に手に入れることができる。そのため，お金は手に入りにくいと考えている場合に，利用が促されると考えられる。同様に，お金は大切であると考えている場合にも，お金を手元に残すように工夫すると考えられる。よって,「獲得困難性」と「重要性」は，クーポン券を利用する者の方が，利用しない者よりも得点が高いと予想される。

### 第２項　　方法

調査時期　2012 年 1 月および 4 月に実施した。

調査対象　国立大学 1 校，私立大学 1 校の計 2 校の大学生 209 名（男性 60 名，女性 136 名，不明 13 名）が回答した。年齢の平均は 20.34（*SD* ＝1.41）歳であった。

調査内容　（a）お金に対する信念尺度：研究 3 で作成した 5 下位尺度

30 項目を用いた。(b) 消費価値観：日戸・塩崎（2001）と野村総合研究所他（2013）を参考にして項目を作成した。商品が低価格であることを重視する価値観の「低価格志向」を 8 項目，商品の情報をよく集め，性能やデザインに納得してから購入することを重視する価値観の「こだわり志向」を 9 項目作成した。5 件法で回答を求めた。(c) クレジットカード肯定態度：クレジットカードを持つことを肯定する程度を測定するため，6 項目を作成した。項目は，心理学を専攻する大学院生 2 名により適切かどうかチェックを受けて修正を施した。「あなたは，商品を購入するとき，以下のようなことをどの程度考えますか。あてはまるところに○をつけて答えてください」と教示し，「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までの 5 件法で回答を求めた。(d) REC scale：研究 3 と同様に佐々木（1984）の尺度を用いた。(e) クレジットカードの保有枚数:現在保有しているクレジットカードの枚数の記入を求めた。なお，保有していない場合はゼロを記入するように求めた。(f) クーポン券の使用回数:この 1 ヵ月間のクーポン券の使用回数を尋ねた。なお，紙のクーポンだけではなく，携帯電話の画面を見せるものなども含めるよう指示し，1 度も使わなかった場合はゼロを記入するように求めた。(g) デモグラフィック変数：性別，年齢を尋ねた。

調査方法　授業時間の一部を利用して実施した。

### 第 3 項　　結果

**消費価値観項目およびクレジットカード肯定態度項目の得点化と基本統計量**

消費価値観項目について，当初の想定に従い，因子数を 2 にして最尤法・プロマックス回転で因子分析を行い，.35 以上の因子負荷を持つ項目を採用した（Table 7-1)。第 1 因子は 9 項目が負荷し，項目から「こ

だわり志向」因子と命名した。第 2 因子は 6 項目が負荷し，項目から「低価格志向」因子と命名した。因子間相関は.01 であり，2 つの因子はほぼ独立した関係であった。

クレジットカード肯定態度項目については，当初 1 次元を想定したため，主成分分析を行った。結果を Table 7-2 に示した。いずれの項目も.35 以上の負荷を示したため，全ての項目を用いて得点化した。いずれの項目群についても，それぞれ程度が強いほど高得点になるように得点化した。

各尺度の基本統計量を Table 7-3 に示した。新規に作成した項目群では，消費価値観尺度の「低価格志向」で α 係数が.66 とやや低かったが，その他は十分な値を示した。REC Scale についても α 係数が.63 および.69 とやや低い値であったが，先行研究との対応を重視し，そのまま用いた。

**Table 7-1　消費価値観項目の因子分析結果**

| 番号 | | F1 | F2 | 共通性 | *M* | *SD* |
|---|---|---|---|---|---|---|
| r14 | 何か買う時は、商品についての情報をたくさん得たいと思う。 | .71 | .08 | .52 | 3.86 | 0.84 |
| r6 | 買う前に、商品について調べておく。 | .68 | -.01 | .46 | 3.52 | 1.02 |
| r2 | 商品を買う時は、性能やデザインなど、細かいところまで調べる。 | .59 | .01 | .35 | 3.83 | 0.82 |
| r10* | 商品についての細かい情報は気にしない。 | -.52 | -.02 | .27 | 2.35 | 0.98 |
| r12 | 欲しい商品の機能やデザインに妥協することはない。 | .48 | -.04 | .24 | 3.37 | 0.97 |
| r16 | 情報が少なくてよくわからない商品は、買わないようにしている。 | .48 | .06 | .24 | 3.64 | 0.83 |
| r15 | 納得したもの以外、買いたくない。 | .48 | -.10 | .24 | 3.76 | 0.93 |
| r8 | すべてに納得した時だけ、商品を買う。 | .41 | .01 | .17 | 3.33 | 0.97 |
| r4 | 性能やデザインが気に入らない場合は、商品を買わない。 | .36 | -.03 | .13 | 4.33 | 0.67 |
| r17 | 気に入った商品ならば、お金を貯めてでも手に入れたい。 | .32 | -.18 | .14 | 4.10 | 0.81 |
| r13 | 品質に見合っていれば、多少値段が高くてもかまわない。 | .32 | -.31 | .20 | 4.09 | 0.70 |
| r3 | できるだけ安い商品を買いたい。 | .12 | .78 | .62 | 3.91 | 0.90 |
| r11 | 価格が安いことは、重要だ。 | .05 | .67 | .45 | 3.94 | 0.76 |
| r1 | 商品は、安ければ安いほどよい。 | -.02 | .58 | .34 | 3.01 | 1.04 |
| r5 | 性能があまり変わらない2つの商品があったときは、安い方の商品を買う。 | -.04 | .39 | .15 | 4.42 | 0.72 |
| r9* | 商品を買う時は、値段が高くても気にしない。 | .03 | -.38 | .14 | 2.77 | 1.04 |
| r7 | 値段が安ければ、機能や性能など他のことはあまり気にしない。 | -.14 | .35 | .14 | 2.17 | 0.90 |
| | 説明率 | | | 28.20% | | |
| | 因子間相関 | F1 | .01 | | | |

注1)*は逆転項目。
注2)*M*，*SD*については，欠損値のない全てのデータを用いた。

Table 7-2　クレジットカード肯定態度の主成分分析の結果

| 番号 | | 負荷量 | *M* | *SD* |
|---|---|---|---|---|
| u2 | クレジットカードを持つ利点はたくさんあると思う。 | .84 | 3.77 | 0.88 |
| u1 | クレジットカードは便利だと思う。 | .81 | 4.05 | 0.83 |
| u3 | クレジットカードを持っていると、支払いの手間が省けると思う。 | .74 | 3.97 | 0.82 |
| u4 | クレジットカードは、ポイントが貯まるので魅力的だと思う。 | .73 | 3.66 | 0.97 |
| u6 | クレジットカードの分割払い機能は魅力的だと思う。 | .53 | 2.73 | 1.16 |
| u5 | クレジットカードを持つことは、自分のステータスになると思う。 | .52 | 2.43 | 1.13 |
| | 寄与率 | 49.89% | | |

注）*M*，*SD*については，欠損値のない全てのデータを用いた。

Table 7-3　各尺度の基本統計量

| | *N* | *M* | *SD* | α 係数 |
|---|---|---|---|---|
| **お金に対する信念尺度** | | | | |
| ネガティブな影響源 | 208 | 3.45 | 0.84 | .93 |
| ポジティブな影響源 | 208 | 3.41 | 0.75 | .80 |
| 労働の対価 | 209 | 3.97 | 0.73 | .88 |
| 獲得困難性 | 208 | 4.26 | 0.74 | .94 |
| 重要性 | 206 | 4.49 | 0.60 | .92 |
| **消費価値観** | | | | |
| 低価格志向 | 207 | 3.45 | 0.55 | .66 |
| こだわり志向 | 207 | 3.70 | 0.54 | .78 |
| **クレジットカード肯定態度** | | | | |
| クレジットカード肯定態度 | 206 | 3.44 | 0.67 | .77 |
| **REC Scale** | | | | |
| 合理性 | 209 | 3.46 | 0.61 | .63 |
| 情動性 | 208 | 2.79 | 0.64 | .69 |

### お金に対する信念と各尺度の相関分析

各尺度間の相関係数を算出した（Table 7-4）。お金に対する信念尺度は，消費価値観の 2 下位尺度とは有意な相関を示さなかった。しかし，お金に対する信念尺度の「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」がクレジットカード肯定態度と正の有意な相関を示した（$r$=.20~.23, $p$<.01）。

さらに，「ネガティブな影響源」が REC Scale の「合理性」と有意な正の相関を示した（$r$=.14，$p$<.05）。また，「ネガティブな影響源」，「ポジティブな影響源」，「労働の対価」が REC Scale の「情動性」と有意な正の相関を示した（$r$=.15~.29，$p$<.05）。

Table 7-4　お金に対する信念尺度と各尺度との相関係数

| | 消費価値観 | | クレジットカード肯定態度 | REC Scale | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 低価格志向 | こだわり志向 | クレジットカード肯定態度 | 合理性 | 情動性 |
| **お金に対する信念尺度** | | | | | |
| ネガティブな影響源 | .06 | .09 | .13 | .14 * | .15 * |
| | (206) | (206) | (205) | (208) | (207) |
| ポジティブな影響源 | -.08 | .02 | .12 | -.11 | .29 ** |
| | (206) | (206) | (205) | (208) | (207) |
| 労働の対価 | .12 | .00 | .20 ** | .07 | .18 * |
| | (207) | (207) | (206) | (209) | (208) |
| 獲得困難性 | .13 | -.06 | .20 ** | -.05 | .07 |
| | (206) | (206) | (205) | (208) | (207) |
| 重要性 | .06 | .09 | .23 ** | .01 | .04 |
| | (204) | (204) | (203) | (206) | (205) |

注）カッコ内は$N$。$^{*}p$ <.05, $^{**}p$ <.01。

### お金に対する信念とクレジットカードの保有状況の関連

クレジットカードの保有状況（有・無）で群分けを行い，お金に対する信念の得点を従属変数とする $t$ 検定を行った。回答した 208 名のうち，クレジットカードを持っている者は 59 名，持っていない者は 149 名であった。$t$ 検定の結果，いずれの下位尺度でも有意な差は得られなかった。

### お金に対する信念とクーポン券の使用回数の関連

クーポン券の使用状況（有・無）で群分けを行い，お金に対する信念の得点を従属変数とする $t$ 検定を行った。回答した 209 名のうち，クーポン券を利用した者は 122 名，利用しなかった者は 87 名であった。$t$

検定の結果，いずれの下位尺度でも有意な差は得られなかった。

### 第４項　　考察

お金に対する信念と消費についての意識の関連を検討した。消費価値観とクレジットカード肯定態度を測定する項目を作成し，お金に対する信念との相関係数を求めた。また，お金に対する信念とクレジットカードの保有状況やクーポン券の利用の関連を検討した。

その結果，お金に対する信念尺度は，消費価値観の「低価格志向」および「こだわり志向」のいずれとも関連を示さなかった。当初は，「低価格志向」が「獲得困難性」と「重要性」は，価格感度と正の関連を示すと予想したが，関連は得られず，予想は支持されなかった。

相関が見られなかったことから，消費価値観はお金に対する信念とは独立の特性である可能性がある。消費は，金銭と商品の交換と見なすことができるが，本研究の結果からは，金銭への意識と商品への意識は独立であると考えられる。本研究では，金銭への意識と商品への意識に何らかの関連があると想定したが，金銭への意識と商品への意識は独立であったと考えられる。

REC Scale との関連については，「ポジティブな影響源」が研究 3 と同様に「情動性」と正の相関を示し，結果が再現されたが，それ以外は研究 3 とは異なる結果となっていた。「ポジティブな影響源」はお金を用いてよい効果を得る内容であることから，関連が示されたと考えられる。「ポジティブな影響源」を強く持つ者は，購買場面で偶然見かけた商品をお金と交換する体験を多く得た結果，お金は人によい影響をもたらすという信念を強く持つものと考えられる。

クレジットカード肯定態度については，「獲得困難性」と「重要性」が正の関連を示すと予想した。お金に対する信念尺度の「労働の対価」，

「獲得困難性」,「重要性」は，クレジットカード肯定態度と正の関連を示し,「獲得困難性」と「重要性」については予想と合致した結果が得られた。「労働の対価」との関連は予想していなかったが，お金は仕事の結果得られると考える者ほどクレジットカードに肯定的であるという関連は，収入を得る方法が明確に意識されている場合に，消費に抵抗がなくなるものと考えられ，整合性のある関連である。

本研究でクレジットカード肯定態度を測定するために用いた項目は，クレジットカードの便利さや利点を強調する内容となっていたことを考え合わせると，お金を仕事の結果得られるもので，手に入りにくく，重要なものであると考える者ほど，クレジットカードの便利さや利点をより強く認識していたと考えられる。これらのことから，お金に対する信念のうち，労働や重要性に関する内容は，消費にも効果を持つことが明らかになった。消費というお金を失う行為に際して，労働や重要性というお金の入手に関連するような内容が同時に意識されることによって，収支のバランスを保つ働きがあると推察される。

一方で，クレジットカードの保有の有無によってお金に対する信念尺度の得点を比較したところ，差は得られなかった。「獲得困難性」において，クレジットカードを持っていない者は，持っている者よりも得点が高いと予測したが，予測は支持されなかった。クレジットカード肯定態度とお金に対する信念の一部が相関を示したことを鑑みると，クレジットカードへの意識とお金に対する信念は関連するが，実際にクレジットカードを持つという行動は手続き上の手間や管理のコストなどから実行されにくく，日本の大学生では関連が得られにくかったものと考えられる。

また，クーポン券の利用の有無によってお金に対する信念尺度の得点

を比較したところ，差は得られず,「獲得困難性」と「重要性」は，クーポン券を利用する者の方が，利用しない者よりも得点が高いという予想は支持されなかった。本研究では，回答時点までの 1 ヵ月間のクーポン券の利用について尋ねたが，期間の間にクーポン券を発行している店に行く機会がないなど,環境の影響があったものと考えられ,そのために，お金に対する信念と関連が見られにくかった可能性がある。しかしながら，消費価値観の低価格志向についてもお金に対する信念との関連が得られなかったため，安さに関連するクーポン券の利用でも差が見られなかったことは整合性のある結果であるとも考えられる。これらのことから，お金に対する信念には，お金を節約する機能はないと推察される。

本研究では，お金に対する信念と消費についての意識の関連を検討した。これまでのお金に対する態度の研究では，不適応的な購買行動（Hanley & Wilhelm, 1992; Roberts & Jones, 2001）しか扱われてこなかった。しかし，不適応的な購買行動をとる者は全体的に考えれば少数であり，大部分の者が適応的な購買行動をとっている。本研究は，適応的な購買行動の傾向を扱った，新たな試みであった。

また，クレジットカード肯定態度やクレジットカードの保有状況についても，同様のことが言える。Tokunaga（1993）では，クレジットカードの利用に問題がある者とない者を比較しているが，問題がない状態を積極的に扱ったものではない。本研究では，クレジットカードを堅実かつ有効に利用することに寄与すると考えられる態度と，お金に対する信念の関連を明らかにすることができた。大学生は，クレジットカードの利用が開始される前後の年齢であるため，大学等において，大学生に対し，よりよいクレジットカードへの接し方をあらかじめ啓発しておくことが可能である。そのため，本研究の知見を応用した予防的介入も可

能であると考えられる。

## 第２節　お金に対する信念と貯蓄意識の関連の検討【研究 7】

### 第１項　目的

お金に対する信念が，貯蓄とどのような関連を示すか検討することを目的とする。

ガンガ・尾崎・清水（2006）でも言及されている通り，若年層の貯蓄行動について理解を深めることは，日本の家計貯蓄率の低下を理解する上で重要である。2013 年度には，家計貯蓄率は初めてマイナスとなり，-1.3%となった（朝日新聞，2014）。本研究では，大学生の貯蓄行動の規定因としてお金に対する態度を想定し，関連を検討する。大学生は，卒業後，社会に出て働き，給料を得て消費や貯蓄を行う。そのため，社会に出る直前の状態である大学生の貯蓄行動を理解することによって，若い世代の労働者の貯蓄行動についてもある程度類推することが可能と考えられる。

お金に対する信念と貯蓄の関連を明らかにするために，貯蓄に関する内容として，将来の経済状況への考え方，貯蓄への積極性，貯蓄状況，貯蓄の理由などを尋ねる。

将来の経済的不安としては，将来の暮らし向きが悪化してしまうのではないかという懸念を，項目を新たに作成して測定する。また，貯蓄への積極性も，項目を新たに作成して測定する。

将来の経済状況への不安と貯蓄積極性は，お金に対する信念の「獲得困難性」および「重要性」と正の関連を示すと予想される。なぜなら，お金が手に入れにくい，あるいは生活上重要であれば，将来について考えやすく，また，あらかじめ保存を計画すると考えられるためである。

貯蓄の状況として，貯蓄額について尋ねる。貯蓄積極性と同様に，「獲得困難性」および「重要性」が高いほど，貯蓄額も高いと予想される。

貯蓄の目的には，ガンガ・尾崎・清水（2006）で使用された 4 種の目的を用いる。第一は「人生設計を助けるため（引っ越し資金や結婚後の生活資金など)」，第二は「急な出費に備えるため（病気や災害への備えなど)」，第三は「遊びの予定や欲しいものを買うため（旅行やレジャーの資金など)」，第四は「お金がない不安を解消するため」である。同じ貯蓄という行動が見られる場合にも，理由は異なると考えられる。貯蓄目的とお金に対する態度の研究はこれまで行われていないため，探索的に検討を行うが，貯蓄目的によって，お金に対する信念に何らかの違いが見られることが予想される。

### 第 2 項　　方法

調査時期　2013 年 5 月および 2014 年 4 月に実施した。

調査対象　関東地方の国立大学 1 校および私立大学 1 校の大学生合計 180 名(男性 83 名, 女性 97 名)が質問紙に回答した。年齢の平均は 20.48（$SD$= 1.10）歳であった。

調査内容　（a）お金に対する信念尺度：研究 3 で作成した 5 下位尺度 30 項目を用いた。(b）将来の経済生活への不安感項目（以降,「将来の不安」と表記)：新たに作成した 10 項目を用いた。「あなたの将来の生活の予想についてお尋ねします。10 年ほど後の未来を思い浮かべて，いま現在考えていることについて，当てはまるところに○をつけて答えてください」と教示し,「そう思う」から「そう思わない」までの 5 件法で回答を求めた。(c）貯蓄積極性：新たに作成した 8 項目を用いた。「あなたの普段の貯蓄に対する心がまえについてお尋ねします。当てはまるところに○をつけて答えてください」と教示し,「非常によくあてはまる」から「まったくあてはまらない」の 5 件法で回答を求めた。(d）現在の貯蓄額：「1 万円未満」,「1 万円以上 10 万円未満」,「10 万円以上」,「回

答しない」の 4 つの選択肢から 1 つを選択するように教示した。(e) 貯金をしているかどうか：現在，貯金をしようと考えているかどうか尋ね，「貯金をしている」か「貯金をしていない」のいずれかを選択させた。「貯金をしている」と回答した人のみ，設問（f）に回答するように教示した。(f) 貯蓄目的：ガンガ・尾崎・清水（2006）に倣い，「人生設計を助けるため（引っ越し資金や結婚後の生活資金など)」,「急な出費に備えるため（病気や災害への備えなど)」,「遊びの予定や欲しいものを買うため（旅行やレジャーの資金など)」,「お金がない不安を解消するため」の 4 種の理由を提示し，より当てはまる順に 1 位から順位をつけるよう求めた。 (g) デモグラフィック項目：性別，年齢などを尋ねた。

調査方法　授業時間の一部を利用して実施した。

### 第 3 項　　結果

**将来の不安および貯蓄積極性の主成分分析と基本統計量**

将来の不安および貯蓄積極性を得点化するため，それぞれ主成分分析を行った（Table 7-5, Table 7-6)。いずれにおいても全ての項目で.35 以上の負荷が見られたため，全ての項目を用いて得点化を行った。

各尺度の基本統計量を Table 7-7 に示した。新たに作成した将来の不安および貯蓄積極性の α 係数は十分に高かった。

Table 7-5　将来の不安項目の主成分分析

| | | 負荷量 | *M* | *SD* |
|---|---|---|---|---|
| A6 | いつか収入が途絶えて、食べていけなくなるような気がする。 | .78 | 3.12 | 1.15 |
| A5 | 将来、働けなくなって、<br>生活に困ることもあるかもしれないと思う。 | .74 | 3.75 | 1.05 |
| A3 | 景気がさらに悪くなって、<br>生活できなくなってしまうような気がする。 | .74 | 3.31 | 1.17 |
| A7* | 将来も自分の経済生活は大丈夫だと思う。 | -.72 | 2.80 | 1.12 |
| A4* | 自分の将来の生活に不安は感じない。 | -.71 | 2.31 | 1.11 |
| A10 | 自分は将来、働いたり生活したりすることに<br>困ってしまうような気がする。 | .68 | 3.22 | 1.03 |
| A1 | 将来、お金がなくなってしまったらどうしようかと心配だ。 | .66 | 4.15 | 0.92 |
| A9* | 将来は現在よりいい暮らし向きになっていると考えている。 | -.65 | 2.77 | 1.11 |
| A2 | お金がなくなってしまい、生活できなくなったらと思うと心配だ。 | .54 | 4.33 | 0.87 |
| A8* | 10年後にもいまと同じ暮らしができると考えている。 | -.54 | 2.49 | 1.13 |
| | 寄与率 | 46.29% | | |

注1）*は逆転項目。
注2）*M*，*SD*については，欠損値のない全てのデータを用いた。

Table 7-6　貯蓄積極性項目の主成分分析

| | | 負荷量 | *M* | *SD* |
|---|---|---|---|---|
| B4 | 積極的に貯金をしていきたい。 | .89 | 3.79 | 1.12 |
| B5 | 貯金が増えるように工夫したい。 | .78 | 3.95 | 1.01 |
| B2* | 貯金には興味がない。 | -.76 | 2.06 | 0.98 |
| B7 | 日常的に、お金を貯めることを意識して生活したい。 | .75 | 3.69 | 1.13 |
| B8* | 貯金をしたいとは思わない。 | -.69 | 1.73 | 1.02 |
| B1 | 貯金をするように心がけている。 | .61 | 3.35 | 1.29 |
| B3 | 貯金は多いほうがいいと思う。 | .58 | 4.29 | 0.97 |
| B6 | 貯金があると安心だ。 | .54 | 4.33 | 0.84 |
| | 寄与率 | 50.11% | | |

注1）*は逆転項目。
注2）*M*，*SD*については，欠損値のない全てのデータを用いた。

Table 7-7　各尺度の基本統計量

| | *N* | *M* | *SD* | α 係数 |
|---|---|---|---|---|
| **お金に対する信念尺度** | | | | |
| ネガティブな影響源 | 179 | 3.63 | 0.80 | .91 |
| ポジティブな影響源 | 179 | 3.40 | 0.78 | .80 |
| 労働の対価 | 179 | 4.02 | 0.73 | .87 |
| 獲得困難性 | 179 | 4.31 | 0.69 | .91 |
| 重要性 | 178 | 4.49 | 0.58 | .90 |
| **貯蓄関連項目** | | | | |
| 将来不安 | 180 | 3.55 | 0.73 | .87 |
| 貯蓄態度 | 180 | 3.95 | 0.74 | .85 |

各尺度の相関分析

お金に対する信念尺度と将来の不安および貯蓄積極性の相関係数を算出した（Table 7-8）。お金に対する信念尺度の各下位尺度と将来の不安の間に有意な正の相関が見られた（$r$=.15~32, $p$<.05）。また，お金に対する信念尺度の「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」下位尺度と貯蓄積極性の間に有意な正の相関が見られた（$r$=.16~19, $p$<.05）。

Table 7-8　お金に対する信念尺度と将来の不安および貯蓄積極性の相関係数

| | 将来の経済的不安 | 貯蓄積極性 |
|---|---|---|
| **お金に対する信念尺度** | | |
| ネガティブな影響源 | .26 ** | .10 |
| | (179) | (179) |
| ポジティブな影響源 | .15 * | .06 |
| | (179) | (179) |
| 労働の対価 | .17 * | .16 * |
| | (179) | (179) |
| 獲得困難性 | .32 ** | .19 * |
| | (179) | (179) |
| 重要性 | .22 ** | .17 * |
| | (178) | (178) |

注）カッコ内は$N$。*$p$ <.05, **$p$ <.01。

**貯蓄額別のお金に対する信念尺度の得点の差の検討**

貯蓄額によってお金に対する信念に違いが見られるか検討するため，貯蓄額の 3 群による分散分析を行った。回答した 161 名における貯蓄額の各群の人数は，「1 万円未満」が 25 名，「1 万円以上 10 万円未満」が 59 名，「10 万円以上」が 77 名であった。貯蓄額の群を独立変数に，お金に対する信念尺度を従属変数にして分散分析を行ったところ，いずれの下位尺度でも有意な結果は得られなかった。

**貯蓄理由別のお金に対する信念尺度の得点の差の検討**

貯蓄目的によってお金に対する信念に違いが見られるか検討するため，貯蓄目的で 1 位に選んだ目的ごとに 4 群を作成し，分散分析を行った。

回答した 127 名のうち，「人生設計を助けるため」（以下，「人生設計」群）が 36 名，「急な出費に備えるため」（以下，「急な出費準備」群）が 30 名，「遊びの予定や欲しいものを買うため」（以下，「遊びの予定」群）

が 38 名,「お金がない不安を解消するため」(以下,「不安解消」群) が 23 名であった。

分散分析の結果, お金に対する信念尺度のうち,「重要性」において得点の差が見られた ($F$ (3, 123) =4.67, $p$<.01)。Tukey 法を用いて多重比較を行ったところ,「不安解消」群の得点が,「急な出費準備」群および「遊びの予定」群の得点と比べて, 有意に高かった (Figure 7-1)。各群の平均値は,「人生設計」群が 4.48 ($SD$=0.49),「急な出費準備」群が 4.28 ($SD$=0.70),「遊びの予定」群が 4.46 ($SD$=0.52),「不安解消」群が 4.83 ($SD$=0.33) であった。

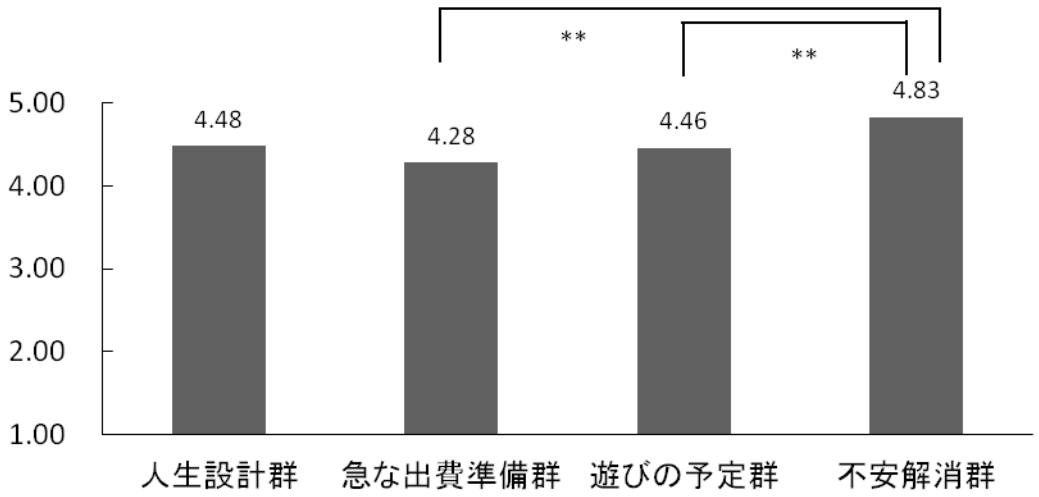


**Figure 7-1** 貯蓄理由ごとの重要性得点

注) *$p$<.05, **$p$<.01。

### 第 4 項 考察

本研究の目的は, お金に対する信念と貯蓄の関連を検討することであった。

相関分析からは，お金に対する信念尺度の 5 下位尺度において，将来の経済的な不安との正の関連が見られた。特に「ネガティブな影響源」，「獲得困難性」，「重要性」の 3 下位尺度が比較的値が大きく，これらの考えが強いほど，将来の生活における不安感を強く持っていた。当初，将来の経済状況への不安や貯蓄積極性は，お金に対する信念の「獲得困難性」および「重要性」と正の関連を示すと予想し，予想と合致した結果が得られた。よって，お金は手に入れにくく，生活上重要であると考えている者ほど，将来起こりうる経済的な危機について考えやすく，不安を覚えやすいことが明らかとなった。

加えて，予想を行わなかった部分として，「ネガティブな影響源」で正の関連が得られた。お金は人に悪い影響を与えるものだと考えているほど，将来に不安を感じているという関連であり，解釈がやや困難である。これらは，お金と将来への否定的，悲観的な見方という点で共通しているため，回答者本人の悲観主義的なパーソナリティの影響も考えられる。

また，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」下位尺度は貯蓄積極性と有意な正の相関を示していた。値は小さかったものの，「獲得困難性」と「重要性」については，お金は手に入れにくく，生活上重要であると考えている者ほど，あらかじめ保存を計画するという予想と合致した結果が得られた。「労働の対価」の関連については，給料と貯蓄の関連性を示唆する新たな結果であった。家計では，労働によって賃金を得て，その賃金を貯蓄や消費に充てることから，「労働の対価」と貯蓄積極性の間に関連が見られたものと考えられる。

貯蓄額によってお金に対する信念に違いが見られるか検討するため，貯蓄額の 3 群による分散分析を行ったところ，貯蓄額によってお金に対

する信念に違いは見られなかった。研究 7 でも，お金に対する信念とクレジットカードへの態度の間には関連が見られたものの，お金に対する信念とクレジットカードの保有枚数の間には関連が見られなかった。この結果と同様に，本研究でも，お金に対する信念と貯蓄積極性との間では関連が見られたが，お金に対する信念と貯蓄行動の結果である貯蓄額の間には関連が見らなかった。実際の行動や行動の結果には環境の影響が大きいため，このような結果が得られたものと考えられる。

加えて，貯蓄目的で群分けを行って分散分析を行ったところ，「重要性」で，貯蓄目的による差が見られ，不安解消のために貯蓄を行う者の得点が，他の目的で貯蓄を行っている者よりも高かった。貯蓄目的の中でも，不安解消は，他の 3 つの理由と比較して，より感情的な理由である。お金に対する信念の他の下位尺度では差が見られなかったことを併せると，生活上のお金の大切さを表す「重要性」は，感情面と関連しながら貯蓄を促す機能を持つと考えられる。

本研究の結果から，貯蓄領域ではお金に対する信念のうち，「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が促進的な役割を果たすと考えられる。中でも,「重要性」は,将来の経済的な不安や貯蓄への積極性だけでなく，貯蓄目的とも関連している点で特徴的であった。「重要性」は，お金の生活上の有用性についての信念であるため，これらの結果が得られたものと考えられる。お金の生活上での有用性を意識することで，現在の生活だけでなく，将来の生活を案じ，将来の生活に備える行動が促されると推測される。

本節の結果から，若い世代の労働者の貯蓄行動についてある程度類推することが可能と考えられることから，貯蓄率低下の背景を理解する手立てとなると考えられる。

また，お金に対する態度研究の文脈では，これまで貯蓄については扱われてこなかった。この点について，本研究は新たな結果を得たと考えられる。

## 第３節　お金に対する信念と職業意識の関連の検討【研究 8】

### 第１項　目的

本節では，お金に対する信念と職業についての意識の関連を検討することを目的とする。

第 5 章第 1 節第 4 項で紹介したように，職業とは，「個人が行う仕事で、報酬を伴うか又は報酬を目的とするもの」とされており（総務省，2009），報酬を伴うことが要件であることが強調されている。報酬は金銭で支払われるため，職業について考える際には，お金に対する信念が何らかの影響を与えていることが予想される。そのため，本節では，お金に対する信念と職業についての意識の関連を検討することとする。

職業についての意識としては，職業価値観（菰田，2006）とフリーターについての考え（安達，2007）を尋ねる他，卒業後すぐに就職する必要性や，給料をどの程度重視するかについても尋ねる。

職業意識の測定には，菰田（2006）の職業価値観尺度を使用する。大学生の職業価値観と職業選択行動の関連を検討した菰田（2006）では，「自己価値」，「社会的評価」，「労働条件」，「人間関係」，「組織からの独立」の 5 つの下位尺度を持つ職業価値観尺度が作成されている。「自己価値」は，自分の能力を生かし，やりがいを感じる仕事を重視する内容である。「社会的評価」は，他者や社会からの評価を重視する内容である。「労働条件」は，残業がなく，収入が安定していることなどを重視する内容である。「人間関係」は，職場での人間関係の良さを重視する内容である。「組織からの独立」は，将来的に独立して起業できることを重視する内容である。職業選択行動との関連からは，「社会的評価」と「人間関係」の得点が低い人は，職業選択場面で困難に直面した場合に，フリーターを選択しやすい可能性が示されている。また，「自己価値」，「社会的

評価」,「組織からの独立」の得点が高い人は，自分の希望を曲げないという選択をしやすい可能性が示されている。これらのことから，職業価値観尺度では，各尺度において得点が高いことは，好ましい状態を指すと考えられる。

お金に対する考えの中でも，働くことに関連した内容を意識している人ほど，職業について明瞭なイメージを持っていると考えられることから，お金に対する信念尺度のうち,「労働の対価」と「獲得困難性」の得点が高いほど，職業価値観尺度の各下位尺度の得点が高いことが予測される。また，お金の重要性を強く認識している人ほど，職業の継続や安定を望むと考えられ，その結果，労働条件を気にかけると考えられる。そのため,「重要性」の得点が高いほど,「労働条件」の得点も高いことが予測される。

加えて，職業意識の一形態として，フリーターへの意識も測定する。測定には,安達（2007）のフリーターに対する肯定的態度尺度の中の「積極的受容」下位尺度を使用する。「積極的受容」下位尺度は，フリーターを「格好いい」,「一歩進んだ働き方だ」など，積極的に肯定する内容となっている。フリーターを肯定する者は，働くことと関連したお金に対する考えが確立されていないために，収入が不安定であるフリーターを肯定することができるものと考えられる。そのため，お金に対する信念尺度の「労働の対価」と「獲得困難性」が低いほど,「積極的受容」の得点は高いことが予測される。また，フリーターを肯定する人は，お金をあまり重要と考えていないために，不安定な収入が気にならない可能性がある。そのため,「重要性」の得点が低いほど,「積極的受容」の得点は高いと考えられる。

さらに，就職しなければならないという感覚についても，項目を作成

して測定する。就職しなければならないという感覚は，就職への心理的な準備ができているために生じると考えられる。就職への心理的な準備状態の中には，お金に対する考えも含まれると考えられる。そのため，就職しなければならないと感じる程度が高いほど,「ネガティブな影響源」を除くお金に対する信念尺度の 4 下位尺度の得点が高いと予測される。就職への準備状態は，お金に対する考えの形成とともに進むと考えられるが,「ネガティブな影響源」については，お金は人に悪い影響を与えるという内容であるため，収入に関連する就職への感じ方とは関連しないだろう。

また，高い給料をもらうことを重視する程度も，新たに測定する。お金を重要と考えているほど,高い給料を望むと考えられるため,「重要性」が高いほど，給料を重視する程度も高いことが予測される。

### 第 2 項　　方法

調査時期　2012 年 10 月から 11 月にかけて実施した。

調査対象　関西地方および関東地方の私立大学 2 校，国立大学 1 校の計 3 校の大学生が調査に協力した。調査に協力した学生は 160 名（男性 76 名，女性 78 名，不明 6 名）であった。平均年齢は 20.45 歳（$SD$＝1.31）であった。なお，職業について尋ねる性質上，2 年生以上の学生しか履修していない科目において実施した。

調査内容　（a）お金に対する信念尺度：研究 3 で作成した 5 下位尺度 30 項目を用いた。（b）職業価値観尺度（菰田, 2006）:「自己価値」,「社会的評価」,「労働条件」,「人間関係」,「組織からの独立」の 5 下位尺度から構成されている。各下位尺度は 4～12 項目であり，合計 41 項目である。「とてもこだわる」から「まったくこだわらない」までの 4 件法で回答を求めた。項目を Table 7-9 に示した。（c）フリーターに対する

肯定的態度尺度（安達，2007）の「積極的受容」下位尺度：フリーターという生き方や働き方を肯定する傾向を測定する尺度のうち，フリーターを積極的に肯定する内容の下位尺度である。8 項目で構成され，「とても賛成」から「とても反対」までの 5 件法で回答を求めた。項目を Table 7-10 に示した。（d）就職切迫感：大学卒業後，すぐに職に就く必要性を測定する 6 項目を独自に作成した 5 件法で回答を求めた。なお，就職切迫感の項目は，大学卒業後に就職を希望する人のみ回答するように指示した。（e）高い給料を重視する程度：1 項目，5 件法で尋ねた。高い給料を重視する程度も，（d）と同様に，就職を希望する人のみ回答するように指示した。（f）デモグラフィックな変数：性別，年齢，学年を尋ねた。

Table 7-9　職業価値観尺度の項目

| | |
|---|---|
| **自己価値** | |
| | 自分の能力が生かせる仕事ができる |
| | 自分の可能性が広がる仕事ができる |
| | 自分の個性が生かせる仕事ができる |
| | やりがいのある仕事ができる |
| | 職場での経験が自身の成長につながる |
| | 専門的な仕事ができる |
| | 自分の責任において仕事ができる |
| | 自分に合った仕事の内容である |
| | 他人の役に立つ仕事ができる |
| | 仕事によって自分に変化が感じられる |
| | 自分のやりたいと思った仕事ができる |
| | 将来性のある仕事ができる |
| **社会的評価** | |
| | 世間から高い評価を受けられるような仕事ができる |
| | 他人から尊敬される仕事ができる |
| | 社会で認められる仕事ができる |
| | 社会貢献になる仕事ができる |
| | リーダーシップが発揮できる |
| | 成果が目に見える仕事ができる |
| | 大手の会社である |
| | 職場で周囲の人々から頼りにされる |
| | 定年まで同じ会社に勤めることができる |
| **労働条件** | |
| | 残業がほとんどない |
| | 土日は必ず休める |
| | プライベートの予定を優先できる |
| | 安定した収入が得られる |
| | 転勤がない |
| | フレックスタイムなど勤務時間に融通がきく |
| | 高い給料がもらえる |
| | リストラ(整理解雇)がない |
| | 職場が地元にある |
| | 他人にあれこれ指図されない |
| **人間関係** | |
| | 職場で周囲の人々との信頼関係が気づける |
| | 同僚との雰囲気がよい |
| | 仕事上で人とのつながりが実感できる |
| | 職場で周囲の人々から受け入れられる |
| | 人々とのつながりを実感するような仕事ができる |
| | 仕事上で人との出会いが多い |
| | 尊敬できる上司がいる |
| **組織からの独立** | |
| | 新しい事業を自分で起こす機会に恵まれる |
| | 数多くの種類の仕事が経験できる |
| | 将来、独立することができる |
| | 自分の考えた新しいアイディアが生かせる |

Table 7-10　フリーターに対する肯定態度尺度の

「積極的受容」下位尺度の項目

| 積極的受容 |
|---|
| フリーターは格好いい生き方だ |
| フリーターは賢い選択である |
| フリーターは一歩進んだ働き方だ |
| フリーターは自由を追求する生き方だ |
| フリーターとして生きるのもいい |
| フリーターは新しいライフスタイルだ |
| フリーターでも充実した生活が送れる |
| フリーターは豊かな社会の象徴だ |

調査方法　授業内で配布しその場で回答してもらう方法と，授業内で配布し持ち帰って回答してもらい後日回収する方法の 2 種類の方法で行われた。

### 第 3 項　　結果

#### 就職切迫感項目の主成分分析

就職切迫感項目について，主成分分析を行った。その結果，第 1 主成分による説明率が 46.64%と高かったため，1 次元性を仮定して得点化することとした（Table 7-11）。「大学卒業後，わたしが働かないと，家族が経済的に困ってしまうだろう」という項目の主成分負荷量がやや低かったため，この項目については使用しないこととした。

Table 7-11　就職切迫感の主成分分析の結果

| 番号 | | 負荷量 | *M* | *SD* |
|---|---|---|---|---|
| N1 | わたしは、大学を卒業後、すぐに正社員として働きたい。 | .82 | 4.10 | 1.06 |
| N4 | わたしは、大学卒業後は正社員として働くのが目標だ。 | .79 | 4.19 | .96 |
| N3* | わたしは、大学卒業後はすぐに正社員として働く必要がない。 | -.77 | 1.94 | .99 |
| N6 | わたしは大学卒業後、人並みにちゃんとした就職をしたいと思う。 | .69 | 4.59 | .69 |
| N2 | 大学卒業後、働かないと、わたしは経済的に困ってしまうだろう。 | .57 | 4.02 | 1.07 |
| N5 | 大学卒業後、わたしが働かないと、家族が経済的に困ってしまうだろう。 | .33 | 3.01 | 1.44 |
| | 寄与率 | 46.64% | | |

注1）*は逆転項目。N5は主成分負荷量が低かったため、以降の分析には使用しなかった。
注2）*M*，*SD*については，欠損値のない全てのデータを用いた。

### 各尺度の基本統計量

各尺度の基本統計量を Table 7-12 に示した。職業価値観尺度の「組織からの独立」でα係数がやや低かったが，既存の尺度であることから，対応を優先し，そのまま用いることとした。

Table 7-12　各尺度の基本統計量

| | *N* | *M* | *SD* | α 係数 |
|---|---|---|---|---|
| **お金に対する信念尺度** | | | | |
| ネガティブな影響源 | 158 | 3.57 | 0.88 | .92 |
| ポジティブな影響源 | 159 | 3.34 | 0.77 | .83 |
| 労働の対価 | 160 | 3.97 | 0.65 | .77 |
| 獲得困難性 | 159 | 4.28 | 0.72 | .92 |
| 重要性 | 159 | 4.51 | 0.49 | .85 |
| **職業価値観尺度** | | | | |
| 自己価値 | 159 | 3.18 | 0.52 | .90 |
| 社会的評価 | 159 | 2.70 | 0.55 | .83 |
| 労働条件 | 160 | 2.80 | 0.49 | .80 |
| 人間関係 | 159 | 3.20 | 0.60 | .86 |
| 組織からの独立 | 159 | 2.37 | 0.62 | .67 |
| **フリーターに対する肯定的態度尺度** | | | | |
| 積極的受容 | 159 | 2.26 | 0.77 | .86 |
| **独自の項目による測定** | | | | |
| 就職切迫感 | 124 | 4.19 | 0.71 | .78 |
| 給料の高さ重視度 | 128 | 3.73 | 0.81 | - |

### 職業意識とお金に対する信念の関連

就職希望者を対象に，お金に対する信念尺度の各下位尺度を説明変数，職業価値観尺度の各下位尺度を目的変数とする重回帰分析を行った。説明変数の投入には，強制投入法を用いた。得られたパスを，Figure 7-2 に示す。

得られたパスについて，目的変数に基づいて述べる。まず，職業価値観尺度の「自己価値」に対して，お金に対する信念尺度の「労働の対価」

との間に正のパスが見られた（$\beta = .36$, $p<.01$）。つまり，自分の能力を生かして仕事をしたいという考えは，お金を仕事の結果得られるものであると考えているほど高かった。

次に,「社会的評価」と「労働の対価」の間に正のパスが見られた（$\beta = .49$, $p<.01$）。つまり，社会的に認められた仕事をしたいという考えは，お金を仕事の結果得られるものであると考えているほど高かった。

また,「労働条件」と「重要性」の間に正のパスが見られた（$\beta = .23$, $p<.05$）。つまり，就業時間が守られ，転勤やリストラのない安定した仕事を望む考えは，お金は生活する上で大切なものであると考えているほど高かった。

さらに,「人間関係」と「労働の対価」の間に正のパスが見られた（$\beta = .27$, $p<.01$）。職場での良好な人間関係を重視する考えは，お金は仕事の結果得られるものであると考えているほど高かった。また,「人間関係」と「獲得困難性」の間にも正のパスが見られた（$\beta = .21$, $p<.05$）。つまり，職場での良好な人間関係を重視する考えは，お金は手に入りにくいものであると考えているほど高かった。

最後に,「組織からの独立」と「労働の対価」の間に正のパスが見られた（$\beta = .27$, $p<.01$）。つまり，将来的に起業したいという考えは，お金は仕事の結果得られるものであると考えているほど高かった。

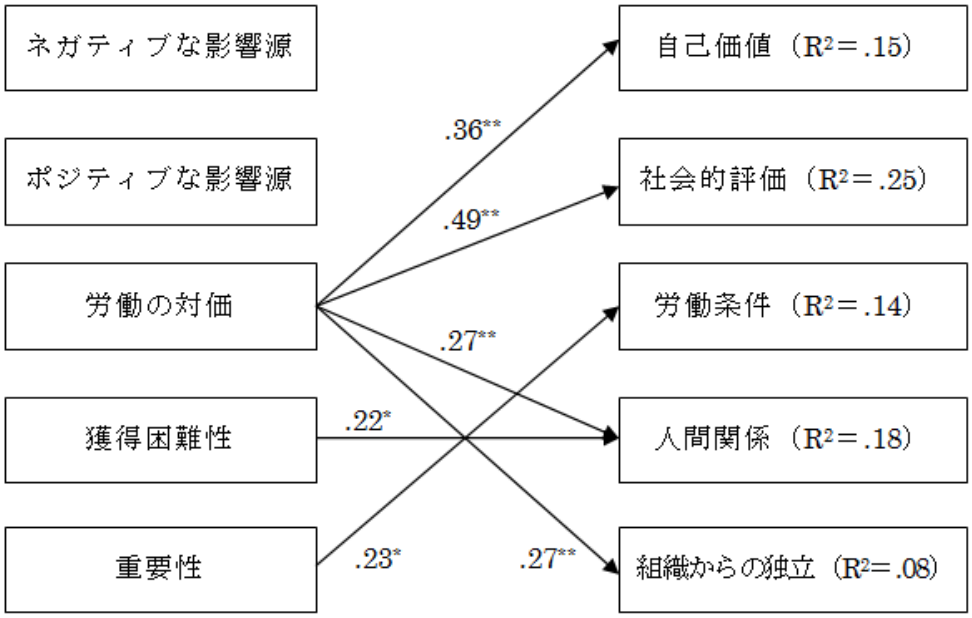


**Figure 7-2**　お金に対する信念と職業価値観の関連

**就職希望者の就職切迫感および給料重視度とお金に対する信念の関連**

就職切迫感と給料の高さを重視する程度とお金に対する信念の相関係数を算出した（Table 7-13）。「就職切迫感」は，「ネガティブな影響源」を除くお金に対する信念尺度の 4 下位尺度と有意な正の相関を示した（$r$=.24~.37, $p$<.01）。「就業切迫感」と最も高い相関係数の値を示したのは「重要性」であった。4 下位尺度との相関から，就職しなければならないと強く感じている人ほど，お金は良いものであり，労働の結果得られるが，手に入れにくく，しかしながら重要であると考える傾向が示された。

「給料の高さ重視度」は，「重要性」のみと有意な正の相関を示した（$r$=.29, $p$<.01）。給料の高さをより重視する人ほど，お金を生活していく上で重要なものであると考えていた。

Table 7-13　お金に対する信念尺度と各変数間の相関係数

| | フリーター肯定態度尺度 | | |
|---|---|---|---|
| | 積極的受容 | 就職切迫感 | 給料の高さ重視度 |
| **お金に対する信念尺度** | | | |
| ネガティブな影響源 | .09<br>(157) | -.02<br>(122) | .02<br>(126) |
| ポジティブな影響源 | .01<br>(158) | .27 ** <br>(123) | .15<br>(127) |
| 労働の対価 | .00<br>(159) | .28 ** <br>(124) | .10<br>(128) |
| 獲得困難性 | .11<br>(158) | .24 ** <br>(123) | -.05<br>(127) |
| 重要性 | -.09<br>(158) | .37 ** <br>(123) | .29 ** <br>(127) |

注）カッコ内は$N$。*$p$ <.05, **$p$ <.01。

第４項　　考察

本節の目的は，お金に対する信念と，職業についての考え方の関連を検討することであった。

お金に対する信念尺度を独立変数，職業価値観尺度を従属変数とした重回帰分析を行った。その結果,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が職業価値観尺度と正の関連を示した。

特に,「労働の対価」が，職業価値観の 5 下位尺度のうち，4 下位尺度と関連を示したため，重要な働きを有すると考えられる。当初,「労働の対価」は，職業価値観尺度の全ての下位尺度と正の関連を示すと予測していたが,「労働条件」とは関連が示されず，部分的に想定とは異なる結果となった。「労働条件」は，労働環境の良さを重視する内容であったた

め，お金を仕事の結果と捉える考え方とは関連を示さなかったものと考えられる。

また，「獲得困難性」が「人間関係」と関連を示した。当初，「獲得困難性」は職業価値観の全ての下位尺度と関連を示すと予測したが，「人間関係」としか関連が得られず，予測と大きく異なる結果となった。「獲得困難性」は，労働に関連した内容であるため，職業価値観の全ての下位尺度と関連を示すと予測したが，「獲得困難性」は労働に関連する内容の中でも，消極的な性質を持つために，職業に対して積極的な価値づけを行っている程度を測定する職業価値観尺度とは全般的な関連が見られなかったと考えられる。

一方で，「重要性」については，「労働条件」と関連を示すと予測した。分析の結果，予測通りの関連が得られ，お金の重要性を強く認識している人ほど，職業の継続や安定を望み，その結果，労働条件を気にかけることが示唆された。

お金に対する信念と職業価値観の間に見られた関連は次のようなものであった。「労働の対価」は，お金は仕事の結果得られるものであるという考えであるため，職業価値観尺度の複数の下位尺度との関連は，お金と仕事のつながりについて意識できているほど，職業の様々な側面に対しても考えが深まっているという状態であるととらえることができる。また，「獲得困難性」と「人間関係」の関連は，お金は手に入りにくいと考えるほど，職業選択に際しては，人間関係の円滑さを気にするという関連であると考えられる。お金の手に入りにくさを意識するほど，離転職には慎重になり，一度就いた職を継続したいと望むと考えられるが，就職前の段階では，学校環境からも類推可能である人間関係の円滑さが職業継続に関連すると想像されやすいのかもしれない。さらに，「重要性」

と「労働条件」の関連は，お金を生活上重要だと考えるほど，働く環境の良さを重視するという関連であり,「重要性」には生活の中に労働を適切に位置づける働きがあると考えられる。

お金に対する信念と職業価値観の間に関連が見られた一方で，お金に対する信念はフリーター肯定態度の「積極的受容」とは関連を示さず，お金に対する信念は，フリーターになることを促進も抑制もしないことが示唆された。当初は「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」と「積極的受容」は負の関連を示すと想定していたが，異なる結果となった。しかし，安達（2007）でも，フリーターの給料面での不利さ等の認知と「積極的受容」の間には関連が見られず，本研究では安達（2007）の結果を異なる方法で再現する形となった。フリーターへの意識についての研究は，労働者としてのフリーターをどのように評価するかという点からの調査が多い（安達，2007 や下村，2013）が，安達（2007）や本研究の結果からは，フリーターの労働者としてのあり方は，大学生からはあまり認識されていないものと結論づけられる。

就職切迫感は「ネガティブな影響源」以外の 4 下位尺度と関連を示し，お金に対する信念が就職の準備性を規定している可能性が示された。よって，お金は人に良い影響を与えるもので，仕事の結果得られ，手に入りにくく，生活上重要であると考えるほど，就職をしなければいけないという状況認知が強いことが明らかとなった。これらは，予測と一致する結果であった。これまで，就職を希望するかどうかは，就職を「希望する」か「しない」の二分法的に扱われており，就職を希望している人々の中の差が扱われることはほとんどなかった。本研究ではその点を量的に測定したことにより，就職を希望している人の中にも，希望や必要性の程度に差がある可能性が示された。また，その程度の差と，お金につ

いて持っている考えの間には関連があることが示唆された。

また，給料の高さを重要と考える程度は「重要性」と関連を示した。よって,「重要性」はより多くのお金を入手することに関わる信念であると推察される。「重要性」は就職切迫感とも関連を示しているため，就業において重要な役割を果たしていると考えられる。

本研究では，お金に対する信念と職業意識の関連を検討した。関連から,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が，職業意識の形成に促進的に働いている可能性が示された。特に,「労働の対価」は全般的な関連を示し，広く職業意識の形成に寄与している可能性がある。次いで,「獲得困難性」も広く職業意識の形成に寄与している可能性がある。これら2つの信念は，労働に関連した内容であるため，このような関連が得られたと考えられる。

一方で,「重要性」は，給料を重視する等，金銭的報酬に特化した内容と関連を示した。お金は生活を送る上で大切であるという信念であるため，直接的に金銭的報酬を考慮するに至るものと推測される。

お金に対する態度の研究ではこれまで，大学生を対象にした就業の研究は少なく，大学生の就業状態の判別にお金に対する態度が寄与するか確かめた Tang, Kim, & Tang（2002）以外に参考にできる報告はなかった。しかしながら，日本では大学生のフルタイムの就業実態はほとんどないため，知見を日本に適用することは難しかった。本研究では，日本の大学生の実情に合致した知見が得られたと考えられる。

# 第８章　　お金に対する信念と社会参加の関連の検討

本章では，お金に対する信念と，社会参加の関連について検討する。第１節では，社会参加行動として，募金行動を取り上げる。募金行動は，自発的に行われる金銭の寄付の一形態であるが，一般的に，寄付の宛先は個人ではなく団体であることが想定されるため，社会参加であると位置づけられる。第２節では，経済的な面で社会に参加する準備性について取り上げる。

## 第１節　お金に対する信念と募金行動の関連の検討【研究 9】

### 第１項　　目的

本節では，お金に対する信念と募金行動の関連を検討することを目的とする。募金行動とは，お金を寄付する行動である。募金の目的には様々なものがあるが，本研究では東日本大震災への募金を取り上げる。なお，援助行動の研究の文脈では，共感性や規範意識が関連することが明らかになっていることから，それらも同時に取り上げる。

募金行動は，金銭による寄付であるが，寄付は，社会的に重要な役割を果たしている。特に，災害復興において，義捐金は公的な支援とは異なる重要な役割を果たしている。日本は災害多発国であるが，災害対応に要する費用は通常の財政上の制約に縛られている（豊田，2006）。そのため，公的な支援は，ハード面に比べてソフト面への支援が軽視されがちなこと，対応が迅速性に欠けること，「個人補償不可」という慣習的原則により個人への保障が十分ではないことなど，様々な課題を抱えている（豊田，2006）。一方で，民間から拠出される義捐金は，そのような制約がなく，国の手が届かないところへも支援を広げることができる。そのため，義捐金を増加させる個々人の行動である募金行動の規定因を

明らかにすることには意義があると考えられる。

募金行動は，援助行動の文脈で少ないながらも研究が行われてきた。たとえば，松井（1981）は，数量化Ⅲ類を用いて分析を行い，援助行動を分類する 3 つの軸を見出した。その中には，面識のない相手に対して金銭を寄付する行動を示す「募金的援助傾向」の軸が含まれている。重ねて，松井（1981）は募金行動傾向に対して影響を与える要因を検討しており，重回帰分析の結果，年齢が募金行動傾向に対して抑制的な影響を示すことおよび一般的援助規範が募金行動傾向に弱いながらも促進的な影響を示すことを明らかにしている。なお，募金行動には男女差は見出されなかった。

さらに，援助に関する規範意識を測定する尺度を作成した箱井・高木（1987）では，募金経験で調査協力者を「しばしば寄付する」群と「ときどき寄付する・経験なし」の 2 群に分け，下位尺度得点の差を検定している。その結果，4 下位尺度のうち,「返済規範」と「弱者救済規範」において,「しばしば寄付する」群の得点が有意に高く，頻繁に寄付を行う人は，そうでない人と比べ，援助してもらった場合にお返しをすることを重視するべきだという考えと，自分より恵まれない人には援助をするべきだという考えが強いことが明らかになった。また,「交換規範」では,「ときどき寄付する・経験なし」群のほうが得点が高く，あまり寄付をしない人は，援助に見返りを望む考えが強かった。以上のように，日本では，援助規範意識と募金経験の間の関連が一貫して示されている。

一方で,海外では,募金行動のみに焦点を当てた研究が行われている。たとえば，Verhaert & Poel（2011）は，デモグラフィックな変数および過去の行動，行動意図，共感性を予め測定し，その後 10 ヶ月の間の募金行動を測定する方法で調査を行った。そして，募金行動の様相を予

め測定した変数が予測するかを確かめた。その結果,年齢や以前の行動,行動意図の他に，共感性が募金行動の生起を有意に予測していた。

ところで，松井（1981）および箱井・高木（1987）では，募金行動を援助行動の一部として扱い，その他の対人的な援助行動と同等に扱っている。しかしながら，募金行動を援助の観点のみで取り扱うことは適切であろうか。たとえば，栗田（2001）は，日常的に経験しやすい援助行動を選定し，因子分析を行った。その結果，募金行動を含む金銭に関連した行動は,その他の対人的な援助とは異なる独立した因子を形成した。このように，募金行動は援助行動の一部ではあるが，お金に関連する点でその他の援助行動とは異なる性質を有すると考えられる。そこで，本研究では，この観点に則り，募金行動を援助行動としてのみならず，金銭に関わる行動としても扱うこととする。

お金を扱う人の立場から考えた場合，買い物行動が募金行動とやや類似の構造を持っていると考えることが可能である。つまり，お金を所持している人が，そのお金を他者に渡すことによって，自らの所持金を減らす点に類似の構造が見られる。ただし，買い物行動では，お金を渡すことによってモノやサービスを得るが，募金行動では基本的に，モノやサービスを受け取ることがない点において相違している。

なお，本研究では，2011 年 3 月に発生した東日本大震災に関する募金行動に限定して調査を行うこととする。限定する利点は 2 点ある。第一は，実際に募金行動をとったかどうか尋ねることができるため，回答者間の募金行動に対する認識の違いを軽減できることである。つまり,「あなたは募金をよくしますか」という質問では，年に一度しか募金をしない人も毎月募金をしている人も,「あまりしていない」と回答する可能性がある。東日本大震災に限ることによって，具体的な出来事に対して，

ある期間の間に募金したかどうか客観的な回答を求めることが可能となる。第二は，東日本大震災について，募金行動という面から記述することにより，復興支援について新たな視点を得られると考えられることである。東日本大震災は，広い範囲に渡る被害や原子力発電所の事故などにより，社会に大きな影響を与える出来事であった。そのような中で，各個人においてどのような募金行動がとられていたのか記述することには意味があると考えられる。

### 第２項　　方法

調査時期　東日本大震災から約 3～4 ヶ月にあたる 2011 年 7 月に実施した。

調査対象　東海，近畿，四国，中国地方の大学および大学院に所属する学生が調査に協力した。国公立大学 4 校，私立大学 4 校の計 8 校の 589 名を対象として分析を行った。平均年齢は 20.36 歳（$SD$＝1.46），男性 303 名，女性 273 名，不明 13 名であった。

調査内容　（a）お金に対する信念尺度：研究 3 で作成した 5 下位尺度 30 項目を用いた。（b）共感性：多次元的共感性尺度（登張，2003）から，「共感的関心」下位尺度を使用した。全 13 項目であった。5 件法で回答を求めた。項目を Table 8-1 に示した。（c）援助規範意識：援助規範意識尺度（箱井・高木，1987）から，「弱者救済規範意識」下位尺度を利用した。全 7 項目であった。5 件法で回答を求めた。項目を Table 8-2 に示した。（d）募金経験：東日本大震災の支援として募金を行ったかどうかを尋ねた。行った場合にはその金額と回数，方法を尋ねた。金額と回数は，数字を直接記入してもらう形式とした。（e）デモグラフィック変数：性別，年齢を尋ねた。

Table 8-1　多次元的共感性尺度の「共感的関心」の項目

| |
|---|
| しいたげられている人を、まず救うべきだ。 |
| 不当な立場で苦しんでいる人は、少しでも助けるべきだ。 |
| 困っている人に、自分の持ち物を与えることは当然のことである。 |
| わたしを頼りにしている人には、親切であるべきだ。 |
| 社会的に弱い立場の人には、皆で親切にすべきである。 |
| 自分より悪い境遇の人に何かを与えるのは当然のことである。 |
| 人は自分を助けてくれた人を傷つけるべきではない。 |

Table 8-2　援助規範意識尺度の「弱者救済規範意識」の項目

| |
|---|
| 困っている人がいたら助けたい。 |
| 体の不自由な人やお年寄りに何かしてあげたいと思う。 |
| 心配のあまりパニックにおそわれている人を見るとなんとかしてあげたくなる。 |
| 落ち込んでいる人がいたら、勇気づけてあげたい。 |
| 悲しい体験をした人の話を聞くと、つらくなってしまう。 |
| 他人をいじめている人がいると、腹が立つ。 |
| ニュースで災害にあった人などを見ると、同情してしまう。 |
| 困っている人を見ても、それほどかわいそうと思わない。 |
| 私は身近な人が悲しんでいても、何も感じないことがある。 |
| いじめられている人を見ると、胸が痛くなる。 |
| 友達がとても幸せそうな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる。 |
| 人から無視されている人のことが心配になる。 |
| 人が冷たくあしらわれているのを見ると、私は非常に腹が立つ。 |

調査方法　授業時間中に配布・回答し回収する方法と，授業時間中に配布し，翌週の授業時に回収する方法を用いた。

### 第３項　　結果

**募金行動経験率と基本統計量**

募金行動の経験と性別のクロス集計表を Table 8-3 に示した。募金をした者は 71.3%（420 人；男性 214 人，女性 200 人，不明 6 人），募金をしなかった者は 28.7%（169 人；男性 89 人，女性 73 人，不明 7 人）であった。募金経験と性別の 2×2 の $\chi^2$ 検定を行ったところ，有意では

なかったため，性別と募金行動の有無には関連がないことが明らかになった。

お金に対する信念尺度，弱者救済規範意識，共感性の得点の平均値および標準偏差を Table 8-4 に示した。

Table 8-3　性別ごとの募金経験者数（人）

| | 男性 | 女性 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 募金をした | 214 | 200 | 414 |
| 募金をしなかった | 89 | 73 | 162 |
| 合計 | 303 | 273 | 576 |

Table 8-4　各尺度の基本統計量

| | *N* | *M* | *SD* | α 係数 |
|---|---|---|---|---|
| **お金に対する信念尺度** | | | | |
| ネガティブな影響源 | 584 | 3.58 | 0.87 | .92 |
| ポジティブな影響源 | 587 | 3.20 | 0.81 | .82 |
| 労働の対価 | 584 | 3.97 | 0.73 | .85 |
| 獲得困難性 | 585 | 4.39 | 0.66 | .92 |
| 重要性 | 584 | 4.52 | 0.59 | .88 |
| **援助特性** | | | | |
| 弱者救済規範 | 583 | 3.70 | 0.55 | .80 |
| 共感的関心 | 581 | 3.87 | 0.56 | .84 |

**募金経験者と非募金経験者の相違点**

募金経験に対しての各特性の影響力を比較検討するために，お金に対する信念尺度，共感的関心，弱者救済規範意識を独立変数，募金行動の有無を従属変数とする判別分析を行ったところ，有意な結果が得られた（Table 8-5：$\lambda$ =.95，$\chi^2$（7）=26.34，$p$<.01）。全体の判別的中率は60.8％であった。各変数の標準化判別係数および各群のグループ重心を

Table 8-5 に示した。「共感的関心」(.73),「ネガティブな影響源」(-.36),「ポジティブな影響源」(.29),「弱者救済規範」(.28) の順に，募金経験の有無を強く説明していた。標準化判別係数の符号から,「共感的関心」,「ポジティブな影響源」,「弱者救済規範」の得点が高いほど募金をする傾向にあり,「ネガティブな影響源」の得点が高いほど募金をしない傾向にあった。

Table 8-5　募金行動の有無の判別分析

| 標準化判別係数 | |
|---|---|
| お金に対する信念尺度 | |
| ネガティブな影響源 | -.36 |
| ポジティブな影響源 | .29 |
| 労働の対価 | .18 |
| 獲得困難性 | -.09 |
| 重要性 | .07 |
| 援助特性 | |
| 弱者救済規範 | .28 |
| 共感的関心 | .73 |

| グループ重心 | |
|---|---|
| 募金群 | .14 |
| 非募金群 | -.35 |

## 募金行動の実態

募金行動の実態について記述するために，募金回数と募金金額について，平均値，中央値，最頻値を算出し，Table 8-6 に示した。調査協力者が回答した数字を基にした最頻値から導出される募金経験者の典型像は,「震災発生から 4 ヶ月ほどのうちに，1 度，1000 円の募金をした」というものであった。

次に，調査協力者が回答した数字を，募金金額を階級に分け，度数分布表にまとめた（Table 8-7)。最低金額から最高金額までの開きが大きいため，クラスは 500 円きざみに設定した。募金金額は 1 円から 499 円

が 34.26%，500 円から 999 円が 20.65%，1000 円から 1499 円が 18.64%と高額になるほど次第に減っていき，1500 円から 1999 円で 3.76%とさらに少なくなった後，2000 円から 2499 円で割合の回復が見られ，7.05%となる。全体として，高額になるほど人数は減少するが，2000 円，3000 円，5000 円，10000 円といったきりのいい金額を含むクラスで割合が回復する現象が見られた。

Table 8-6　募金回数および募金金額の代表値

| | *N* | 平均値 | 中央値 | 最頻値 |
|---|---|---|---|---|
| **募金回数** | 402 | 3.73 | 2 | 1 |
| **募金金額** | 397 | 1476.92 | 500 | 1000 |

Table 8-7　募金金額の度数分布表

| 金額(円) | 度数 | 割合(%) |
|---|---|---|
| 1-499 | 136 | 34.26% |
| 500-999 | 82 | 20.65% |
| 1000-1499 | 74 | 18.64% |
| 1500-1999 | 15 | 3.78% |
| 2000-2499 | 28 | 7.05% |
| 2500-2999 | 4 | 1.01% |
| 3000-3999 | 17 | 4.28% |
| 4000-4999 | 6 | 1.51% |
| 5000-5999 | 16 | 4.03% |
| 6000-6999 | 2 | 0.50% |
| 7000-7999 | 3 | 0.76% |
| 10000-19999 | 12 | 3.02% |
| 20000-29999 | 2 | 0.50% |
| **合計** | 397 | 100.00% |

**募金経験者の個人特性と募金行動の関連**

募金行動をとった者の間の金額の高低に，お金に対する信念が関連しているか検討するため，募金経験者を対象として分析を行った。お金に対する信念尺度，共感的関心，援助規範意識と，募金回数および募金金額の間のスピアマンの順位相関係数を求めた。順位相関係数を用いたのは,募金回数および募金金額の分布に正規性が仮定できないためである。

分析の結果，各変数の間に有意な相関は得られなかった。よって，お金に対する信念および援助特性は募金回数や募金金額といった募金行動の程度と関連がないことが明らかになった。

### 第４項　　考察

募金行動とお金に対する信念を初めとする個人差の関連を明らかにすることが目的であった。

判別分析の結果からは,「共感的関心」,「ポジティブな影響源」,「弱者救済規範」が高いほど募金行動をとる傾向があること，そして「ネガティブな影響源」が高いほど募金行動が抑制される傾向にあることが明らかになった。最も高い係数を示したのは,「共感的関心」であり，共感性が高いほど募金をしていた。これは Verhaert & Poel（2011）とも合致する結果であり，共感性が高い方が災害発生時に募金行動をとりやすいことが明らかになった。

募金に促進的な方向で，共感的関心の次に高い係数を示したのは，お金に対する信念尺度の「ポジティブな影響源」であった。お金は人に良い影響を与えるという考え方を強く持っているほど，募金行動をとるという結果であった。募金行動は，お金を使って他者に良い影響をもたらす性質があることを考えると，整合的な結果である。

さらに，弱者救済規範意識も,「ポジティブな影響源」と同等の影響力を持っていた。自分より恵まれない人には援助をするべきだという考

えを持っているほど，募金行動をとるという結果は，頻繁に寄付を行う人の方がそうでない人と比べて得点が高いという箱井・高木（1987）の結果と整合的である。

一方で，募金行動に抑制的な方向には，お金に対する信念尺度の「ネガティブな影響源」が高い係数を示していた。係数の絶対値で判断すると，係数は共感的関心の次に大きかった。抑制的であるということは，つまり，「ネガティブな影響源」の得点が高いほど，募金行動をとらないという結果である。「ネガティブな影響源」は，お金は人に悪い影響を与えるという考え方であるので，抑制的に作用したと考えられる。

これらのことから，募金行動をとる者ととらない者とでは，援助についての特性の他に，お金に対する考え方の面でも違いがあると結論づけられる。

しかし，募金回数と募金金額はお金に対する信念と相関を示さず，行動の程度をお金に対する信念から予測することはできないことが明らかとなった。このことから，回数や金額は，状況に依存する部分が大きいと推測される。つまり，回数には，募金のできる状況に遭遇した回数が，金額にはその時々の所持金が，規定因となっていると考えられ，そのために回数と金額はお金に対する信念では説明されなかった可能性がある。

本研究では，大学生の募金行動に，援助特性だけでなく，お金に対する態度が関連することを明らかにした。加えて，お金に対する態度の研究では，これまで見られなかった行動に焦点を当てることができた。お金に対する態度の研究では，消費や就業といった行動者本人の適応を高める，経済合理性の高い行動が多く扱われてきた。本研究では，募金行動という他者の適応を高める，より公共性の高い行動に焦点を当てたことにより，お金に対する態度研究の裾野を広げることができたと考えら

れる。

## 第２節　お金に対する信念と経済的社会参加意識の関連の検討【研究 10】

### 第１項　目的

本節では，お金に対する信念と経済的な面での社会への参加の意識との関連を検討することを目的とする。

人は，社会に参加するにあたり，職業生活や家計管理，納税，社会保障制度の利用など，お金に関連した社会との関わりが増大する。これらの関わり方は，中学校の社会科や家庭科において学ぶべき内容であると定められている（文部科学省，2008）。そこで，本節ではそのようなお金に関連した社会との関わりを,社会参加の一つの方法であると見なし，経済的社会参加と呼ぶこととする。そして，社会に出る以前に，どのような経済的社会参加意識が形成されているか項目化して用いる。経済的な社会参加においても，参加の単位が家計であることから，研究 6～8 で見られたように,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が何らかの関連を示すものと予想される。

また，社会に参加する手段として，投票などの政治行動がある。政治では，社会において国民全体のお金をどのように用いるかが決定されていると考えることができる。つまり，投票という政治行動によって，社会において国のお金をどのように用いるかの決定に参加しているのである。そのため，本研究では政治についての参加意識についても扱う。測定には，政治的疎外意識尺度（山田，1990）を用いる。政治とお金に対する態度の関連を扱った研究はこれまでのところ見られず，予測が困難であるため，探索的に検討することとする。

### 第２項　方法

<u>調査時期</u>　2014 年 6 月に調査を実施した。

調査対象　関東地方の私立大学 3 校，関西地方の私立大学 1 校，東海地方の私立大学 2 校の合計 6 校の大学の大学生合計 277 名が調査に協力した。男性 107 名，女性 169 名，性別不明 1 名であった。年齢の平均は 19.68 歳（*SD*=0.92）であった。

調査内容　（a）お金に対する信念尺度：研究 3 で作成した 5 下位尺度 30 項目を用いた。(b) 経済的社会参加意識を測定する項目：中学校で学ぶ金銭に関連した社会参加についての事柄として，社会および家庭科の教科書では，納税，家計管理，労働，社会保障制度があることから，これらへの意識を測定し,「経済的社会参加」と呼ぶこととした。最終的に各 8 項目,合計 32 項目を作成して使用した。5 件法で回答を求めた。(c) 政治に対する意識：政治的疎外意識尺度（山田，1990）の 9 項目を用いた。山田（1990）では,「政治的疎遠感」,「政治的不信感」,「政治的無力感」の 3 因子が見出されている。原尺度に合わせ,「まったくそう思う」から「全然そう思わない」の 4 件法で回答を求めた。(d) デモグラフィックな変数：年齢，性別などを尋ねた。

調査方法　授業時間の一部を利用して実施した。

### 第 3 項　　結果

#### 経済的社会参加意識項目の因子分析

経済的社会参加意識項目について，最尤法，プロマックス回転を用いて因子分析を行った。初期の固有値の推移および当初の想定から，4 因子解を採用した。その後，いずれの因子にも.40 未満の負荷量しか示さなかった項目を除いて因子分析を繰り返し, 25 項目の 4 因子解を採用した（Table 8-8)。

第 1 因子には 9 項目が高い負荷量を示した。社会に出てから行うべきことに関する項目が中心であったことから「経済的社会参加の自覚」因

子と命名した。

第 2 因子には 8 項目が高い負荷量を示した。家計や社会保障などについて理解し対応できそうであるという項目が中心であったことから「経済についての十分な知識」と命名した。

第 3 因子には 4 項目が高い負荷量を示した。社会制度などに興味や関心を示す項目が中心であったことから「社会への関心」と命名した。

第 4 因子には 4 項目が高い負荷量を示した。将来働きたいという項目が中心であったことから「労働意欲」と命名した。

「経済的社会参加の自覚」と「社会への関心」の間に.48 と中程度の因子間相関が見られた。

Table 8-8　経済的社会参加意識項目の因子分析結果

| | | F1 | F2 | F3 | F4 | 共通性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| D3 | 働くのは、大人として当たり前のことだ。 | .70 | .04 | -.14 | -.19 | .50 |
| D14 | 社会に出たら、計画的に貯蓄したい。 | .69 | -.04 | -.09 | .02 | .43 |
| D2 | 社会に出たら、収入・貯蓄・消費のバランスを意識したい。 | .65 | .06 | -.04 | .07 | .37 |
| D10 | 社会に出たら、お金の備えを用意したいと思う。 | .62 | -.11 | .13 | .03 | .46 |
| D6 | 社会に出たら、無駄遣いをしないで、貯金をした方がよいと思う。 | .56 | .06 | -.23 | -.01 | .25 |
| D1 | 税金を納めるのは大人として当然のことだ。 | .54 | .18 | .07 | .10 | .34 |
| D26 | 国民の義務なので、税金はしっかり払おうと思う。 | .49 | -.19 | .15 | .16 | .45 |
| D25 | ローンを組むときは返済の見通しをしっかり立てたい。 | .46 | .07 | .13 | -.05 | .33 |
| D16 | 健康保険に加入することは重要だ。 | .45 | .03 | .14 | .17 | .30 |
| D17 | 自分に関係がある税について、十分知っている。 | .02 | .70 | .07 | .07 | .50 |
| D12 | 生活保護制度について、ある程度理解している。 | .04 | .68 | .07 | .18 | .49 |
| D13 | 税が社会の中で果たしている役割について理解している。 | .07 | .68 | .15 | .18 | .52 |
| D23 | 将来、雇用関係でトラブルに遭ったときにも対処できそうだ。 | -.01 | .65 | -.21 | -.21 | .50 |
| D4 | 将来、事故などで働けなくなった場合に利用する制度についてよく知っている。 | -.05 | .55 | -.01 | .01 | .30 |
| D22 | 家計の管理について、十分な自信がある。 | .16 | .53 | -.18 | -.08 | .30 |
| D32* | 困ったときにどのような公的支援が受けられるのか、よくわからない。 | .20 | -.51 | -.11 | .15 | .40 |
| D21* | 税金のことはよくわからない。 | -.04 | -.44 | -.11 | .13 | .27 |
| D27 | 労働者の権利について、機会があれば調べたい。 | -.05 | .01 | .75 | -.08 | .55 |
| D8 | 福祉制度について、機会があれば調べたい。 | .00 | .03 | .71 | -.07 | .50 |
| D9 | 税金の仕組みについて、機会があれば調べたい。 | .08 | -.05 | .70 | -.10 | .52 |
| D31* | 労働に関する法律には興味がない。 | .07 | -.04 | -.44 | .00 | .20 |
| D19* | 仕事に就いて社会に出るのが楽しみだ。 | .11 | .09 | .14 | -.62 | .41 |
| D15 | 将来、職業人として、うまくやっていけるか自信がない。 | .19 | .01 | .04 | .54 | .27 |
| D11 | 働かずに済むのであれば、働きたくない。 | .10 | .03 | -.15 | .53 | .32 |
| D7* | いずれ、社会に出て働きたい。 | .40 | -.12 | .04 | -.43 | .35 |
| | 説明率 | | | | | 43.09% |
| | 因子間相関 F2 | -.09 | | | | |
| | F3 | .48 | .17 | | | |
| | F4 | .13 | -.19 | .06 | | |

※*は逆転項目。

## 政治的疎外感尺度の得点化

政治的疎外感を，原尺度と同様に得点化し，各下位尺度の α 係数を確

認したところ，.50~.60 と低い値であったため，主成分分析を行い，新たに得点化した。第 1 主成分に 6 項目が.40 以上の負荷量を示したため（寄与率 27.68%），6 項目を用いて，「政治的不信感」として得点化した（Table 8-9）。α 係数は.69 であった。

Table 8-9　政治的不信感の主成分分析の結果

| | | 負荷量 | *M* | *SD* |
|---|---|---|---|---|
| A7 | 我々が少々騒いだところで政治はよくなるものではない | .74 | 3.30 | 0.71 |
| A6 | 政治家は政策よりも派閥抗争や汚職に明け暮れている | .73 | 3.17 | 0.76 |
| A8 | 政治で騒ぐより、自分自身の仕事に精を出した方がよい | .61 | 3.13 | 0.77 |
| A3 | 代議士は有権者のことを考えてくれていない | .58 | 2.70 | 0.69 |
| A5 | 日常生活のなかに政治のことが入ってくると、かえってわずらわしい | .54 | 2.71 | 0.78 |
| A4 | まじめに政治のことを考えている有権者は少ない | .47 | 2.97 | 0.75 |
| A1 | 政治のことは政治家にまかせておけばよい | -.08 | 2.17 | 0.87 |
| A2 | 結局国民一人一人の票が国の政治を決定していると思う | -.20 | 2.48 | 0.94 |
| A9 | 国民の意見は世論として政治に反映させることができる | -.38 | 2.35 | 0.88 |
| | 寄与率 | 27.68% | | |

### 各尺度の基本統計量

各尺度の基本統計量を Table 8-10 に示した。α 係数は経済的社会参加尺度の「労働意欲」が.63，政治的不信感が.69 とやや低かったが，その他は.75～.81 と十分な値を示した。

Table 8-10　各尺度の基本統計量

| | *N* | *M* | *SD* | α 係数 |
|---|---|---|---|---|
| **お金に対する信念尺度** | | | | |
| ネガティブな影響源 | 277 | 3.79 | 0.82 | .90 |
| ポジティブな影響源 | 277 | 3.50 | 0.79 | .78 |
| 労働の対価 | 276 | 4.12 | 0.77 | .89 |
| 獲得困難性 | 277 | 4.39 | 0.73 | .92 |
| 重要性 | 277 | 4.57 | 0.57 | .90 |
| **経済的社会参加意識** | | | | |
| 経済的社会参加の自覚 | 275 | 4.27 | 0.54 | .81 |
| 社会についての十分な知識 | 274 | 2.33 | 0.70 | .81 |
| 社会への関心 | 277 | 3.51 | 0.83 | .75 |
| 労働意欲 | 277 | 3.15 | 0.79 | .63 |
| **政治的不信感** | 273 | 3.00 | 0.50 | .69 |

お金に対する信念尺度と各変数の関連

お金に対する信念と各変数の関連を検討するため，相関係数を算出した（Table 8-11）。その結果，経済的社会参加意識の「経済的社会参加の自覚」が「ネガティブな影響源」,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」と有意な正の関連を示した（$r$=.15~.42, $p$<.05）。また,「経済についての十分な知識」が「獲得困難性」および「重要性」と有意な負の関連を示した（それぞれ，$r$=-.17, -.20, $p$<.01）。

「政治的不信感」はお金に対する信念の全ての下位尺度と有意な正の関連を示したが，値は小さかった（$r$=.14~.18, $p$<.05）。

Table 8-11　お金に対する信念尺度と各尺度間の相関係数

| | 経済的社会参加意識 | | | | 政治的疎外感尺度 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 経済的社会参加の自覚 | 社会についての十分な知識 | 社会への関心 | 労働意欲 | 政治的不信感 |
| ネガティブな影響源 | .15 * (275) | -.02 (274) | .10 (277) | .00 (277) | .17 ** (273) |
| ポジティブな影響源 | .03 (275) | .01 (274) | -.07 (277) | .02 (277) | .16 ** (273) |
| 労働の対価 | .41 ** (274) | .00 (273) | .09 (276) | -.10 (276) | .16 ** (272) |
| 獲得困難性 | .34 ** (275) | -.17 ** (274) | .06 (277) | .05 (277) | .14 * (273) |
| 重要性 | .42 ** (275) | -.20 ** (274) | .06 (277) | .08 (277) | .18 ** (273) |

※カッコ内は$N$。*$p$ <.05, **$p$ <.01。

### 第 4 項　　考察

本節では，経済的な側面から社会に参加していく準備状態を測定し，お金に対する信念との関連を検討した。

経済的社会参加意識は，「経済的社会参加の自覚」，「経済についての十分な知識」，「社会への関心」，「労働意欲」の 4 因子となった。「経済的社会参加の自覚」因子は，社会に出てから行うべきことに関する項目で構成されていた。「経済についての十分な知識」因子は，家計や社会保障等について理解し対応できそうであるという項目で構成されていた。「社会への関心」は，社会制度等に興味や関心を示す項目で構成されていた。「労働意欲」は，将来働きたいという項目で構成されていた。「経済的社会参加の自覚」と「社会への関心」の間に中程度の因子間相関が見られたため，この 2 因子は自覚と関心という類似した社会意識であると考えられる。それ以外の因子間では低い因子間相関しか得られなかったため，経済的社会参加意識は社会参加への自覚と関心，知識形成状態，労働という 3 点を測定していたと考えられる。

経済的社会参加意識の「経済的社会参加の自覚」下位尺度とお金に対

する信念尺度の「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が中程度の正の関連を示していた。これは，お金は仕事の結果手に入るものである，お金は手に入りにくい，お金は大切なものであると考える者ほど，自覚の程度が高いことを示している。予想と合致した結果であり，社会参加においても「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が促進的な役割を果たしていることが示された。また，弱い関連ではあるが,「ネガティブな影響源」も「経済的社会参加の自覚」と正の関連を示していた。予測はしていなかったが,お金は人に悪い影響を与えると考えている者ほど，自覚状態にあるという結果であった。お金には，人に悪い影響を与える面もあるからこそ，流されずに，より自覚的に社会参加していく必要があるという考えに至る可能性がある。

加えて,「経済についての十分な知識」が「獲得困難性」および「重要性」と負の関連を示していた。これは，お金は手に入りにくい，お金は大切なものだと考える者ほど，自分にはまだ社会制度などの知識が不足していると感じている状態に陥りやすいことを示している。知識が不足していると感じるのは，目標とする知識の量が多いことの裏返しであるとも考えられる。つまり，お金は手に入りにくい，お金は大切なものだと考えるほど，自分は社会についてより多くの知識を備えるべきではないかと考える傾向にあるという可能性がある。このような意味で,「獲得困難性」と「重要性」は，経済についての知識形成に促進的に働くと考えられ，適応的な要因であると推測される。

一方で,「社会への関心」,「労働意欲」は，お金に対する信念と関連を示さなかった。「社会への関心」は，因子間相関から,「経済的社会参加の自覚」と類似した内容であると考えられるが,「社会への関心」はお金に対する信念とは関連を示さなかった。「社会への関心」は，社会制度

等に興味や関心を示す項目で構成されていたが,「経済的社会参加の自覚」と比較すると，受動的な興味や関心を示す内容であったため，類似の関連が得られなかったと考えられる。

また,「労働意欲」もお金に対する信念と関連を示さなかった。研究 3 では，お金に対する信念と就業動機（安達，1998）の間に関連が見られた。さらに，研究 7 でも，お金に対する信念と職業価値観（菰田，2006）の間に関連が見られた。本研究において,「労働意欲」として測定したものは，働きたいという，非常に漠然とした内容であった。そのため，労働意欲をより詳細に測定した場合には見られた，お金に対する信念との関連が，本研究では得られなかったものと考えられる。

「政治的不信感」は，お金に対する信念の全ての下位尺度と弱い正の関連を示した。つまり，全般的にお金を意識している者ほど，政治に不信感を抱いているという結果であった。社会全体のお金に関わっていく政治活動への不信感とお金に対する信念が正の関連を持ったことは，お金に対する信念は，お金の中でも，社会のお金や他人のお金ではなく，自分のお金という範囲の内容であるためと考えられる。そのために，自分のお金について認知的資源を割くほど，社会や他人のお金については無関心になり，政治に不信感を抱くものと推察される。

経済的社会参加と政治参加では，主に「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が関連を示していた。特に,「獲得困難性」と「重要性」は，経済的な知識を身につける基盤にもなっており，社会参加において必要な信念と考えられる。一方で，お金に対する信念と政治不信の関連が示され，お金に対する信念が社会参加の一部を阻害，あるいは抑制する可能性が示された。研究 6 から研究 9 において，お金に対する信念尺度の得点が高いことは，望ましい意識や行動と関連するという結果が繰り返

し示されてきた。しかし，本研究では，望ましくない意識との関連が示された点で，新たな結果である。

本研究では,経済的な側面から社会に参加していく準備状態を測定し，お金に対する信念との関連を検討した。これまでのお金に対する態度の研究では，購買や就業が扱われてきた。購買や就業も，社会とお金をやりとりする社会的な性質を有しているが，公共性の高い行動ではなかった。本研究は，納税や社会保障等，公共性が高い内容についても扱った点において，新たな試みであったと考えられる。

# 第Ⅲ部　総括

# 第９章　　総合考察

本章では，理論的検討で整理した知見と実証的検討で得られた個々の結果について総合的に考察する。まず，結果を，お金に対する信念の下位尺度の 5 概念および家計管理と社会参加の 2 領域から整理する（第 1 節）。そして，本論文の結論を述べる（第 2 節）。その後，これまでのお金に対する態度研究と本論文との理論的対応を図る（第 3 節）。最後に，本論文の限界と今後の展望について述べる（第 4 節）。

## 第１節　実証的検討の整理

### 第１項　お金に対する信念尺度の作成

第 6 章では，お金に対する信念を測定する尺度を作成した。文章完成法でお金に対する信念の内容を明らかにした後，内容を分類し（第 6 章第 1 節），尺度項目の作成を行った（第 6 章第 2 節）。因子分析の結果，「ネガティブな影響源」,「ポジティブな影響源」,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」の 5 因子が得られた（第 6 章第 2 節，第 3 節）。各下位尺度と他の尺度の関連を Table 9-1 に示した。

妥当性の検討（第 6 章第 3 節）では，お金に対する態度尺度（原岡，1990）の認知的側面を測定する下位尺度と関連が得られたことから，お金に対する信念尺度はお金への認知的な側面を測定していることが確認された。特に,「ネガティブな影響源」はお金に対する態度尺度の中でもお金に否定的な下位尺度と,「ポジティブな影響源」と「重要性」はお金に肯定的な下位尺度と,それぞれ関連を示していた。これらのことから，併存的妥当性が示された。

また，未入職者の持つ将来の職業に関連する動機を測定する就業動機尺度（安達，1998）と「労働の対価」が関連を示し，構成概念妥当性が

示された。

さらに，消費者の購買態度を測定する REC Scale（佐々木，1984）と「ネガティブな影響源」以外の 4 下位尺度が関連を示したことから，4 下位尺度の構成概念妥当性が確認された。

加えて，アルバイトをしている者はしていない者よりも「労働の対価」と「重要性」の得点が高く，これらの 2 下位尺度の構成概念妥当性も確認された。

また，3 週間の期間をおいて実施した 2 度の調査（第 6 章第 4 節）の結果から，お金に対する信念尺度には十分な再検査信頼性があることが確認された。

### 第 2 項　　大学生のお金に対する信念の特徴

第 6 章第 5 節では，各年代を対象とした web パネル調査を行った。そして，お金に対する信念尺度が 20 代から 60 代の一般成人に適用可能なことを確認した上で，お金に対する信念尺度の得点がデモグラフィックな要因によって異なるか検討した。また，web パネルのデータと大学生のデータを比較し，大学生のお金に対する信念の特徴を明らかにした。

web パネル内での比較では，「ネガティブな影響源」，「労働の対価」，「獲得困難性」で，年代，婚姻状況，性別などのデモグラフィックな要因の効果が見られた。

web パネルと大学生の比較では，全ての下位尺度で差が得られた。大学生は，一般成人である web パネルと比較して，「ネガティブな影響源」，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」の信念が強い一方，「ポジティブな影響源」の信念は弱かった。全体として，大学生は，一般成人である web パネルと比べてお金を悪いものと考える一方，お金と労働のつながりやお金の大切さを強く意識しており，お金を用いて社会で過ごすこ

とを難しいことと捉えていた。webパネルのほとんどはすでに何らかの形で社会参加していることを鑑みると，社会に出る直前である大学生ではお金について緊張状態が高まっているが，実際に社会に出てある程度生活できることが実感されれば緊張状態が低下するものと考えられる。

### 第3項　お金に対する信念と個人の家計管理意識の関連

第7章では，お金に対する信念と，消費意識（第7章第1節），貯蓄意識（第7章第2節），職業意識（第7章第3節）の関連を検討した。

消費意識との関連では，お金に対する信念尺度は，消費価値観と関連を示さなかった。しかし，クレジットカード肯定態度とは正の相関を示しており，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」の得点が高いほど，クレジットカードを肯定する程度が高かった。これらの結果から，消費場面においては，クレジットカードを肯定する程度に，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」が関連すると推測される。

貯蓄意識との関連では，将来の生活への経済的な不安を強く感じる傾向と，「ネガティブな影響源」，「獲得困難性」，「重要性」の3下位尺度の間に正の関連が見られた。また，貯蓄に積極的なほど，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」が高かった。よって，貯蓄意識との関連では，将来の経済的不安を感じ，貯蓄を積極的に意識するためには「獲得困難性」と「重要性」が高いことが必要と推測される。さらに，貯蓄の目的で群分けを行って比較したところ，お金がない不安を解消するために貯蓄を行う者は，他の理由で貯蓄を行う者と比べて，「重要性」の得点が高く，将来の生活に備えるための貯蓄には「重要性」が特徴的な役割を果たしていた。

職業意識との関連では，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」が，職業価値観の下位尺度と正の関連を示した。さらに，「ポジティブな影響

源」,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」は就職しなければならないと考える程度と正の関連を示した。加えて,「重要性」は給料の高さを重要と考える程度と正の関連を示した。これらの結果から，就業場面では特に,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が職業価値観の形成や就職活動を促す働きを持つことが示唆された。

### 第４項　　お金に対する信念と社会参加の関連

第８章では，募金行動（第８章第１節）と経済的社会参加意識（第８章第２節）を扱った。東日本大震災の復興のために行われた募金行動を扱った調査では，判別分析において，援助特性だけでなく，お金に対する信念も，募金行動の有無の判別に影響力を有することが明らかになった。判別に寄与したお金に対する信念の下位尺度は,「ネガティブな影響源」,「ポジティブな影響源」,「労働の対価」であった。「ネガティブな影響源」は負の,「ポジティブな影響源」と「労働の対価」は正の値を示した。このことから，募金行動には，お金が人に影響を与えるという考えおよびお金は仕事の対価として得られるという考えが作用することが示唆された。募金行動では常に他者が意識されるため，お金が人に影響を与えるという信念が働くものと考えられる。

また，経済的な面で社会に参加していく準備状態を測定し，お金に対する信念との関連を検討した。経済的社会参加意識の「経済的社会参加の自覚」下位尺度と「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が中程度の正の関連を示していた。加えて,「社会についての十分な知識」が「獲得困難性」および「重要性」と負の関連を示していた。これらのことから,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」には，経済的な面で社会参加していく準備状態の形成を促す働きのあることが示唆された。加えて，政治的不信感とお金に対する信念の全ての下位尺度の間で正の関連が見

られ，全般的にお金を意識している者ほど，政治に不信感を抱いていることが明らかとなった。

Table 9-1　実証的検討の結果の整理

| | | 関連の性質 | ネガティブな影響源 | ポジティブな影響源 |
|---|---|---|---|---|
| 第6章 | 就業動機 | 正 | | 「上位志向」 |
| | REC Scale | 正 | | |
| | アルバイト | 得点の差 | | |
| | 人口統計学的変数 | 得点の差 | 20代・30代>50代 | |
| 第7章 | 職業意識 | 正 | | 「就職切迫感」 |
| | 貯蓄意識 | 正<br>得点の差 | 「将来の経済的な不安」 | 「将来の経済的な不安」 |
| | 消費意識 | 正 | | |
| 第8章 | 募金行動 | 正 | | 募金行動を促進 |
| | | 負 | 募金行動を抑制 | |
| | 経済的社会参加 | 正 | 「経済的社会参加の自覚」<br>「政治的不信感」 | 「政治的不信感」 |
| | | 負 | | |

| | | 関連の性質 | 労働の対価 | 獲得困難性 |
|---|---|---|---|---|
| 第6章 | 就業動機 | 正 | 「探索志向」「対人志向」<br>「挑戦志向」 | |
| | REC Scale | 正 | 「合理性」 | 「合理性」 |
| | アルバイト | 得点の差 | している者>していない者 | |
| | 人口統計学的変数 | 得点の差 | 未婚<既婚 | 40代において男性<女性 |
| 第7章 | 職業意識 | 正 | 「自己価値」「社会的評価」<br>「人間関係」「組織からの独立」<br>「就職切迫感」 | 「人間関係」<br>「就職切迫感」 |
| | 貯蓄意識 | 正<br>得点の差 | 「将来の経済的な不安」<br>「貯蓄態度」 | 「将来の経済的な不安」<br>「貯蓄態度」 |
| | 消費意識 | 正 | 「クレジットカード肯定態度」 | 「クレジットカード肯定態度」 |
| 第8章 | 募金行動 | 正 | 募金行動を促進 | |
| | | 負 | | |
| | 経済的社会参加 | 正 | 「経済的社会参加の自覚」<br>「政治的不信感」 | 「経済的社会参加の自覚」<br>「政治的不信感」 |
| | | 負 | | 「社会についての十分な知識」 |

| | | 関連の性質 | 重要性 |
|---|---|---|---|
| 第6章 | 就業動機 | 正 | 「上位志向」 |
| | REC Scale | 正 | |
| | アルバイト | 得点の差 | している者>していない者 |
| | 人口統計学的変数 | 得点の差 | |
| 第7章 | 職業意識 | 正 | 「労働条件」<br>「就職切迫感」<br>「給料の高さ重視度」 |
| | 貯蓄意識 | 正<br>得点の差 | 「将来の経済的な不安」<br>「貯蓄態度」<br>貯蓄理由が「不安解消」の場合<br>得点が高い |
| | 消費意識 | 正 | 「クレジットカード肯定態度」 |
| 第8章 | 募金行動 | 正 | |
| | | 負 | |
| | 経済的社会参加 | 正 | 「経済的社会参加の自覚」<br>「政治的不信感」 |
| | | 負 | 「社会についての十分な知識」 |

### 第５項　　お金に対する信念の領域による整理

前節で行った実証的検討の整理を総合し，5 種類のお金に対する信念それぞれの特徴および役割について，家計管理と社会参加の 2 領域に対応して述べる。

「ネガティブな影響源」は，お金は人に悪い影響を与えるという信念であった。「ネガティブな影響源」は，募金行動を抑制していた。よって，「ネガティブな影響源」は社会参加の領域において抑制的に作用すると推測される。

「ポジティブな影響源」は，お金は人に良い影響を与えるという信念であり，募金行動に積極的であることが特徴的であった。よって，「ポジティブな影響源」は，お金の良い影響力を認め，お金を他者に与えようとする点で，社会参加につながる信念と考えられる。

「労働の対価」は，お金は仕事の結果手に入るものであるという信念であった。「労働の対価」は，アルバイトをしていると得点が高かった。また，職業価値観や就業動機の高さとも関連を示していた。そのため，お金の正当性を認める信念であると考えられる。加えて，未婚者と既婚者では，既婚者の方が得点が高かった。未婚者と既婚者では，既婚者の方が，家族の生活費などで，必要とするお金の額が大きいと考えられ，その分，「労働の対価」の得点が高くなったと考えられる。これらのことから，「労働の対価」は，家計管理の中でも，収入を得ることに特に積極的に働くと考えられる。一方で，募金行動や経済的社会参加とも正の関連があり，社会に参加し，自分のお金を他者に出す働きも見られた。これらの関連は，労働によってお金を得ることは社会的に正当と見なされているために生じると考えられる。つまり，お金を正当に得るために，積極的に労働に取り組み，正当に得たお金であるため，自由に使途を決

定してもよいと感じられるものと推察される。そのために,「労働の対価」は，家計管理と社会参加の両領域で機能すると推測される。

「獲得困難性」は，お金は手に入りにくいものだという信念であった。「獲得困難性」は，家計管理および経済的社会参加と関連が見られた。「獲得困難性」はクレジットカード肯定態度と正の関連を示しており，堅実な消費の傾向が見られた。加えて,「獲得困難性」が高いほど，経済的社会参加の自覚が高く，加えてまだ十分な経済の知識は持っていないと感じていた。知識の不足を意識することは，知識をより多く身につけようとする動機づけになっていると考えられることから，適応的な関連であると考えられる。これらは，堅実に消費し，経済について知識をより多く身につける点から，持っているお金を減らさないようにする点に共通性があると考えられる。領域では,「獲得困難性」も，家計管理と社会参加の両領域で機能すると推測される。

「重要性」は，お金は生きていく上で大切であるという信念であった。「重要性」は，唯一，高い給料を重視する程度と正の関連を示していた。また，就業動機の「上位志向」と正の関連を示していた。さらに，経済的社会参加では,「重要性」の得点が高い者ほど，社会参加への自覚が高い一方で，知識の不足を心配している状態にあった。加えて，貯蓄理由とも唯一関連が見られ,お金がない不安を解消するために貯蓄する者が,他の理由で貯蓄する者より「重要性」の得点が高かった。よって，家計管理と社会参加の両領域で機能すると推察される。

## 第２節　本論文の結論

### 第１項　お金に対する信念の構造

本論文の第一の目的は，お金に対する信念を測定する，信頼性と妥当

性を備えた尺度を作成することであった。研究 1 から研究 4 において，5 下位尺度 30 項目から構成されるお金に対する信念尺度が作成された。お金に対する信念尺度は，2 度の調査によって十分な再検査信頼性が確認された。また，妥当性については，お金に対する態度尺度（原岡，1990）との関連から，「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」の併存的妥当性が確認された。また，就業動機尺度（安達，1998）との関連から，「ポジティブな影響源」，「労働の対価」，「重要性」の構成概念妥当性が概ね確認された。加えて，REC Scale（佐々木，1984）との関連から，「ポジティブな影響源」，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」の構成概念妥当性が確認された。さらに，アルバイトの状態による得点の差から，「労働の対価」と「重要性」の構成概念妥当性も確認された。

作成された尺度の内容について考察すると，5 つの下位尺度は次の 3 点の特徴を持つと考えられる。第一は，「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」が示す，お金が人に影響を与えるという考えである。これは，お金は人によって作られながら，人間に影響を与えるという特殊な性質を持つ道具であることを反映した内容となっている。人間は，お金から，ゆとりなどのよい心的状態や，人間関係上の困難などを生じると考えていることが示され，お金の持つ心理社会的な影響力が示唆される結果となった。

第二は，「労働の対価」と「獲得困難性」が示す，収入に関する側面である。収入は家計の重要な機能であり，家計に関わる考えが測定可能になったことは有益であると考えられる。加えて，いずれも収入に関連するものでありながら，「労働の対価」は労働によってお金を手に入れるという信念であったのに対し，「獲得困難性」は手に入れるのが難しいという信念であった。このように，2 つの信念は，対になる内容であった。

第三は,「重要性」が示す，生活を送る上でのお金の重要性である。お金は生活を送る上で必要であるという内容から，お金は道具として重要であることが示唆される。お金は収入，貯蓄，消費などとして，生活の様々な場面で用いられているため，重要だと認識されているものと考えられる。第一の側面では，お金の持つ，人間への影響力について述べたが，生活上の重要性は，心理社会的性質の薄い内容となっている。

### 第２項　　お金に対する信念と家計管理および社会参加

本論文の第二の目的は，お金に対する信念が家計管理領域でどのような役割を果たしているか明らかにすることであった。また，第三の目的は，お金に対する信念が社会参加領域でどのような役割を果たしているか明らかにすることであった。

お金に対する信念と家計管理および社会参加の関連には次のような特徴があった。すなわち，家計管理領域では,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が，主に職業や貯蓄を中心として家計管理領域と関連を示した。そして，それらの関連は，より適応的な家計管理を促進する働きを示していた。

一方，社会参加領域では,「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」が，主に募金行動を中心とした社会参加領域と関連を示した。また,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が，経済的社会参加を中心に,社会参加領域とも関連を示していた。つまり,社会参加領域では,お金に対する信念全てが関連を示した。社会参加との関連も，一部を除いては，より適応的な社会参加を促進する働きを示していた。

これらの関連から，お金に対する信念は，全体として社会参加領域で機能し,一部については家計管理領域で機能することが明らかになった。そして，それらの機能は，それぞれの領域での適応を促進するものであ

った。お金は人と人との間で用いられる道具であることから，お金に対する信念全体が社会参加と関連していると考えられる。一方で，個人の家計に関する生活を支えているのは，労働に関連した内容である「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」の 3 つの信念であると考えられる。5 つの信念を十分備えていることには，個人の家計生活を安定的に保つとともに，社会との交流を調整する働きがあると推察される。

### 第 3 項　　お金に対する信念の構造の理論化

第 1 項，第 2 項の結果を総合し，お金に対する信念の構造と関連領域についてのモデルを提出する。

「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」は，いずれも，お金が人に影響を与えるという信念であった。これらに共通する構造として，お金が人の手元にある状態において，お金が人に影響を与えていることが指摘できる。入手したお金が，人に作用する構造である。また，2 つの信念の違いは，影響が積極的であるか消極的であるかである。「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」の影響の性質は，ネガティブとポジティブで対になっていた。

一方,「労働の対価」と「獲得困難性」はいずれも収入に関係する信念であった。しかし,「労働の対価」は，積極的にお金を手に入れる内容である一方で,「獲得困難性」は，お金は手に入りにくいという内容であり，お金の入手に消極的な内容であった。このことから,「労働の対価」と「獲得困難性」は対になる信念であると考えられる。また,「労働の対価」と「獲得困難性」は，いずれも人がお金を手に入れる行為であり，人がお金に働きかける作用の方向性であると考えられる。さらに,「労働の対価」と「獲得困難性」は，これから入手する状態で意識される内容であると考えられる。つまり，お金の入手前に意識される内容である。

加えて，お金の生活上での大切さについての信念である「重要性」は，「労働の対価」と「獲得困難性」の上位に布置されるものと考えられる。なぜなら，「労働の対価」および「獲得困難性」は，収入についての信念であるが，収入は貯蓄・消費と併せて家計機能であり，「重要性」の方が示す範囲が広いと考えられるためである。また，「重要性」も，「労働の対価」および「獲得困難性」と同様に，人がお金に働きかける作用の方向性を持つと考えられる。お金の大切さは，お金が自然に備えている性質ではなく，人がお金に意味づけた結果であると考えられるためである。

また，家計管理と社会参加との関連は，次のようであった。

「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」は，いずれも募金行動と抑制的・促進的に関連していたことから，社会参加領域で働く信念であると考えられる。

一方，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」は，いずれも消費意識，貯蓄意識，職業意識に適応を促進するような関連を示していた。加えて，経済的社会参加意識とも適応を促進するような関連を示していた。これらのことから，これら 3 つの信念は，家計管理と社会参加のいずれにおいても適応を促進すると結論づけられる。

以上を再度整理すると，本論文の結論は次の 2 点になる。結論の第一は，お金に対する信念は，積極的－消極的の軸と，入手前－入手後の軸によって，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」の 3 つの信念と，「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」の 2 つの信念の 2 グループに分けられることである。

結論の第二は，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」は家計管理領域と社会参加領域の両方に，「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」は社会参加領域に関連することである。

「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」が家計管理領域に関連する理由として，これら 3 つの信念は働いてお金を手に入れることに関連した内容であることが挙げられる。働いてお金を手に入れることが意識されることによって，そのお金を貯蓄することや，そのお金を注意深く消費に用いることが意識されるものと考えられる。また，社会参加領域に関連する理由も同様に，働いてお金を手に入れることが意識されるために，社会と経済的な交流が意識されるものと考えられる。

そして,「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」の社会参加領域での関連は，これら 2 つの信念が，お金が人に影響を与えるという内容であるために生じたものと推察される。つまり，お金が人に影響を与えると意識することによって，そのお金によって，他者にも影響を与えることが可能であると意識されると考えられる。

信念間の関係と家計管理および社会参加との関連を Figure 9-1 に示した。

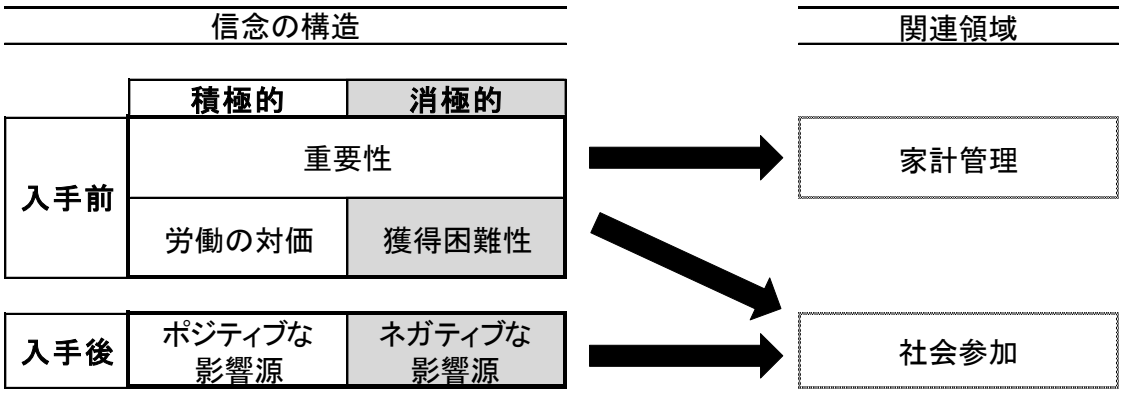


Figure 9-1　お金に対する信念の構造と関連領域

この構造と関連領域を用いて考えた場合，本論文では扱わなかった次のことについて類推することが可能となる。まず，家や車など，ローン

を組むような高額の買い物については取り扱わなかったが，高額の買い物については家計管理に含まれると考えられるため,「労働の対価」と「重要性」が高いほど積極的に考え,「獲得困難性」が高いほど，消極的に考えることが想定される。また，投資や保険商品の契約といった貯蓄的な買い物についても，家計管理領域に含まれると考えられるので,「労働の対価」と「重要性」が高いほど積極的に考え,「獲得困難性」が高いほど，消極的に考えると推測される。

加えて，募金では，災害復興のもの，かつ１度限りのものしか扱わなかったが，貧困支援のように常に必要とされており，継続的な支援が可能な募金も存在する。そのような募金についても，社会参加に含まれると考えられるため,「ポジティブな影響源」が高い者は募金をする傾向を示し,「ネガティブな影響源」が高い者は募金をしない傾向を示すと推測される。

さらに，社会についての知識，つまり経済や政治のリテラシーについて考えた場合，これらも社会参加に含まれると考えられるため，お金に対する信念全般が高いほど高いと推測される。

## 第３節　本論文の理論的位置づけ

本節では，本論文で得られた結果を先行の知見と対応づけて論じる。

### 第１項　貨幣の性質との対応

貨幣の性質として，共同体的な存在であることが指摘されていた（岩井，1998)。本論文では，お金に対する信念が全体として社会参加に関連していることが示された。この点は，人が貨幣を用いて他者と関係を持つという，貨幣の持つ共同体を必要とする社会的な性質を反映した結果であると考えられる。

### 第２項　　経済学における貨幣の機能との対応

経済学における貨幣の機能として，一般的交換手段，価値尺度手段，価値貯蔵手段の 3 点が挙げられていた（片平，2003）。本論文では，家計管理領域との関連において，それぞれを扱った。すなわち，消費意識と職業意識では一般的交換手段と価値尺度手段を，貯蓄意識では価値貯蔵手段を扱った。そして，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」の 3 つの信念が家計管理領域の各種の意識と関連を示していたことから，これら 3 つの信念は一般的交換手段，価値尺度手段，価値貯蔵手段の 3 点の機能に対応する内容であると考えられる。「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」のそれぞれの信念が強い場合には，クレジットカードを肯定し，貯蓄に積極的であり，職業について考える傾向にあったため，これらの 3 つの信念は，家計を円滑に管理する，経済的な適応性に関する機能を持つと考えられる。

### 第３項　　既存のお金に対する態度尺度との対応

本論文で作成された尺度は，「ネガティブな影響源」，「ポジティブな影響源」，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」の 5 下位尺度で構成されていた。これらを既存の尺度と対応づけると，Table 9-2 のようになる。なお，Table 9-2 には，Table 3-7 に示した中から，認知的側面を持つ尺度のみを取り上げた。また，対応関係にも，認知的側面に分類された下位尺度しか含めなかった。加えて，尺度作成が目的ではなかった Lim & Teo（1997）も含めなかった。

お金が人に悪い影響を与えるという内容の「ネガティブな影響源」は，お金に否定的な考え方であるという点では，MES（Tang, 1992）の「悪」やお金に対する態度尺度（原岡，1990）の「社会における諸悪の根源」に対応するものと考えられる。

お金が人に良い影響を与えるという内容の「ポジティブな影響源」は，お金に肯定的な考え方であるという点では，MES（Tang, 1992）の「善」および「自由・勢力」やお金に対する態度尺度（原岡，1990）の「お金の社会的価値」に対応するものと考えられる。しかし，「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」は，人に対する影響力の内容を示していることから，お金自体の性質を認知した，既存の尺度と完全に対応するわけではない。

お金は仕事の結果得られるものという内容の「労働の対価」とお金は手に入りにくいものだという内容の「獲得困難性」については，類似の下位尺度は見当たらなかった。

お金は大切だという内容の「重要性」は，LOMS（Tang & Chiu, 2003）の「重要性」に対応するものと考えられる。

既存の尺度との対応関係から，本論文で作成された尺度の特徴は 4 点あると考えられる。第一として，本論文では，態度の中でも認知的側面について扱った点で，既存の尺度とは異なるものである。既存の尺度にも認知的側面を扱ったものはあったが，認知的側面のみで構成された尺度はなかった。本論文で作成された尺度は，お金についての認知的側面を簡便に測定するために用いることのできる有用な尺度であると考えられる。

第二として，お金に対する信念尺度は，お金の持つ人への影響力という点に着目しながら，善悪という既存の尺度の持つ性質も併せ持っている点が挙げられる。善悪という既存の尺度の軸は，お金の持つ社会的な影響力についての見方と考えられ，お金の性質を表す際に欠かすことができない見方であると考えられる。本論文で作成された尺度にも，この点が反映された。

第三として，お金に対する信念尺度は，労働に関連した新規な下位尺度を採用している点が挙げられる。既存の尺度でも，MES（Tang, 1992）の「達成」などは，労働に関連していると受け取ることも可能だが，お金を自分や他人の仕事や能力の評価と捉えていることが強調されている点で，本研究の「労働の対価」や「獲得困難性」に通じるものではなかった。本論文では，大学生を対象にしたために，お金を自分や他人の仕事や能力の評価と捉えていることが強調された内容ではなく，働いてお金を入手するというより控えめな内容となったものと考えられる。

第四に，お金の大切さに関する考え方については，既存尺度の流れを汲んでいる。しかし，お金の大切さを扱っていた尺度は LOMS（Tang & Chiu, 2003）のみであった。お金の大切さはある意味では自明であり，個人差があるとは考えられてこなかった可能性がある。本論文では，お金の大切さの認知にも個人差を仮定した。結果として，家計管理意識との関連が示され，お金の大切さの認知の個人差によって，家計管理意識に差があることが明らかになった。

本論文で作成された尺度は，認知的側面に特化したものであるため，行動的側面や感情的側面を測定することはできない。そのため，お金に対する態度を，行動的側面や感情的側面を含めて測定する場合には，他の尺度を用いていくことも視野に入れるべきと考えられる。一方で，本論文で作成された尺度には,「労働の対価」および「獲得困難性」という，独自の下位尺度が含まれ，収入や職業に関する概念との関連が想定される。そのため，そのような概念との関連を検討する場合には，既存の尺度との併用も有益であると考えられる。

Table 9-2　お金に対する信念尺度と既存の尺度との対応関係

| | Furnham(1984) | Tang(1992) | Tang & Chiu(2003) | Rose & Orr(2007) | 原岡(1990) |
|---|---|---|---|---|---|
| **お金に対する信念尺度** | Money Beliefs and Behaviour Scale | Money Ethic Scale | Love of Money Scale | Symbolic Meaning of Money Scale | お金に対する態度尺度 |
| ネガティブな影響源 | | 悪 | | | 社会における諸悪の根源 |
| ポジティブな影響源 | | 善<br>自由・勢力 | | | お金の社会的価値 |
| 労働の対価 | | | | | |
| 獲得困難性 | | | | | |
| 重要性 | | | 重要性 | | |
| 該当せず | 努力・能力 | 達成<br>尊敬・自尊心 | 成功<br>動機づけ | 達成 | |

### 第４項　　お金に対する信念と家計管理および社会参加

本論文では，お金に対する信念が家計管理領域と社会参加領域でどのような役割を果たすのか検討した。家計管理領域では，これまで消費・貯蓄・就業のすべてを扱った研究は見られなかった。そのため，３点すべてについて調査を行った本論文には一定の意義があると考えられる。

また，社会参加領域については，お小遣いの研究（竹尾ら，2009）やお金の機能の研究（Vohs, Mead, & Goode, 2006; Zhou, Vohs, & Baumeister, 2009 ; Yang et al. 2013）において，お金には社会的な機能があることが強調されてきた。しかしながら，お金に対する態度の研究では，社会的な視点が取り入れられてこなかった。本論文は，お金に対する態度の文脈で，社会参加などの社会的な視点を用いた点で新しさがあり，新たな形でお金の社会的な機能を示した。すなわち，募金行動や経済的社会参加意識がお金に対する信念で説明可能であったことから，お金には社会的な機能があると結論づけられる。本論文ではこの点について，お金に対する考え方の個人差の観点を用いたことがお小遣いの研究やお金の機能の研究とは異なる点であると考えられる。

### 第５項　　本論文の実践への示唆

本論文の各研究からは，実践について次のことが示唆された。

まず，消費者教育について提言することが可能と考えられる。消費者教育では，種々の目標が掲げられているが，学習指導要領（高等学校家庭科：文部科学省，2010）では，消費者に必要な能力を養うための項目を列挙したのみである。本論文では,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」のそれぞれの信念が強い場合には，クレジットカードを肯定し，貯蓄に積極的であり,職業について考える傾向にあることが示唆された。これらの消費，貯蓄，職業についての意識は健康な内容であり，適応性

の高いものであったと考えられる。そのため，消費者教育においては，人々が「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」の 3 つの信念を持てるよう支援することが必要であると考えられる。そのためには，消費者を取り巻く仕組みについて学ばせるのみでなく，お金について考えさせるような教育や介入も有効であるだろう。

加えて，お金に対する信念と職業意識の間に関連が示されたことから，大学生のキャリア教育についても提言できる。つまり，職業について考えさせるだけでなく,お金について考えさせることの有用性が示された。その場合にも,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」の 3 つの信念を持つことが必要である。

また，社会参加領域においては，募金行動についても提言できる。つまり,「ポジティブな影響源」や「労働の対価」が高いことおよび「ネガティブな影響源」が低いことが募金行動の促進につながることが示唆された。そのため，募金が必要となる以前に，それらについて教育や介入による働きかけを行うことも有効であろう。募金行動は，税金で賄われる公的な事業と異なり，どのような活動を支援するか，個人の価値観を反映して決定することができる。また，公的な事業と異なり，迅速な支援が可能である。本論文では，これらの特徴を持つ募金行動について提言が可能となった。

さらに，経済的な面での社会参加に，お金に対する信念が全般的に関連していた。そのため，経済的な面での社会参加においても，お金に対する信念について，大学でのキャリア教育の一環として教育や介入を行うことが，その後社会人として生活していく上での適応に寄与すると考えられる。

## 第４節　本論文の限界と今後の課題

本論文の限界を 5 点挙げる。第一に，本論文から得られた概念図（Figure 9-1）では,「労働の対価」と「獲得困難性」の上位に「重要性」が位置づけられたのに対し,「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」の上位に布置される概念が存在しなかった。これは，研究 1 において,「人への影響」カテゴリーを，影響の方向性であらかじめ分けて尺度を構成したためである。しかしながら,「重要性」に対応する概念として,「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」の上位に，お金が人に様々な影響を与えるものだという信念を想定した方が，関係がより明確になったと考えられる。

第二に，職業意識の位置づけが挙げられる。本論文では，職業意識を将来的に収入につながる意識であると見なし，家計管理に含めた。しかし，職に就くことは社会に参加することでもあるため，社会参加に含めることも可能であった。そのため，今後は職業意識を社会参加の一部と位置づけて，異なる方法でさらなる調査を行うことも必要であると考えられる。

第三に，関連を検討した領域の狭さが挙げられる。本論文では，家計管理領域と社会参加領域について扱った。しかしながら，竹尾ら（2009）では，お金と友人関係や親子関係の関連を扱っていた。また，Vohs, Mead, & Goode（2006）でも，お金と他者からの援助や他者への援助を扱っていた。そのため，本論文でもお金と対人関係について，お金に対する信念のあり方がどのようであれば，より適応的な対人関係を形成できるのかなどを検討すべきであった。特に，大学生では恋愛関係において経済的負担が意識されていることから（髙坂，2009），お金に対する信念の類似性の程度と関係の良好さなどを検討していくことが今後必要であろ

う。

第四に，不適応的な要素との関連について扱わなかった点が挙げられる。本論文では，大学生を対象としたため，健康的な状態との関連を検討した。しかし，生活保護受給者を対象とした Tang & Smith-Brandon（2001)やカードの利用に問題のある者に焦点を当てた Tokunaga(1993)のように，社会的な不適応状態を扱った研究もある。また，精神科領域では，過剰な買い物行動を示す買い物依存症（Compulsive buying disorder）の存在が示唆されている（大坪，2006)。このように，お金に関連する社会・心理的な不適応状態があるが，本研究では関連を検討しなかった。これらの不適応状態は，お金に対する態度の観点からも理解を進めていく必要があると考えられる。大学生ではこのような不適応状態にある協力者を募るのが難しいと考えられるため，今後は，調査協力者を社会人に拡大して，これらのことについて明らかにしていく必要があるだろう。

第五に，本論文では，お金に対する信念の規定因については触れなかった。しかし，研究 5 の web パネル調査の分析結果からは，年齢の影響が示唆された。よって，お金に対する信念の一部では，世代差や発達的変化が見られる可能性もある。他にも，お金に対する信念の規定因として，本人の経済的な環境や経済的な体験，養育者の影響なども想定可能である。今後はそれらの点についても検討していく必要がある。

## 論文概要

本論文では，お金に対する態度の中でも認知的な面での個人差を「お金に対する信念」と呼び，お金に対する信念が家計管理および社会参加の領域でどのような役割を果たしているか明らかにすることを目指した。つまり，お金に対する信念の構造の把握と関連領域の整理を試みた。

第Ⅰ部の理論的検討は第 1 章から第 5 章までであった。お金に関する論考を紹介した後（第 1 章），お金に関する心理学的研究を概観した（第 2 章）。お金に関する論考として，貨幣の社会性についての論考を紹介した。また，貨幣には一般的交換手段，価値尺度手段，価値貯蔵手段の 3 点の機能があることを確認した。お金に関する心理学的研究としては，お小遣い，心理的財布，お金の機能，お金に対する態度の各研究についてレビューした。そして，本論文ではお金に対する態度に焦点を当てることとし，お金に対する態度の概念の整理（第 3 章）と，お金に対する態度の関連研究の整理（第 4 章）を行った。概念の整理では，既存の 8 尺度について吟味し，内容を整理した。関連研究では，就業領域と購買領域の 2 領域に分けて整理した。その後，本論文の目的を述べた（第 5 章）。本論文では，お金に対する信念を測定するための信頼性と妥当性を備えた尺度の作成，お金に対する信念が家計管理領域でどのような役割を果たしているか明らかにすること，お金に対する信念が社会参加領域でどのような役割を果たしているか明らかにすることの 3 点を目的とした。

第Ⅱ部の実証的検討は，第 6 章から第 8 章までであった。第 6 章ではお金に対する信念の測定尺度の開発を行った。お金に対する信念の内容を文章完成法によって収集し整理した後（第 6 章第 1 節），項目を作成し，予備的に調査を行った（第 6 章第 2 節）。その後，尺度の作成およ

び妥当性の検討を行った（第 6 章第 3 節）。お金に対する信念尺度は，お金は人に悪い影響を与えるものだという内容の「ネガティブな影響源」，お金は人に良い影響を与えるものだという内容の「ポジティブな影響源」，お金は仕事の結果手に入るものだという内容の「労働の対価」，お金は手に入りにくいものだという内容の「獲得困難性」，お金は生きていく上で大切なものだという内容の「重要性」の 5 下位尺度で構成され，お金に対する態度尺度（原岡，1990），就業動機尺度（安達，1998），REC Scale（佐々木，1984），アルバイトの状態との関連から，妥当性が確認された。

また，同一の協力者に 3 週間の間隔を設けた 2 度の調査を実施することによって，再検査信頼性を確認した（第 6 章第 4 節）。

加えて，お金に対する信念尺度における大学生の特徴を把握することを目的として，20 代から 60 代までの成人を対象とした web パネル調査を行った。web パネル内で学生と学生以外の対象者を比較したところ差は得られなかったが，web パネルと授業内調査の大学生の得点を比較したところ，全ての下位尺度において差が得られた。大学生の方が得点が高かったものは，「ネガティブな影響源」，「労働の対価」，「獲得困難性」「重要性」の 4 下位尺度であり，web パネルの方が得点が高かったものは，「ポジティブな影響源」であった。このことから，大学生の時期は，お金についてより意識されている時期と結論づけられた。

第 7 章では，お金に対する信念が家計管理の領域でどのような役割を果たすのか検討した。家計には，お金を遣うこと，お金を貯めること，職に就いてお金を獲得することが含まれるため，消費意識（第 7 章第 1 節），貯蓄意識（第 7 章第 2 節），職業意識（第 7 章第 3 節）について検討した。

消費意識では，お金に対する信念と消費価値観およびクレジットカード肯定態度の関連を検討した。その結果，お金に対する信念は消費価値観と関連を示さなかったが,クレジットカード肯定態度と関連を示した。クレジットカード肯定態度と正の関連を示したのは「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」であった。

貯蓄意識では，お金に対する信念と将来の経済的な不安，貯蓄積極性，貯蓄理由の関連を検討した。その結果，お金に対する信念尺度の 5 下位尺度において，将来の経済的な不安との正の関連が見られた。また,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重要性」下位尺度は貯蓄積極性と正の相関を示していた。貯蓄理由では，お金がない不安を解消するために貯蓄を行っている者は，他の理由で貯蓄を行っている者よりも「重要性」の得点が高かった。

職業意識では，お金に対する信念と，職業価値観尺度（菰田，2006），フリーター肯定態度（安達，2007），就職切迫感，給料の高さを重視する程度との関連を検討した。お金に対する信念のうち,「労働の対価」が複数の職業価値観と関連を示したため，お金を仕事の結果得られるものとする考えが，職業価値観の形成に中心的な役割を果たしていることが示唆された。他に,「獲得困難性」と「重要性」も職業価値観と関連を示したため，この 2 つの信念も職業価値観の形成に寄与している可能性が示された。また，給料の高さを重要と考える程度は「重要性」のみと関連を示した。しかし，お金に対する信念はフリーター肯定態度の「積極的受容」とは関連を示さず，フリーターになることを促進も抑制もしないことが示唆された。

消費意識，貯蓄意識，職業意識のそれぞれで得られた結果を整理すると，お金に対する信念尺度の中でも,「労働の対価」,「獲得困難性」,「重

要性」の 3 下位尺度が家計管理領域で機能することが明らかとなった。

第 8 章では，お金に対する信念が社会参加の領域でどのような役割を果たすのか検討するため，募金行動（第 8 章第 1 節）と経済的な面での社会参加（第 8 章第 2 節）を取り上げた。

募金行動として，東日本大震災の復興のための募金行動を取り上げた。その結果，お金に対する信念は，募金行動の有無の判別に寄与していることが明らかとなった。「ポジティブな影響源」の得点が高いほど募金をする傾向にあり，「ネガティブな影響源」の得点が高いほど募金をしない傾向にあった。しかし，募金回数と募金金額はお金に対する信念と関連を示さず，募金行動の程度をお金に対する信念から予測することはできなかった。

経済的社会参加との関連の検討では，経済的社会参加意識を測定する項目を作成し，お金に対する信念との関連を分析した。経済的社会参加意識は，社会に出てから行うべきことに関する項目で構成される「経済的社会参加の自覚」，家計や社会保障などについて理解し対応できそうだという項目で構成される「経済についての十分な知識」，社会制度などに興味や関心を示す項目で構成される「社会への関心」，将来働きたいという項目で構成される「労働意欲」の 4 因子となった。経済的社会参加意識の「経済的社会参加の自覚」下位尺度と「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」が中程度の正の関連を示していた。加えて，「経済についての十分な知識」が「獲得困難性」および「重要性」と負の関連を示していた。関連の内容から，「獲得困難性」と「重要性」の役割が特徴的であると結論づけられた。また，「政治的不信感」は，お金に対する信念の全ての下位尺度と弱い正の関連を示した。政治に不信感を抱いているほど，お金に対する信念全般が強いという結果であった。

第Ⅲ部の総括では，第Ⅰ部の理論的検討と第Ⅱ部の実証的検討を対応づけて考察した。

お金に対する信念の相互関係を整理したところ，「労働の対価」，「獲得困難性」，「重要性」はお金を入手する前の段階で機能する内容であると考えられた。一方，「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」はお金を入手した後の段階で機能する内容であると考えられた。また，入手前の機能の 3 つの信念の中では，「重要性」が「労働の対価」と「獲得困難性」の上位概念であることが示唆された。そして，入手前の機能は家計管理と社会参加の両領域に，入手後の機能は社会参加領域に，関連を持つことが示された。つまり，本論文では次の点が示された。第一に，お金に対する信念は全体として社会参加領域に関連を持つである。第二は，入手前の機能が家計管理領域に関連を持つことである。

理論的位置づけとして，本論文は，お金に対する態度研究に，社会化の視点を取り入れた点で新しさがあることを述べた。実践への示唆として，消費者教育，大学生のキャリア教育，募金行動の促進などへの応用について論じた。

最後に，本論文の限界を 4 点挙げた。第一は，入手後の機能に上位概念を想定しなかったことである。入手前の機能には，「労働の対価」と「獲得困難性」の上位に「重要性」が位置づけられたのに対し，「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」の上位に布置される概念が設定できなかった。これは，研究 1 において，「人への影響」カテゴリーを，影響の方向性であらかじめ分けて尺度を構成したためであるが，入手前の機能と入手後の機能を対応づけるためには，「ネガティブな影響源」と「ポジティブな影響源」の上位に，お金が人に様々な影響を与えるものだという信念を想定した方が，構造がより明確になったと考えられる。

第二は，対人関係について扱わなかったことである。竹尾ら（2009）やVohs, Mead, & Goode（2006）などの研究では，対人関係の視点を取り入れていたことから,本研究でも検討することが望ましかったであろう。第三は，強迫的な買い物行動などの不適応的な要素との関連について扱わなかったことである。第四は，規定因について触れなかったことである。お金に対する信念の規定因としては，本人の経済的な環境や経済的な体験，養育者の影響などが想定される。以上を限界点として挙げ，今後の課題とした。

（3940 文字）

## 引用文献


安達智子(1998). 大学生の就業動機測定の試み 実験社会心理学研究, **38**, 172-182.

安達智子(2007). 若者層のフリーターに対する肯定的態度の構造と規定要因 社会心理学研究, **47**, 39-50.

朝日新聞(2014). 「家計貯蓄率」が初のマイナス 内閣府発表 12 月 26 日朝刊

Baker, P. M. & Hagedorn, R. B.(2008). Attitudes to money in a random sample of adults: Factor analysis of the MAS and MNNS scales, and correlations with demographic variables. *The Journal of Socio-Economics*, **37**, 1803-1814.

Furnham, A.(1984). Many sides of the coin: The psychology of money usage. *Personality and Individual Differences*, **5**, 501-509.

ガンガ伸子・尾崎明美・清水奈津子(2006). AHP（Analytic Hierarchy Process）による大学生の貯蓄意識の分析 日本家政学会誌, **57**, 569-575.

蜂屋真(2005). 大学生の心理的サイフ：1995 年度調査と 2000 年度調査の比較 流通科学大学論集―人間・社会・自然編, **17**(3), 39-52.

箱井英寿・高木修(1987). 援助規範意識の性別, 年代, および世代間の比較 社会心理学研究, **3**, 39-47.

Hanley, A. & Wilhelm, M. S.(1992). Compulsive buying: An exploration into self-esteem and money attitudes. *Journal of Economic Psychology*, **13**, 5-18.

原岡一馬(1990). お金に対する態度と価値志向 I ――態度の構造と態度尺度の構成―― 名古屋大學教育學部紀要教育心理学科, **37**,

199-216.

Hayhoe, C. R., Leach, L., & Turner, P. R.(1999). Discriminating the number of credit cards held by college students using credit and money attitudes. *Journal of Economic Psychology*, **20**, 643-656.

磯部美良・小谷梓・前田健一(2002). 大学生世代と親世代の羞恥感情の比較検討 広島大学心理学研究, **2**, 141-149.

岩井克人(1998). 貨幣論 ちくま学術文庫

片平光明(2003). 第 12 章 貨幣市場と利子率の関係を考えてみよう 長谷川啓之・太田辰幸・関谷喜三郎・片平光明・安田武彦（共著） 初心者のための経済学 創土社

小嶋外弘(1972). 新・消費者心理の研究 日本生産性本部

菰田孝行(2006). 大学生における職業価値観と職業選択行動との関連 青年心理学研究, **18**, 1-17.

髙坂康雅(2009). 恋愛関係が大学生に及ぼす影響と，交際期間，関係認知との関連 パーソナリティ研究, **17**, 144-156.

子安増生(1999). 社会化 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁桝算男・立花政夫・箱田祐司（編） 心理学辞典 有斐閣 p.363

栗田喜勝(2001). 援助行動の予測院に関する研究――援助行動と態度，主観的規範との関連―― 応用心理学研究, **27**, 38-46.

Lim, V. K. G. & Teo, T. S. H.(1997). Sex, money and financial hardship: An empirical study of attitudes towards money among undergraduates in Singapore. *Journal of Economic Psychology*, **18**, 369-386.

松井豊(1981). 援助行動の構造分析 心理学研究, **52**, 226-232.

松村明（監）(1998). 大辞泉 増補・新装版 小学館

望月葉子・中島史明・大根田充男(1992). 年齢規範の観点から見た青年の将来展望に関する研究――予期された標準的なライフサイクルと職業生活設計をめぐって―― 発達心理学研究, **3**, 81-89.

文部科学省(2008). 中学校学習指導要領 東山書房

文部科学省(2010). 高等学校学習指導要領解説 家庭編 開隆堂出版

日戸浩之・塩崎潤一(2001). 21 世紀の生活者と新たな消費スタイル 知的資産創造, 2001 年 1 月号, 74-93.

野村総合研究所・松下東子・日戸浩之・濱谷健史(2013). なぜ, 日本人はモノを買わないのか? 東洋経済新報社

尾高邦雄(1941). 職業社会学 岩波書店

呉宣児・竹尾和子・片成男・高橋登・山本登志哉・サトウタツヤ(2012). 日韓中越における子ども達のお金・お小遣い・金銭感覚：豊かさと人間関係の構造 発達心理学研究, **23**, 415-427.

大西茂・神山進(2008).「心理的財布」を指標にした消費者の価値変遷 広告科学, **49**, 62-81.

大坪天平(2006). 買い物依存の精神医学 精神科, **8**, 471-475.

Roberts, J. A. & Jones, E.(2001). Money attitudes, credit card use, and compulsive buying among American college students. *International Journal of Consumer Affairs*, **35**, 213-240.

Rose, G. M. & Orr, L. M.(2007). Measuring and exploring symbolic money meanings. *Psychology & Marketing*, **24**, 743-761.

佐々木土師二(1984). 消費者購買態度の合理性と情緒性の測定 関西大学社会学部紀要, **16**(1), 1-26.

下村英雄(2013). 現代青年の社会意識と職業意識：20～30 代若年就労者の正社員・フリーターに対する意識をもとに 青年心理学研究, **24**,

149-164.

志村結美・佐藤文子(2003). 家庭科における自己実現と経済的自立に関する教育内容の探求――高校生の認識と実態の視点から―― 日本家庭科教育学会, **46**, 14-26.

新村出（編）(2008). 広辞苑 第六版 岩波書店

篠原しのぶ・原崎聖子(2002). 青年の甘えと社会的適応に関する発達心理学的調査 福岡女学院大学紀要：人間関係学部編, **3**, 61-69.

篠原しのぶ・原崎聖子(2004). 青年の甘えの背景に関する調査研究 福岡女学院大学大学院紀要：臨床心理学, **1**, 9-20.

総務省(2009). 日本標準職業分類（平成 21 年 12 月統計基準設定）―日本標準職業分類一般原則〈http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/shokgyou/gen_h21.htm〉

鈴木敏紀(1995). 価値形態論で解明すべきこと：岩井克人『貨幣論』批判 上越教育大学研究紀要, **14**, 387-405.

鈴木敏紀(1996). 貨幣の機能と信用：岩井克人『貨幣論』批判 上越教育大学研究紀要, **16**, 207-229.

竹尾和子・高橋登・山本登志哉・サトウタツヤ・片成男・呉宣児(2009). お金の文化的媒介機能から捉えた親子関係の発達的変化 発達心理学研究, **20**, 406-418.

Tang, T. L. P.(1992). The meaning of money revisited. *Journal of Organizational Behavior*, **13**, 197-202.

Tang, T. L. P.(1996). Pay differentials as a function of rater's sex, money ethic, and job incumbent's sex; A test of the Matthew Effect. *Journal of Economic Psychology*, **17**, 127-144.

Tang, T. L. P.(1996). Income and quality of life: Does the love of money make a difference? *Journal of Business Ethics*, **72**, 375-393.

Tang, T. L. P. & Chiu, R. K.(2003). Income, money ethic, pay satisfaction, commitment, and unethical behavior: Is the love of money the root of evil for Hong Kong employees? *Journal of Business Ethics*, **46**, 13-30.

Tang, T. L. P. & Gilbert, P. R.(1995). Attitudes toward money as related to intrinsic and extrinsic job satisfaction, stress and work-related attitudes. *Personality and Individual Differences*, **19**, 327-332.

Tang, T. L. P., Kim, J. K., & Tang, D. S. H.(2000). Does attitude toward money moderate the relationship between intrinsic job satisfaction and voluntary turnover? *Human Relations*, **53**, 213-245.

Tang, T. L. P., Kim, J. K., & Tang, T. L. N.(2002). Endorsement of the money ethic, income, and life satisfaction: A comparison of full-time employees, part-time employees, and non-employed university students. *Journal of Managerial Psychology*, **17**, 442-467.

Tang, T.L.P. & Smith-Brandon, V.L. (2001). From welfare to work: The endorsement of the money ethic and the work ethic among welfare recipients, welfare recipients in training programs, and employed past welfare recipients. *Public Personnel Management*, **30**, 241-251.

Tang, T. L. P., Sutarso, T., Davis, G. M. T. W., Dolinski, D., Ibrahim, A. D. S., & Wagner, S. L.(2008). To help or not to help? The good Samaritan effect and the love of money on helping behavior. *Journal of Business Ethics*, **82**, 865-887.

Tokunaga, H.(1993). The use and abuse of consumer credit: Application of psychological theory and research. *Journal of Economic Psychology*, **14**, 285-316.

登張真稲(2003). 青年期の共感性の発達：多次元的視点による検討 発達心理学研究, **14**, 163-148.

豊田利久(2006). PART 2 災害と金 災害復興における経済的諸問題 関西学院大学災害復興制度研究所（編） 2006 RON《論》被災からの再生 関西学院大学出版会. 兵庫県西宮市

Verhaert, G. A. & Poel, D. V.(2011). Empathy as added value in predicting donation behavior. *Journal of Business Research*, **64**, 1288-1295.

Vittell, S. J., Paolillo, J.G. P., & Singh, J. J.(2006). The role of money and religiosity in determining consumers' ethical beliefs. *Journal of Business Ethics*, **64**, 117-124.

Vittell, S. J., Singh, J. J., & Paolillo, J.G. P. (2007). Consumers' ethical beliefs: The roles of money, religiosity and attitude toward business. *Journal of Business Ethics*, **73**, 369-379.

Vohs, K. D., Mead, N. L., & Goode, M. R.(2006). The psychological consequences of money. *Science*, **314**, 1154-1156.

山田一成(1990). 現代大学生における政治的疎外意識の構造 社会心理学研究, **5**, 50-60.

山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄（編）(2005). 新明解国語辞典 第六版（机上版） 三省堂

Yamauchi, K. T., & Templer, D. I.(1982). The development of a Money Attitude Scale. *Journal of Personality Assessment*, **46**, 522-528.

Yang, Q., Wu, X., Zhou, X., Mead, N. L., Vohs, K. D., & Baumeister, R.F.(2013). Diverging effects of clean versus dirty money on attitudes, values, and interpersonal behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, **104**, 473-489.

Zhou, X., Vohs, K. D., & Baumeister, R. F.(2009). The symbolic power of money: Reminders of money alter social distress and physical pain. *Psychological Science*, **20**, 700-706.

## 本論文を構成する研究の発表状況

### 研究論文

渡辺伸子・佐藤有耕(2010). お金に対する態度に関する心理学的研究の動向 筑波大学心理学研究, **40**, 61-71. *(理論的検討)*

渡辺伸子(2014). 大学生用お金に対する信念尺度の作成 応用心理学研究, **40**, 11-22. *(研究 1, 研究 2, 研究 3, 研究 4)*

渡辺伸子(2014). 東日本大震災における大学生の募金行動とお金に対する信念および共感性, 援助規範意識の関連 応用心理学研究, **40**, 71-81. *(研究 9)*

### 国内学会発表

▽口頭発表

渡辺伸子(2013). 大学生におけるお金に対する信念と職業価値観の関連 日本青年心理学会第 21 回大会発表論文集, 22-23. *(研究 8)*

▽ポスター発表

渡辺伸子(2012). お金に対する信念尺度作成の試み 日本心理学会第 76 回大会大会発表論文集. *(研究 1, 研究 2, 研究 3)*

渡辺伸子(2012). お金に対する行動が他者に与える印象 日本パーソナリティ心理学会第 21 回大会発表論文集, 161. *(研究 11, 研究 12)*

渡辺伸子(2013). 募金行動とお金に対する信念および援助特性の関連―東日本大震災の場合― 日本応用心理学会第 80 回記念大会発表論文集, 52. *(研究 9)*

渡辺伸子(2013). お金に対する信念と社会的状況および家計変数の関連 日本パーソナリティ心理学会第 22 回大会論文集, 88. *(研究 5)*

渡辺伸子(2014). 大学生の貯蓄とお金に対する信念の関連 日本パーソナリティ心理学会第23回大会論文集, 114. *(研究 7)*

## 謝辞

本論文の作成にあたり，多くの人より手助けをいただきました。

内容に関しては，指導教員の佐藤有耕先生と，副指導教員の松井豊先生および湯川進太郎先生にお世話になりました。また，突然のお願いにもかかわらず審査をお引き受け下さいました岡田昌毅教授にも大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

加えて，大学時代に引き続きご指導くださいました目白大学の今野裕之先生にも大変お世話になりました。

研究会などの日常の取り組みでは，後輩の千島雄太さんと山根彩可さんにお世話になりました。

また，日々の諸手続きにおいては学域事務の高桑さんと鈴木さんに大変お世話になりました。お二人がいつも笑顔で接してくださったことで，私の大学院生活は随分と明るいものになりました。感謝の思いでいっぱいです。

健康に過ごすことに関しては，保健管理センターの諸先生方に大変お世話になりました。先生方なくして，本論文の完成はなかったものと思います。

加えて，後期課程から始めた合気道では，先生，先輩方から多くの学びがありました。そこから得られた学びは，本論文にも反映されたものと感じています。深い学びを得られたことの幸運に感謝しています。

さらに，大学院という長い学びに対して，金銭的な援助を施してくれた両親にも感謝します。

他にも，書ききれないほど多くの人々にお力添えをいただきました。紙幅の都合上，全ての方について，個別にお礼を書き添えることができないのが大変残念です。

大学院の6年間，たくさんの本を読めて幸せでした。人よりも深く長い学びの期間を得られた幸運を，どのように皆さんに，そして社会に還元できるのか，いまは想像もつきません。ですが，学びを得た期間の何倍もの時間をかけて，お返ししていけたらと思います。至らぬことばかりの私でしたが，今後は感謝を行動で示せるよう，尽力していくつもりです。

資 料

# お金に対する態度の研究

はじめに、こちらにご記入ください。

＊性別 〔**男性・女性**〕
＊年齢 〔　　〕歳
＊学科・学類 〔　　〕
＊学年 〔　　〕年
＊現在働いていますか？（パートやアルバイトを含む）〔**はい・いいえ**〕
＊お住まい〔　　**都・道・府・県**〕

1．あなたにとって、「お金」はどのようなものですか（お金の意味や、お金の性質など）。下の文章の続きを完成させて教えてください。

〔例〕お金は、 よいものだ 。

・お金は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・お金は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・お金は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・お金は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・お金は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

2．あなたは「お金」に関して、普段どのような行動をしていますか。下の文章の続きを完成させて教えてください。

〔例〕わたしは普段、お金 をしっかり働いて稼いでいる 。

・わたしは普段、お金＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・わたしは普段、お金＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・わたしは普段、お金＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・わたしは普段、お金＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・わたしは普段、お金＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

3. あなたは、「お金」とのかかわりの中で、どのような気持ちになりますか。文章のどこかに「お金」という言葉を使って、下に箇条書きで書いてください。

〔例〕 お金をぱーっと使うと、すっきりする 。

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

4. いままで、あなたが経験した「お金」に関するいやなことや困ったことについて教えて下さい。（特にない場合は空欄で結構です。）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

5. いままで、あなたが経験した「お金」に関するよかったことやうれしかったことについて教えて下さい。（特にない場合は空欄で結構です。）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

6. 普段感じる、「お金」に関する悩み事があれば、教えて下さい。（特にない場合は空欄で結構です。）

7. いままで回答していただいた他に、「お金」に関して考えていることや感じていることがあれば、自由にお書き下さい。（特にない場合は空欄で結構です。）

8. 以下の質問に、自分があてはまるかどうか、「あてはまる」か「あてはまらない」のどちらかに〇をつけて答えてください。

| | |
|---|---|
| ①わたしは、人並みにお金を持っていると思う。 | あてはまる・あてはまらない |
| ②もっとお金がほしいと思うことが多い。 | あてはまる・あてはまらない |
| ③いまよりもお金があったら、もっと幸せになれると思う。 | あてはまる・あてはまらない |
| ④この世で一番大切なのは、お金だと思う。 | あてはまる・あてはまらない |
| ⑤わたしは、いつもお金がなくて困っている。 | あてはまる・あてはまらない |

回答に不備がないかお確かめの上、ご提出ください。

ご協力、大変ありがとうございました。

| 1. お金に対して、あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**あなた自身が考えていること**について答えてください。文章と同じことをあなたがどの程度思っているか、〇をつけて答えてください。 | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | お金は、人生でもっとも大切なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金は、人にゆとりを与えるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | お金は、働いて得るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | お金は、トラブルの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は、とても価値があるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は、人に自由を与えると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | お金は、人をダメにする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 働かないでお金を手に入れる方法はいくらでもある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金は、争いをうむ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金より大事なものなど、この世にはないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | お金があると、心が豊かになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | お金があると、人はダメになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金は、自分で働いて稼ぐものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | お金は、人間関係を悪くするものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | お金は、非常に重要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | お金があると、心に余裕が生まれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金は、人を意地汚くする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金は、人間関係を壊す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金は、生きていくためにとても必要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金は人を幸せにする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金は、人の心を惑わす。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | お金は、労働の対価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | お金は、あればあるだけよい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | お金は、人にチャンスを与えるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | お金があると、人は悪いことを考えるようになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | お金より大切なものがこの世にはたくさんある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | お金は、人に活力をくれるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | お金があると、心が貧しくなると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | お金は、稼ぐのが難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 32 | お金は大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 33 | お金は人を不幸にする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 34 | お金は、得るのが大変だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 35 | お金は、仲たがいのもとだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 36 | お金は必要不可欠なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | お金があっても、人はきれいな心でいられる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 38 | お金は、簡単には手に入らないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 39 | お金があると、もめごとが起こるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 40 | お金は、働く楽しみだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 41 | お金は、いざこざの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 42 | お金は、自分のした仕事の評価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

はじめに、次の質問に答えてください。

＊性別 〔**男・女**〕（←いずれかに〇）
＊年齢 〔　　〕歳
＊学科・学類 〔　　〕
＊学年 〔　　〕年
＊現在働いていますか？（パートやアルバイトを含む） 〔**はい・いいえ**〕（←いずれかに〇）
＊お住まい〔　　**都・道・府・県**〕（←記入後、いずれかに〇）

＊中学生のとき、あなたのご実家の生活の程度はどのくらいでしたか。下の選択肢の中でいちばん近いと思うものに〇をつけてください。

〔　上　・　中の上　・　中の中　・　中の下　・　下　〕

| Q. お金に対して、あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**<u>あなた自身が考えていること</u>**について答えてください。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか、○をつけて答えてください。あまり深く考え込まずに回答してください。 | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | お金は、人生でもっとも大切なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金は、人にゆとりを与えるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | お金は、働いて得るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | お金は、トラブルの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は、とても価値があるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は、人に自由を与えると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | お金は、人をダメにする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 働かないでお金を手に入れる方法はいくらでもある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金は、争いをうむ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金より大事なものなど、この世にはないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | お金があると、心が豊かになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | お金があると、人はダメになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金は、自分で働いて稼ぐものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | お金は、人間関係を悪くするものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | お金は、非常に重要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | お金があると、心に余裕が生まれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金は、人を意地汚くする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金は、人間関係を壊す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金は、生きていくためにとても必要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金は、人を幸せにする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金は、人の心を惑わす。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | お金は、労働の対価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | お金は、あればあるだけよい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | お金は、人にチャンスを与えるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | お金があると、人は悪いことを考えるようになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | お金より大切なものがこの世にはたくさんある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | お金は、人に活力をくれるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | お金があると、心が貧しくなると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |



次のページに続きます。→

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | お金は、稼ぐのが難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 32 | お金は、大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 33 | お金は、人を不幸にする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 34 | お金は、得るのが大変だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 35 | お金は、仲たがいのもとだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 36 | お金は、必要不可欠なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 37 | お金があっても、人はきれいな心でいられる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 38 | お金は、簡単には手に入らないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 39 | お金があると、もめごとが起こるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 40 | お金は、働く楽しみだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 41 | お金は、いざこざの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 42 | お金は、自分のした仕事の評価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 43 | お金がなくなったとしたら、非常に困るだろう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 44 | お金があると、人にやさしくなれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 45 | お金は、人との関係によくない影響を与える。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 46 | お金を手に入れるのは、とても難しいことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 47 | お金は、自分が働いた分だけ手に入るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 48 | お金は、なくてはならないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 49 | お金は、人にやる気を起こさせるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 50 | お金を稼ぐのは、甘くないことだと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 51 | お金は、自分の力で手に入れるものだと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 52 | お金が少しなくなっただけでも、大変なことになるだろう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 53 | お金が関係すると、人は真剣になる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 54 | お金は、たやすく手に入るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 55 | お金とは、仕事の結果として与えられるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 56 | いろいろな問題は、お金で解決できると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 57 | お金があると、積極的になれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 58 | お金は、すぐに稼ぐことができると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 59 | 働かなければ、お金は得られない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 60 | その気になれば、お金はいつでも手に入るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 61 | 苦労しないでお金を手に入れようというのは、間違っている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| A．あなたがお金に対して考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**あなた自身が考えていること**について答えてください。正しい答えや良い答えがあるわけではありませんので、文章と同じことをあなたがどの程度思っているか、選択肢に○をつけて答えてください。 | | そう思う | やや思う | どちらともいえない | あまり思わない | 思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 人間は何をするにも先立つものはお金である。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 世の中に不公平があるのはお金があるためである。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | たいていのことはお金で解決できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 必要以上にお金を持つと人の心は醜くなる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は人間を評価するものさしである。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は犯罪のもとになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 現代社会では「金の切れ目が縁の切れ目」である。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | お金は人間を惑わす根源である。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金があれば心にゆとりがもてる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金は諸悪の根源である。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 現代社会ではお金が価値基準となっている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 社会病理的問題は、大部分、お金がもとで引き起こされたり悪化したりするものである。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金は持っていればいるほど幸せである。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | 究極的には、お金は不潔なものか、不潔さを象徴化したものである。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | 社会的付き合いにはお金が必要である。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | 理想社会を確立するには、貨幣制度の廃止が前提条件である。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金がなければ、人は一人前になれない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金が関係してくると、何事も汚れたものになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金が現代社会の仕組みを支えている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金を持てば持つほど権力が増す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金さえあれば社会を思うように動かせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金はたくさんあるにこしたことはない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | お金儲けは生きていく上で当たり前の活動である。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | どれくらい財産をもっているかで社会的地位が決まる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | どれくらいの収入があるかによって能力が評価される。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | そう思う | やや思う | どちらともいえない | あまり思わない | 思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 現代社会が何事についてもうまく機能するには、<br>絶対にお金が必要である。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | お金のある人は、お金のない人より幸福になる可能性が高い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | 地位体系が必要な場合、お金はその適切な基礎となる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| C．日頃のあなたのものの感じ方・考え方、興味・関心などについてお聞きします。以下の文に書かれたことがあなたにどのくらいあてはまるかについて、選択肢を○で囲んでお答えください。正しい答えや、良い答えなどは特にありませんので、あまり考えこまず、感じたままにお答えください。 | | あてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | ややあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 何か変わったことに気づくと、その原因や理由をつきとめたくなる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 相手の話をよく聞いて、気もちを受けとめようとする方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 他人に対して、自分の意見をはっきり言う方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 自分が生まれてきたことの意味について考えることがある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | きれいなものを集めたり飾ったりすることが好きだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | ものの仕組みがどうなっているのか、興味をもつ方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 誰かが困っているのを見たら、すすんで手助けする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | グループの中心になって、他の人を引っぱっていこうとする方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 自分はどのように生きるべきかと、悩むことがある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | 自分がふだん使うものは、色やデザインにこだわる方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 人よりも計画性がある方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 「これは何だろう」「なぜこうなるのだろう」という疑問をもつ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 家族や友人に対する愛情が深い方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | まちがったことをしている人を見たら、きちんと注意する。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | 人間の運命というものを感じることがある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | 身のまわりの物の形や色に、強く心を引きつけられることがある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | どうせやらなくてはならない雑用は、早めに片付けてしまう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | 複雑なものの中から、法則やパターンを見つけだすのが好きだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | 人の生き方を見て、「えらいなあ」「すてきだなあ」と感心することが多い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | 自分が正しいと思うことなら、反対する人を説得してでもやり通す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | 自分が生まれる前や死んだあとのことについて考えることがある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | 音楽が好きな方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 10分や20分の空き時間・待ち時間も、なるべく有効に使う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | 辞書や事典を引いたり、図鑑で調べたりするのは好きな方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | 仲間と力を合わせて、1つの目標に向かってがんばるのが好きだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | あてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | ややあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | この世界には、人間の知恵の及ばない、大きな力がはたらいていると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | 試験勉強等では丸暗記は避け、「なぜそうなるのか」という理由から理解する。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | 親しい相手が喜んでくれるなら、何でもしてあげたいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | 人の意見に左右されやすい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | 美しい景色を見ても、すぐに飽きてしまう方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 31 | 実現しそうもないことについ手を出して、失敗することが多い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 32 | すじみち立ててものを考えることは苦手な方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 33 | 人づきあいは、あまり楽しいと思わない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 34 | 人にものを頼んだり、自分の要求を伝えたりするのが苦手だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 35 | 宗教や信仰に対しては、関心がない方だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 36 | 芸術的なものには、あまり興味がない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 37 | 他人のことを、深く理解したいとは思わない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 38 | 何か疑問を感じても、わざわざ調べたり確かめたりすることは少ない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 39 | 決められた期限までに仕事を間にあわせることが苦手だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| D．あなたが普段、人間関係で感じることについてお聞きします。文章を読んで、自分がどのくらいその文章にあてはまるか、○をつけて答えてください。 | | あてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | あまりあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 自分の居場所がないように感じる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 私は一人ぼっちであると感じることがよくある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 何かに縛られ自由に動けないようだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 本当の自分を理解されているように感じる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 何かに追いつめられているような感じをよく持つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | うちとけて話ができる人は私にはあまりいないように思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 私には本当に理解し合える人はほとんどいないように思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 自分はやさしい人々に囲まれて決して一人ではないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | みんなが冷たい目で私を見ているようだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | 何かにせきたてられて生きている感じがする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 何か言っても無視されることが多いようだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | あるがままの自分を出せない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 私の毎日は実にのびのびしているように思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | 私を認めてくれる人はいないようだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | 毎日が緊張の連続で息苦しさを感ずることもある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | 他人に気兼ねして自分のやりたいことができない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | 私は他人からあまり信頼されていないようだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | みんないつも温かい心で私を迎え入れてくれるように思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | 自分がしたくないことをさせられているとよく感じる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | わけもなく疲労を感じることがしばしばある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | 悩み等を話せる友人がいない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| F．あなたが就職に対して持っている考えについてお聞きします。文章を読んで、自分がどのくらいその文章にあてはまるか、選択肢に○をつけて答えてください。 | | あてはまる | ややあてはまる | どちらでもない | あまりあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 将来就こうと考えている職業に関する情報には興味がある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 周囲の人々とコミュニケーションしながら仕事をすすめたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 地位や名誉をもたらす職業に就きたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 世間で非常に難しいとされている仕事をやり遂げたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 将来就きたい職業のために努力しようと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 仕事を通じて色々な人に出会いたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 職場では高い役職につきたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 努力や能力を必要とする仕事がしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 将来仕事で活用できる知識や技術を身につけたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | 常に多くの人との出会いがある仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 昇格や昇進の機会がある仕事を得ることは重要だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 誰かの案に従うのではなく自分で計画をたてる様な仕事がしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 日常生活の中で、仕事に役立つことは何でも吸収していきたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | 仕事そのものでなく職場の人間関係に興味がある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | 世間で名前の通った企業や団体に就職したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | 仕事で成功するためには決して努力を惜しまない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | 将来就こうと考えている職業について自分で調べようと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | 職場では周りの人々との調和が何よりも大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | 給料のいい職業に就くことは充実した生活に欠かせない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | 困難な仕事でも人に助けを借りずに自分の力でやり遂げたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | 将来就こうと考えている職業に関連した講習会やセミナーには進んで参加しようと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | 仕事を通じて得たい最大の満足は、人との交流から得られる満足感だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 周りから賞賛されるような仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | 人と張り合えるような仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | 将来したい仕事に役立つ資格や免許を取得するつもりだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | あてはまる | ややあてはまる | どちらでもない | あまりあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 職場では一生つき合える友人を作りたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | 人より優れた仕事をすることが重要だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | 将来就きたい職業がはっきり決まっている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | 仕事に就くのは人との接触をもっていたいからだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | 何か価値ある業績をあげようと考えている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 31 | 自分の個性が活かせる仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 32 | 仕事に活かせる事なら何でも学ぶつもりだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 33 | 個人の努力が重視される仕事ではなく集団の努力が<br>重視される仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 34 | いつも目標をもって仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 35 | 社会的に有意義な仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 36 | 仕事を通じて自分を向上させたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 37 | 将来就こうと思う職業について考えるのは楽しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 38 | 職場ではムードメーカーになりたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| E．あなたの普段の買い物のしかたについてお聞きします。以下の文章があなたの普段の考えや行動にどのくらいあてはまるかを、選択肢の数字に○をつけて答えてください。 | | その通り | だいたいその通り | どちらともいえない | やや違う | 違う |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 買う時にはよくバーゲンセールを利用する。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 流行中のものを買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | どの店で買えば得かを行く前によく調べてみる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | そのもののムードや情緒を特に重視して買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 買うのは必要最低限にとどめておく。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 買う時には店員がすすめるものにする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 買う時にはよく広告しているブランドを買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 実用性とか使いやすさを特に重視して買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 見た感じとか美しさを特に重視して買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | できるだけ多くのものと比較したうえで買うものを決める。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 新しい物が出たときは人よりもはやく買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | とにかく安くて経済的なものを買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| G．あなたは、次の品物を買うときに、どのくらい「心の痛み（お金の払いづらさ）」を感じますか。普段買うものについては普段感じる心の痛みを思い出して、普段買うことのない品物については、もし買うとしたらどのくらい心の痛みを感じるかを想像して、答えてください。痛いと思う程度のところに○をつけて回答してください。 | | 非常に痛い | かなり痛い | どちらかというと痛い | どちらかというと痛くない | あまり痛くない | まったく痛くない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 洗濯機　3万円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | サプリメント　2000円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 切手　80円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | ダイエット食品　1000円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 冷蔵庫　2万5000円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | インターネットの代金月額　4000円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 毎月の新聞代　3000円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 体温計　700円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | ベッド　1万5000円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | 栄養ドリンク剤　180円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | NHK受信料月額　2600円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 体重計　4000円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 外出先で一人で食べる食事代　600円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | 映画鑑賞　1500円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | カーテン　5000円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | トイレットペーパー　300円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | 教科書　2500円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | 宅配便送料　1200円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | 高級レストランでの友人との会食代　3000円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | ビタミンC剤　300円 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

次の質問に答えてください。

＊性別 〔**男・女**〕(←いずれかに〇)
＊年齢 〔　　〕歳
＊学科・学類 〔　　〕
＊学年 〔　　〕年
＊現在アルバイトをしていますか？〔**はい・いいえ**〕(←いずれかに〇)
→**はい**の人のみ答えください。(いいえの人はとばしてください。)
時給はおいくらですか？〔　　〕円
ひと月に何時間程度働いていますか？〔　　〕時間くらい

＊お住まい〔　　**都・道・府・県**〕(←記入後、いずれかに〇)

＊中学生のとき、あなたのご実家の経済的な生活の程度はどのくらいでしたか。下の選択肢の中でいちばん近いと思うものに〇をつけてください。
〔　上　・　中の上　・　中の中　・　中の下　・　下　〕

質問は以上で終わりです。
回答に漏れがないか確認の上、ご提出ください。
ご協力ありがとうございました。

Q．お金に対して、あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**<u>あなた自身が考えていること</u>**について答えてください。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか、○をつけて答えてください。あまり深く考え込まずに回答してください。

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | お金は、いざこざの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | お金は、稼ぐのが難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | お金があると、人にやさしくなれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は、必要不可欠なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は、人間関係を壊す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | お金とは、仕事の結果として与えられるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | お金は、得るのが大変だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金があると、心が豊かになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金は、なくてはならないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | お金は、人との関係によくない影響を与える。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | お金は、労働の対価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金を手に入れるのは、とても難しいことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | お金があると、積極的になれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | お金は、生きていくためにとても必要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | お金があると、もめごとが起こるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金は、自分のした仕事の評価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金は、簡単には手に入らないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金は、人に自由を与えると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金は、大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金は、仲たがいのもとだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金は、自分で働いて稼ぐものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | お金より大事なものなど、この世にはないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | お金は、非常に重要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | お金は、人間関係を悪くするものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | お金は、自分が働いた分だけ手に入るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | お金を稼ぐのは、甘くないことだと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | お金があると、心に余裕が生まれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | お金がなくなったとしたら、非常に困るだろう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

この調査は、2 回実施します。2 回の調査を対応づけるため、あなたの電話番号の下 5 ケタからあなたの個人 ID 番号を作成してください。（例：98765）

あなたの ID 番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

最後に、次の質問に答えてください。

＊記入日〔　　月　　日（　）〕

＊性別 〔**男・女**〕（←いずれかに〇）

＊年齢 〔　　〕歳

＊学科・学類 〔　　〕

＊学年 〔　　〕年

＊現在アルバイトをしていますか？〔**はい・いいえ**〕（←いずれかに〇）

＊現在のお住まい〔　　**都・道・府・県**〕

＊中学生のとき、あなたのご実家の経済的な生活の程度はどのくらいでしたか。下の選択肢の中でいちばん近いと思うものに〇をつけてください。

〔　上　・　中の上　・　中の中　・　中の下　・　下　〕

質問は以上で終わりです。
回答に漏れがないか確認の上、ご提出ください。
ご協力ありがとうございました。

研究実施分担者　筑波大学大学院人間総合科学研究科心理学専攻　　渡辺　伸子
研究実施責任者　筑波大学人間系准教授　　佐藤　有耕

「お金に対する信念と社会的属性に関する web 調査」に関する調査協力のお願い

この調査は、お金について多くの人がどのような考えを持っているのか調べることと、人口統計学的変数および家計変数の関連を調べることを目的としています。
以下の調査についての説明をご理解いただいた上、ご協力いただければと思います。

●調査について●

①この調査は，多くの人がどのように考えているかを知るためのものです。誰がどのように答えたかを調べるものではありません。
②回答は，研究以外の目的で使用されることはありません。
③個人を特定できる形でデータを公表することはありません。
④調査は、無記名で行われるため、個人が特定されることはありません。また、調査を記録する電子媒体にも個人が特定されるような情報は含まれません。
⑤調査への回答は自由です。また，回答の途中で気分が悪くなったり，これ以上回答したくないと思ったりした場合は，　途中で中止していただいて結構です。　いずれの場合でも，回答者の方に不利益が生じることはありません。
⑥調査内容には、収入に関する項目が含まれています。回答に抵抗がある方は、調査協力をお控えください。
⑦所要時間は 10 分程度です。

以上を確認のうえ，ご回答ください。なお，回答をもって，この調査への協力に同意していただいたものと判断させていただきます。

＊注意事項をご理解の上、調査にご協力いただける場合には
下記の「同意してアンケートに進む」をクリックし、アンケートにお進みください。

この研究は筑波大学人間系研究倫理委員会の承認を得て、調査参加者の皆様に不利益がないよう万全の注意を払って行われています。
一旦参加に同意頂いた場合でも、いつでも調査参加者となることを不利益を受けず随時撤回することができます。
研究の内容に関してご意見ご質問などございましたら、気軽に研究実施分担者または研究実施責任者にお尋ねください。
研究実施分担者　筑波大学大学院人間総合科学研究科　心理学専攻　渡辺　伸子（わたなべ のぶこ）e-mail: nobukow@human.tsukuba.ac.jp
研究実施責任者　筑波大学人間系　准教授　佐藤　有耕（さとう ゆうこう）
TEL：029－853－4695　　e-mail: yuhkohst@human.tsukuba.ac.jp

また、本研究に関して倫理的問題等がございましたら、筑波大学人間系研究倫理委員会までご相談ください。

人間系支援室　総務係　TEL：029-853-5605　　e-mail: hitorinri@un.tsukuba.ac.jp

あなたの性別をお知らせください。

1　　男性
2　　女性

あなたの年齢をお知らせください。

1　　FA　　歳

あなたのお住まいの地域をお知らせください。

▼　　47 都道府県プルダウン

あなたのお住まいは以下のどちらにあてはまりますか。

1　　東京 23 区内
2　　東京都下

あなたは結婚していらっしゃいますか。

1　　既婚（配偶者あり）
2　　既婚（死別）
3　　既婚（離別）
4　　未婚

あなたはお子様がいらっしゃいますか。

1　　1 人
2　　2 人
3　　3 人
4　　4 人
5　　5 人
6　　6 人以上
7　　子供はいない

あなたが同居されているご家族の人数をお知らせください（あなた自身を含む)。

1　　１人（一人暮らし）
2　　2 人
3　　3 人
4　　4 人
5　　5 人
6　　6 人以上

あなたのお仕事についてお知らせください。

1　正社員で働いている
2　契約社員・派遣社員で働いている
3　パート・アルバイト
4　学生
5　専業主婦・主夫
6　無職、仕事をしていない
7　その他

あなたの勤務先の業種にもっとも近いものをお知らせください。

1　建設業
2　製造業
3　商社・卸売業
4　小売業
5　IT 関係
6　金融業
7　不動産業
8　医療機関
9　出版・マスコミ
10　通信
11　サービス業
12　食品・飲料
13　運輸
14　教育
15　調査会社
16　農林水産業
17　広告・企画
18　デザイン 製版・印刷業
19　公務員・教職員
20　団体・組合
21　宗教法人
22　その他

あなたの最終学歴をお知らせください。

1　　中学校
2　　高等学校
3　　専門学校・専修学校
4　　高専
5　　短期大学
6　　大学
7　　大学院（修士課程）
8　　大学院（博士課程）
9　　その他

失礼ですが、あなたのお宅の世帯年収は大体どの位ですか。
※１人暮らしの方は個人年収と同じ回答をお願いします

1　　２００万円未満
2　　２００万～３００万円未満
3　　３００万～４００万円未満
4　　４００万～５００万円未満
5　　５００万～６００万円未満
6　　６００万～７００万円未満
7　　７００万～８００万円未満
8　　８００万～９００万円未満
9　　９００万～１０００万円未満
10　　１０００万～１５００万円未満
11　　１５００万～２０００万円未満
12　　２０００万～２５００万円未満
13　　２５００万～３０００万円未満
14　　３０００万円以上
15　　わからない・答えられない

失礼ですが、あなたのお宅の世帯の貯蓄額は大体どの位ですか。
※１人暮らしの方は個人貯蓄額と同じ回答をお願いします

1　　２００万円未満
2　　２００万～３００万円未満
3　　３００万～４００万円未満
4　　４００万～５００万円未満
5　　５００万～６００万円未満
6　　６００万～７００万円未満
7　　７００万～８００万円未満
8　　８００万～９００万円未満
9　　９００万～１０００万円未満
10　　１０００万～１５００万円未満
11　　１５００万～２０００万円未満
12　　２０００万～２５００万円未満
13　　２５００万～３０００万円未満
14　　３０００万円以上
15　　わからない・答えられない

失礼ですが、あなたのお宅の世帯の 1 ヵ月の「教養娯楽費」は大体どの位ですか。

※教養娯楽費とは、教養、娯楽、趣味などのために必要な商品やサービスへの支出のことで、テレビ、新聞、旅行費用、趣味のための道具の購入費などが含まれます。

1　　1 万円～1 万 5 千円
2　　1 万 5 千円～2 万円
3　　2 万円～2 万 5 千円
4　　2 万 5 千円～3 万円
5　　3 万円～3 万 5 千円
6　　3 万 5 千円～4 万円
7　　4 万円～4 万 5 千円
8　　4 万 5 千円～5 万円
9　　5 万円～5 万 5 千円
10　　5 万 5 千円～6 万円
11　　6 万 5 千円～7 万円
12　　7 万円～7 万 5 千円
13　　7 万 5 千円～8 万円
14　　8 万円以上

東日本大震災発生から今日までの間に、震災に関連した出来事（震災、津波、原子力事故など）の支援や復興のために、あなたはいくら募金をしましたか。

1　　した〔1 以上 8 桁〕円
2　　していない

あなたは昨年 10 月～12 月に行われた赤い羽根共同募金に協力しましたか。

1　　した〔1 以上 8 桁〕円
2　　していない

| Q．お金に対して、あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**あなた自身が考えていること**について答えてください。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか、○をつけて答えてください。あまり深く考え込まずに回答してください。 | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | お金は、人生でもっとも大切なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金は、人にゆとりを与えるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | お金は、働いて得るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | お金は、トラブルの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は、とても価値があるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は、人に自由を与えると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | お金は、人をダメにする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 働かないでお金を手に入れる方法はいくらでもある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金は、争いをうむ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金より大事なものなど、この世にはないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | お金があると、心が豊かになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | お金があると、人はダメになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金は、自分で働いて稼ぐものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | お金は、人間関係を悪くするものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | お金は、非常に重要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | お金があると、心に余裕が生まれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金は、人を意地汚くする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金は、人間関係を壊す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金は、生きていくためにとても必要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金は、人を幸せにする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金は、人の心を惑わす。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | お金は、労働の対価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | お金は、あればあるだけよい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | お金は、人にチャンスを与えるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | お金があると、人は悪いことを考えるようになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | お金より大切なものがこの世にはたくさんある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | お金は、人に活力をくれるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | お金があると、心が貧しくなると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

Q．お金に対して、あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**あなた自身が考えていること**について答えてください。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか、○をつけて答えてください。あまり深く考え込まずに回答してください。

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | お金は、いざこざの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | お金は、稼ぐのが難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | お金があると、人にやさしくなれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は、必要不可欠なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は、人間関係を壊す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | お金とは、仕事の結果として与えられるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | お金は、得るのが大変だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金があると、心が豊かになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金は、なくてはならないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | お金は、人との関係によくない影響を与える。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | お金は、労働の対価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金を手に入れるのは、とても難しいことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | お金があると、積極的になれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | お金は、生きていくためにとても必要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | お金があると、もめごとが起こるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金は、自分のした仕事の評価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金は、簡単には手に入らないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金は、人に自由を与えると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金は、大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金は、仲たがいのもとだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金は、自分で働いて稼ぐものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | お金より大事なものなど、この世にはないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | お金は、非常に重要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | お金は、人間関係を悪くするものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | お金は、自分が働いた分だけ手に入るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | お金を稼ぐのは、甘くないことだと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | お金があると、心に余裕が生まれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | お金がなくなったとしたら、非常に困るだろう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

R．あなたは、商品を購入するとき、以下のようなことをどの程度考えますか。あてはまるところに○をつけて答えてください。

| | | とてもよくあてはまる | あてはまる | どちらともいえない | あてはまらない | まったくあてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 商品は、安ければ安いほどよい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 商品を買う時は、性能やデザインなど、細かいところまで調べる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | できるだけ安い商品を買いたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 性能やデザインが気に入らない場合は、商品を買わない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 性能があまり変わらない2つの商品があったときは、安い方の商品を買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 買う前に、商品について調べておく。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 値段が安ければ、機能や性能など他のことはあまり気にしない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | すべてに納得した時だけ、商品を買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 商品を買う時は、値段が高くても気にしない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | 商品についての細かい情報は気にしない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 価格が安いことは、重要だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 欲しい商品の機能やデザインに妥協することはない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 品質に見合っていれば、多少値段が高くてもかまわない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | 何か買う時は、商品についての情報をたくさん得たいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | 納得したもの以外、買いたくない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | 情報が少なくてよくわからない商品は、買わないようにしている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | 気に入った商品ならば、お金を貯めてでも手に入れたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

S．あなたは、この１ヵ月間に何度くらいクーポン（割引券）を使いましたか。紙のクーポンだけではなく、パソコン画面を印刷したものや、ケータイ電話の画面をお店で見せるものなど、形態は問いません。（一度も使わなかった人は、ゼロを記入してください。）

月に〔　　〕回くらい

T．あなたは現在、クレジットカードを何枚持っていますか。（持っていない人は、ゼロを記入してください。）

〔　　〕枚

U．あなたは、クレジットカードについてどのように思っていますか。あなたの考えが、以下の文章にどの程度あてはまるか、あてはまるところにそれぞれ○をつけて答えてください。

| | | とてもそう思う | そう思う | どちらともいえない | そう思わない | まったくそう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | クレジットカードは便利だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | クレジットカードを持つ利点はたくさんあると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | クレジットカードを持っていると、支払いの手間が省けると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | クレジットカードは、ポイントが貯まるので魅力的だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | クレジットカードを持つことは、自分のステータスになると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | クレジットカードの分割払い機能は魅力的だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| 4. あなたの買い物についてお聞きします。以下の文章があなたの普段の考えや行動にどのくらいあてはまるかを、選択肢に〇をつけて答えてください。 | | その通り | だいたいその通り | どちらともいえない | やや違う | 違う |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 買う時にはよくバーゲンセールを利用する。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 流行中のものを買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | どの店で買えば得かを行く前によく調べてみる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | そのもののムードや情緒を特に重視して買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 買うのは必要最低限にとどめておく。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 買う時には店員がすすめるものにする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 買う時にはよく広告しているブランドで買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 実用性とか使いやすさを特に重視して買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 見た感じとか美しさを特に重視して買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | できるだけ多くのものを比較したうえで買うものを決める。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 新しいものが出た時は人よりもはやく買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | とにかく安くて経済的なものを買う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

次の質問に答えてください。

＊性別 〔**男・女**〕(←いずれかに〇)

＊年齢 〔　　〕歳

＊学科・学類 〔　　〕

＊学年 〔　　〕年

＊現在アルバイトをしていますか？〔**はい・いいえ**〕(←いずれかに〇)
→**はい**の人のみ答えください。(いいえの人はとばしてください。)
時給はおいくらですか？〔　　〕円
ひと月に何時間程度働いていますか？〔　　〕時間くらい

＊ご出身〔　　**都・道・府・県**〕

＊現在のお住まい〔　　**都・道・府・県**〕

＊中学生のとき、あなたのご実家の経済的な生活の程度はどのくらいでしたか。下の選択肢の中でいちばん近いと思うものに〇をつけてください。
〔　上　・　中の上　・　中の中　・　中の下　・　下　〕

質問は以上で終わりです。
回答に漏れがないか確認の上、ご提出ください。
ご協力ありがとうございました。

Q．お金に対して、あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**あなた自身が考えていること**について答えてください。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか、○をつけて答えてください。あまり深く考え込まずに回答してください。

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | お金は、いざこざの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | お金は、稼ぐのが難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | お金があると、人にやさしくなれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は、必要不可欠なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は、人間関係を壊す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | お金とは、仕事の結果として与えられるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | お金は、得るのが大変だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金があると、心が豊かになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金は、なくてはならないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | お金は、人との関係によくない影響を与える。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | お金は、労働の対価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金を手に入れるのは、とても難しいことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | お金があると、積極的になれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | お金は、生きていくためにとても必要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | お金があると、もめごとが起こるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金は、自分のした仕事の評価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金は、簡単には手に入らないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金は、人に自由を与えると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金は、大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金は、仲たがいのもとだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金は、自分で働いて稼ぐものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | お金より大事なものなど、この世にはないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | お金は、非常に重要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | お金は、人間関係を悪くするものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | お金は、自分が働いた分だけ手に入るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | お金を稼ぐのは、甘くないことだと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | お金があると、心に余裕が生まれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | お金がなくなったとしたら、非常に困るだろう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

あなたの将来の生活の予想についてお尋ねします。10年ほど後の未来を思い浮かべて回答してください。それぞれの文章について、10年後を思い浮かべて、いま現在考えていることについて、当てはまるところに○をつけて答えてください。

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 将来、お金がなくなってしまったらどうしようかと心配だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金がなくなってしまい、生活できなくなったらと思うと心配だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 景気がさらに悪くなって、<br>生活できなくなってしまうような気がする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 自分の将来の生活に不安は感じない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 将来、働けなくなって、<br>生活に困ることもあるかもしれないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | いつか収入が途絶えて、食べていけなくなるような気がする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 将来も自分の経済生活は大丈夫だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 10年後にもいまと同じ暮らしができると考えている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 将来は現在よりいい暮らし向きになっていると考えている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | 自分は将来、働いたり生活したりすることに<br>困ってしまうような気がする。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

あなたはいま現在、どの程度貯金がありますか。当てはまるところ1つに○をつけて答えてください。

〔　　〕1 万円未満
〔　　〕1 万円以上 10 万円未満
〔　　〕10 万円以上
〔　　〕回答しない

| | あなたの普段の貯金に対する心がまえについてお尋ねします。当てはまるところに〇をつけて答えてください。 | よくあてはまる非常に | あてはまる | どちらともいえない | あてはまらない あまり | あてはまらない まったく |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 貯金をするように心がけている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 貯金には興味がない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 貯金は多いほうがいいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 積極的に貯金をしていきたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 貯金が増えるように工夫したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 貯金があると安心だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 日常的に、お金を貯めることを意識して生活したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 貯金をしたいとは思わない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

これから１年間のあなたの貯金の計画は、次のうちどれにもっとも近いですか。当てはまるものひとつに〇をつけてください。

これから１年間で、
〔　　〕貯蓄額を増やしたい。
〔　　〕貯蓄額は現状を維持したい。
〔　　〕貯蓄額を減らしたい。
〔　　〕わからない。

いまから１年後のあなたの貯金の見通しは、次のうちどれにもっとも近いですか。当てはまるものひとつに〇をつけてください。

いまから１年後、
〔　　〕貯蓄額は増えると思う。
〔　　〕貯蓄額はいまと変わらないと思う。
〔　　〕貯蓄額は減ると思う。
〔　　〕わからない。

あなたは、貯金をしようと考えて生活していますか？
⇒〔貯金をしている・貯金をしていない〕
このページの設問は、「貯金をしている」と答えた人のみご回答ください。
「貯金をしていない」と回答した人は、次のページへお進みください。

あなたは、貯金をするために、どのような工夫をしていますか。次のうちから、当てはまるものすべてに〇をつけてください。

| | |
|---|---|
| | アルバイトを増やす。 |
| | 家で食べる食事を節約する。 |
| | 外食を控える。 |
| | 服代を節約する。 |
| | 水道光熱費や電話代を節約する。 |
| | 割引券などを使って節約する。 |
| | 交際費を節約する。 |
| | 交通費を節約する。 |
| | 不用品をリサイクルショップに売ってお金を得る。 |
| | 趣味や娯楽の費用を節約する。 |

あなたは、どのような理由で貯金をしていますか。次の４つの理由について、優先度の高いものが「１位」、低いものが「４位」になるように、カッコの中に数字を入れてください。自分の貯金の理由に当てはまらない理由には、カッコの中に「×」を記入してください。

〔　　〕人生設計を助けるため（引っ越し資金や結婚後の生活資金など）
〔　　〕急な出費に備えるため（病気や災害への備えなど）
〔　　〕遊びの予定や欲しいものを買うため（旅行やレジャーの資金など）
〔　　〕お金がない不安を解消するため

次の質問に答えて下さい。

1. 性別　（　男　・　女　）

2. 年齢　（　　）歳

3. 学科・学類　（　　）

4. 学年　（　　）年

5. 現在アルバイトをしていますか？　（　はい　・　いいえ　）

6. 現在のお住まい　（　　都・道・府・県　）

7. 現在の居住形態について　（　一人暮らし　・　実家暮らし　・　その他　）

8. 中学生のとき、あなたのご実家の経済的な生活の程度はどのくらいでしたか。
下の選択肢の中でいちばん近いと思うものにOをつけてください。
（　上　・　中の上　・　中の中　・　中の下　・　下　）

質問は以上で終わりです。
回答に漏れがないか確認の上、ご提出ください。
ご協力ありがとうございました。

Q. お金に対して、あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**<u>あなた自身が考えていること</u>**について答えてください。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか、○をつけて答えてください。あまり深く考え込まずに回答してください。

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | お金は、いざこざの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | お金は、稼ぐのが難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | お金があると、人にやさしくなれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は、必要不可欠なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は、人間関係を壊す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | お金とは、仕事の結果として与えられるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | お金は、得るのが大変だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金があると、心が豊かになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金は、なくてはならないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | お金は、人との関係によくない影響を与える。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | お金は、労働の対価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金を手に入れるのは、とても難しいことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | お金があると、積極的になれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | お金は、生きていくためにとても必要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | お金があると、もめごとが起こるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金は、自分のした仕事の評価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金は、簡単には手に入らないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金は、人に自由を与えると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金は、大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金は、仲たがいのもとだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金は、自分で働いて稼ぐものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | お金より大事なものなど、この世にはないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | お金は、非常に重要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | お金は、人間関係を悪くするものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | お金は、自分が働いた分だけ手に入るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | お金を稼ぐのは、甘くないことだと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | お金があると、心に余裕が生まれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | お金がなくなったとしたら、非常に困るだろう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

L.あなたは、就職する際に、以下の条件にどの程度こだわりますか。当てはまるところに○をつけて答えてください。

| | | とてもこだわる | ややこだわる | あまりこだわらない | まったくこだわらない |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 自分の能力が生かせる仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 世間から高い評価を受けられるような仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 残業がほとんどない | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 職場で周囲の人々との信頼関係が築ける | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 新しい事業を自分で起こす機会に恵まれる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 自分の可能性が広がる仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 他人から尊敬される仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 土日は必ず休める | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 同僚との雰囲気がよい | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | 数多くの種類の仕事が経験できる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 自分の個性が生かせる仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 社会で認められる仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 家族と一緒に過ごせる時間が多くとれる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | プライベートの予定を優先できる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | やりがいのある仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | 社会貢献になる仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | 安定した収入が得られる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | 仕事上で人とのつながりが実感できる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | 職場での経験が自身の成長につながる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | リーダーシップが発揮できる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | 転勤がない | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | 専門的な仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 育児休暇がある | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | フレックスタイムなど勤務時間に融通がきく | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | とてもこだわる | ややこだわる | あまりこだわらない | まったくこだわらない |
|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 職場で周囲の人々から受け入れられる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | 将来、独立することができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | 自分の責任において仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | 自分の時間が多くとれる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | 成果が目に見える仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | 高い給料がもらえる | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 31 | 自分に合った仕事の内容である | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 32 | 大手の会社である | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 33 | 友人や恋人と過ごせる時間を多くとれる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 34 | 他人の役に立つ仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 35 | リストラ(整理解雇)がない | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 36 | 人々とのつながりを実感するような仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 仕事によって自分に変化が感じられる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 38 | 職場で周囲の人々から頼りにされる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 39 | 職場が地元にある | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 40 | 仕事上で人との出会いが多い | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 41 | ボランティアなど、地域での活動の時間が多くとれる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 42 | 自分の考えた新しいアイディアが生かせる | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 43 | 自分のやりたいと思った仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 44 | 定年まで同じ会社に勤めることができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 45 | 他人にあれこれ指図されない | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 46 | 尊敬できる上司がいる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 47 | 将来性のある仕事ができる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 48 | 私生活の状況にあわせて、勤務時間を変更することができる | 4 | 3 | 2 | 1 |

M.あなたは、「フリーター」という生き方に対する以下の意見について、どの程度賛成、または反対しますか。当てはまるところに○をつけて答えてください。

| | | とても賛成 | やや賛成 | どちらともいえない | やや反対 | とても反対 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | フリーターは格好いい生き方だ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | フリーターは賢い選択である | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | フリーターは一歩進んだ働き方だ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | フリーターは自由を追求する生き方だ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | フリーターとして生きるのもいい | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | フリーターは新しいライフスタイルだ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | フリーターでも充実した生活が送れる | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | フリーターは豊かな社会の象徴だ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

**このページの設問は、大学卒業後、就職を希望する人のみお答えください。**
**（進学を希望する人は、このページはとばし、次ページへ進んでください。）**

N.あなたは、就職するにあたって、どの程度以下のことを考えていますか。当てはまるところに○をつけて答えてください。

| | | 非常によくあてはまる | あてはまる | どちらともいえない | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | わたしは、大学を卒業後、すぐに正社員として働きたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 大学卒業後、働かないと、<br>わたしは経済的に困ってしまうだろう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | わたしは、大学卒業後はすぐに正社員として働く必要がない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | わたしは、大学卒業後は正社員として働くのが目標だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 大学卒業後、わたしが働かないと、<br>家族が経済的に困ってしまうと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | わたしは大学卒業後、人並みにちゃんとした就職をしたいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

O.あなたは、就職するにあたって、「給料が高いこと」をどの程度重視しますか。当てはまるところに○をつけて答えてください。

| とても重視する | やや重視する | どちらともいえない | あまり重視しない | まったく重視しない |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

次の質問に答えてください。

＊性別 〔**男・女**〕(←いずれかに〇)

＊年齢 〔　　〕歳

＊学科・学類 〔　　〕

＊学年 〔　　〕年

＊現在アルバイトをしていますか？〔**はい・いいえ**〕(←いずれかに〇)

＊現在のお住まい〔　　**都・道・府・県**〕

＊中学生のとき、あなたのご実家の経済的な生活の程度はどのくらいでしたか。下の選択肢の中でいちばん近いと思うものに〇をつけてください。

〔　上　・　中の上　・　中の中　・　中の下　・　下　〕

質問は以上で終わりです。
回答に漏れがないか確認の上、ご提出ください。
ご協力ありがとうございました。

Q．お金に対して、あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**あなた自身が考えていること**について答えてください。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか、○をつけて答えてください。あまり深く考え込まずに回答してください。

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | お金は、いざこざの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | お金は、稼ぐのが難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | お金があると、人にやさしくなれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は、必要不可欠なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は、人間関係を壊す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | お金とは、仕事の結果として与えられるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | お金は、得るのが大変だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金があると、心が豊かになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金は、なくてはならないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | お金は、人との関係によくない影響を与える。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | お金は、労働の対価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金を手に入れるのは、とても難しいことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | お金があると、積極的になれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | お金は、生きていくためにとても必要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | お金があると、もめごとが起こるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金は、自分のした仕事の評価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金は、簡単には手に入らないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金は、人に自由を与えると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金は、大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金は、仲たがいのもとだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金は、自分で働いて稼ぐものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | お金より大事なものなど、この世にはないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | お金は、非常に重要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | お金は、人間関係を悪くするものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | お金は、自分が働いた分だけ手に入るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | お金を稼ぐのは、甘くないことだと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | お金があると、心に余裕が生まれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | お金がなくなったとしたら、非常に困るだろう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

K．ここに書かれている文章の内容は、あなたにはどのくらい当てはまるでしょうか。各項目の回答欄の該当する番号に、○を 1 つずつつけて下さい。どれがいい答えというのはありません。感じたままに答えてください。

| | | 非常に当てはまる | やや当てはまる | どちらともいえない | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 困っている人がいたら助けたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 体の不自由な人やお年寄りに何かしてあげたいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 心配のあまりパニックにおそわれている人を見るとなんとかしてあげたくなる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 落ち込んでいる人がいたら、勇気づけてあげたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 悲しい体験をした人の話を聞くと、つらくなってしまう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 他人をいじめている人がいると、腹が立つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | ニュースで災害にあった人などを見ると、同情してしまう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 困っている人を見ても、それほどかわいそうと思わない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 私は身近な人が悲しんでいても、何も感じないことがある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | いじめられている人を見ると、胸が痛くなる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 友達がとても幸せそうな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 人から無視されている人のことが心配になる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 人が冷たくあしらわれているのを見ると、私は非常に腹が立つ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

Ｊ．以下の内容について、あなたはどのように考えますか。各項目の回答欄の該当する番号に、○を１つずつつけて下さい。

| | | 非常に賛成する | 賛成する | どちらともいえない | 反対する | 非常に反対する |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | しいたげられている人を、まず救うべきだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 不当な立場で苦しんでいる人は、少しでも助けるべきだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 困っている人に、自分の持ち物を与えることは当然のことである。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | わたしを頼りにしている人には、親切であるべきだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 社会的に弱い立場の人には、皆で親切にすべきである。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 自分より悪い境遇の人に何かを与えるのは当然のことである。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 人は自分を助けてくれた人を傷つけるべきではない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

Ｌ．2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震、東北・関東大地震とも呼ばれています）についてお聞きします。

**１．あなたは、東日本大震災（以下、「地震」と呼びます）発生から今日までの間に、以下のことをしましたか。○をつけて答えてください。**

Ａ．テレビ、ラジオ、インターネット、新聞などの報道で地震の状況を確かめる。

Ａ．〔　した　・　しなかった　〕

Ｂ．友人や家族と地震について話をする。

Ｂ．〔　した　・　しなかった　〕

Ｃ．自分の家の地震対策（家具の固定や防災袋の用意）を再確認する。

Ｃ．〔　した　・　しなかった　〕

Ｄ．不必要な「買いだめ」をしないように心がける。

Ｄ．〔　した　・　しなかった　〕

Ｅ．節水や節電を心がける。

Ｅ．〔　した　・　しなかった　〕

Ｆ．被災地に行ってボランティア活動を行う。

Ｆ．〔　した　・　しなかった　〕

**２．あなたは、地震発生から今日まで、東日本大震災に対して募金（お金の寄付）をしましたか。枠内のどちらかに〇をつけて答えてください。**

| した（⇒２Ａへ）　・　していない（⇒２Ｂへ） |
|---|

**２Ａ　募金をした人にお聞きします。**

→　どのような方法で募金をしましたか。募金した方法全てに〇をつけて答えてください。

| | |
|---|---|
| | １．金融機関に出向いて募金の口座に振り込んだ。 |
| | ２．ネットバンキングを利用して募金の口座に振り込んだ。 |
| | ３．商店の店頭や公共施設などの募金箱にお金を入れた。 |
| | ４．大学の中に設置されている募金箱にお金を入れた。 |
| | ５．街頭募金活動をしている人にお金を渡した。 |
| | ６．その他<br>（　　） |

→　募金した回数を教えてください。　〔　　〕回

→　募金したおおよその金額を答えてください。　合計〔　　〕円くらい

**２Ｂ　募金をしていない人にお聞きします。**

→　募金をしたいと思った程度を答えてください。当てはまるもの１つに〇をつけてください。

| とてもしたいと思った | したいと思った | どちらともいえない | あまりしたいと思わなかった | まったくしたいと思わなかった |
|---|---|---|---|---|
| ５ | ４ | ３ | ２ | １ |

→　募金をしていない理由を教えてください。当てはまるもの全てに〇をつけて答えてください。

| | |
|---|---|
| | １．忙しくて時間がないから。 |
| | ２．募金方法がわからないから。 |
| | ３．どの団体に募金すればいいかわからないから。 |
| | ４．募金をするつもりがないから。 |
| | ５．人にお金をあげるのは失礼なことだと思うから。 |
| | ６．経済的に余裕がないから。 |
| | ７．その他<br>（　　） |

**３．あなたは、地震発生から今日まで、東日本大震災に対してお金以外のもの（支援物資）を被災地に送ることをしましたか。枠内のどちらかに〇をつけて答えてください。**

| 送った（⇒３Ｃへ）　・　送らなかった（⇒３Ｄへ） |
|---|

３Ｃ　支援物資を送った人にお聞きします。

→　送った方法をすべて教えてください。

| | |
|---|---|
| | １．自分で被災地の施設などを調べて、荷物を送付した。 |
| | ２．住んでいる場所の役所などが物資の取りまとめをしていたので、そこへ持っていった。 |
| | ３．その他（　　） |

→　何回くらい、支援物資を送りましたか。　〔　　〕回

→　金額に換算するとおおよそどれくらいでしたか。　合計で〔　　〕円くらい

３Ｄ　支援物資を送らなかった人にお聞きします。

→　支援物資を送りたいと思った程度を答えてください。当てはまるもの１つに〇をつけてください。

| とてもしたいと思った | したいと思った | どちらともいえない | あまりしたいと思わなかった | まったくしたいと思わなかった |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

**４．あなたは、地震発生から今日まで、東日本大震災への寄付つきの商品（売り上げの一部が被災地への寄付に回される商品）を買いましたか。枠内のどちらかに〇をつけて答えてください。**

| 買った　（　　）個くらい　・　買わなかった |
|---|

**５．その他、東日本大震災への支援について考えたことがあれば教えてください。**

次の質問に答えてください。

＊性別 〔**男・女**〕(←いずれかに〇)
＊年齢 〔　　〕歳

＊学科・学類 〔　　〕
＊学年 〔　　〕年

＊現在アルバイトをしていますか？〔**はい・いいえ**〕(←いずれかに〇)
→**はい**の人のみ答えください。(いいえの人はとばしてください。)
時給はおいくらですか？〔　　〕円
ひと月に何時間程度働いていますか？〔　　〕時間くらい

＊ご出身(生まれ育った場所)〔　　**都・道・府・県**〕

＊いままで住んだことのある都道府県を**すべて**お書きください。
(　　)

＊現在のお住まい〔　　**都・道・府・県**〕

＊中学生のとき、あなたのご実家の経済的な生活の程度はどのくらいでしたか。下の選択肢の中でいちばん近いと思うものに〇をつけてください。
〔　上　・　中の上　・　中の中　・　中の下　・　下　〕

＊今日(記入した日)の日付
2011 年 7 月〔　　〕日

質問は以上で終わりです。
回答に漏れがないか確認の上、ご提出ください。
ご協力ありがとうございました。

Q．お金に対して、あなたが考えていることについてお聞きします。社会の常識や家族の意見などとは関係なく、**あなた自身が考えていること**について答えてください。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか、○をつけて答えてください。あまり深く考え込まずに回答してください。

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | お金は、いざこざの原因だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | お金は、一生懸命働いた証拠だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | お金は、稼ぐのが難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | お金があると、人にやさしくなれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | お金は、必要不可欠なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | お金は、人間関係を壊す。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | お金とは、仕事の結果として与えられるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | お金は、得るのが大変だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | お金があると、心が豊かになる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | お金は、なくてはならないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | お金は、人との関係によくない影響を与える。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | お金は、労働の対価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | お金を手に入れるのは、とても難しいことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | お金があると、積極的になれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | お金は、生きていくためにとても必要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | お金があると、もめごとが起こるものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | お金は、自分のした仕事の評価だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | お金は、簡単には手に入らないものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | お金は、人に自由を与えると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | お金は、大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | お金は、仲たがいのもとだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | お金は、自分で働いて稼ぐものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 働いてお金を稼ぐのは大変なことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | お金より大事なものなど、この世にはないと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | お金は、非常に重要なものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | お金は、人間関係を悪くするものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | お金は、自分が働いた分だけ手に入るものだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | お金を稼ぐのは、甘くないことだと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | お金があると、心に余裕が生まれる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | お金がなくなったとしたら、非常に困るだろう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| A.政治に対して思っていることをお聞きします。下の文に書いてあることをあなたがどの程度思っているか、〇をつけて答えてください。 | | まったくそう思う | そう思う | そう思わない | 全然そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 政治のことは政治家にまかせておけばよい | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 結局国民一人一人の票が国の政治を決定していると思う | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 代議士は有権者のことを考えてくれていない | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | まじめに政治のことを考えている有権者は少ない | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 日常生活のなかに政治のことが入ってくると、かえってわずらわしい | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 政治家は政策よりも派閥抗争や汚職に明け暮れている | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 我々が少々騒いだところで政治はよくなるものではない | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 政治で騒ぐより、自分自身の仕事に精を出した方がよい | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 国民の意見は世論として政治に反映させることができる | 4 | 3 | 2 | 1 |

| B.あなた自身のことについてお聞きします。下の文に書いてあることに、あなたがどの程度あてはまるか、〇をつけて答えてください。 | | 全く自分にあてはまる | | どちらともいえない | | 全く自分にあてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 人の意見もよく聞くが、最終的には自分で決断できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | つらい時、悲しい時に、親のことがまず頭に浮かぶ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 将来、どんな職業についたらよいかわからない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 親や先生のいうことには、たとえ正しくても反対したくなる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 自分の考えが変わりやすく自信をもてない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 自分で決心できないときは、親の意見に従うようにしている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 生活の中に自分の個性を生かそうと努めている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 親といるだけで何となく安心できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 小さなことでも、自分で決断することができない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | たとえ学校の成績が悪くても、人間として、ひけめを感じることはない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 自分の考えや行動を抑えられたり、統制されたりすることには強い反発を感じる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 自分の本当にやりたいことが何なのかわからない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 自分の意志で、欲望や感情をコントロールする（がまんしたり、調節したりする）ことができる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | 両親を理解しようと思うのだが、つい反抗し、けんかになることが多い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | 他人の意見や流行に、つい引き込まれてしまう。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | 自分の人生を自分で築いていく自信がある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | 親に対して自分の意見を主張したいが、自信を持てない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | 親には何かにつけ、味方になってもらいたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | 全く自分にあてはまる | | どちらともいえない | | 全く自分にあてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 自分の意見を言えずに、相手に従ってしまうことが多い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | 親にさからえないで、言うとおりになってしまいやすい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | 大人に対してひけめを感じることが多い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | 自分の将来の進路や目標を自分で決めることができる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | できることなら、いつも両親と一緒にいたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | 両親につい反抗し、あとで後悔することが多い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 何かをする時には、親にはげましてもらいたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | 生きることの意味や価値を自分で見出すことができる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | いつでも相手になってくれる友達がほしい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | 両親に対して自分のことを打ち明けて話す気にはなれない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | 社会の中で自分の果たすべき役割があると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | 親の言うことには素直に従っている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | まわりの人と意見がちがっても、<br>自分が正しいと思うことを主張できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 32 | 困った時は親に頼りたくなる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 33 | どうしたらよいのか、自分で決心できないことが多い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 34 | 外から与えられたわくの中で生活する方が安心できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 35 | 親は自分の心の支えである。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 36 | 人生で出会う多くの困難は、<br>自分の力で克服することができると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 37 | 自分自身の判断に責任を持って行動することができる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | あなたが就職に対して持っている考えについてお聞きします。文章を読んで、自分がどのくらいその文章にあてはまるか、選択肢に〇をつけて答えてください。 | あてはまる | ややあてはまる | どちらでもない | あまりあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 将来就こうと考えている職業に関する情報には興味がある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 周囲の人々とコミュニケーションしながら仕事をすすめたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 地位や名誉をもたらす職業に就きたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 世間で非常に難しいとされている仕事をやり遂げたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 将来就きたい職業のために努力しようと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 仕事を通じて色々な人に出会いたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 職場では高い役職につきたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 努力や能力を必要とする仕事がしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 将来仕事で活用できる知識や技術を身につけたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | 常に多くの人との出会いがある仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 昇格や昇進の機会がある仕事を得ることは重要だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 誰かの案に従うのではなく自分で計画をたてる様な仕事がしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 日常生活の中で、仕事に役立つことは何でも吸収していきたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | 仕事そのものでなく職場の人間関係に興味がある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | 世間で名前の通った企業や団体に就職したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | 仕事で成功するためには決して努力を惜しまない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | 将来就こうと考えている職業について自分で調べようと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | 職場では周りの人々との調和が何よりも大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | 給料のいい職業に就くことは充実した生活に欠かせない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | 困難な仕事でも人に助けを借りずに自分の力でやり遂げたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 21 | 将来就こうと考えている職業に関連した講習会やセミナーには進んで参加しようと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | 仕事を通じて得たい最大の満足は、人との交流から得られる満足感だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 周りから賞賛されるような仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | 人と張り合えるような仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | 将来したい仕事に役立つ資格や免許を取得するつもりだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | あてはまる | ややあてはまる | どちらでもない | あまりあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 職場では一生つき合える友人を作りたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 27 | 人より優れた仕事をすることが重要だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | 将来就きたい職業がはっきり決まっている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | 仕事に就くのは人との接触をもっていたいからだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | 何か価値ある業績をあげようと考えている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 31 | 自分の個性が活かせる仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 32 | 仕事に活かせる事なら何でも学ぶつもりだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 33 | 個人の努力が重視される仕事ではなく集団の努力が<br>重視される仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 34 | いつも目標をもって仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 35 | 社会的に有意義な仕事をしたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 36 | 仕事を通じて自分を向上させたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 37 | 将来就こうと思う職業について考えるのは楽しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 38 | 職場ではムードメーカーになりたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | D.あなたが社会について考えていることについてお聞きします。下の文に書いてあることを、あなたがどの程度そう思うか、○をつけて答えてください。 | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 税金を納めるのは大人として当然のことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 社会に出たら、収入・貯蓄・消費のバランスを意識したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 働くのは、大人として当たり前のことだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 将来、事故などで働けなくなった場合に利用する制度についてよく知っている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | できることなら納税したくない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 社会に出たら、無駄遣いをしないで、貯金をした方がよいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | いずれ、社会に出て働きたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 | 福祉制度について、機会があれば調べたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 | 税金の仕組みについて、機会があれば調べたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 | 社会に出たら、お金の備えを用意したいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 | 働かずに済むのであれば、働きたくない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 | 生活保護制度について、ある程度理解している。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 | 税が社会の中で果たしている役割について理解している。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 | 社会に出たら、計画的に貯蓄したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 | 将来、職業人として、うまくやっていけるか自信がない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 | 健康保険に加入することは重要だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 | 自分に関係がある税について、十分知っている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | 借金は、なるべくしない方がよいと考えている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 19 | 仕事に就いて社会に出るのが楽しみだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 20 | 年金制度は、自分たちの世代では当てにならない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | そう思う | まあまあそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 21 | 税金のことはよくわからない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 22 | 家計の管理について、十分な自信がある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 23 | 将来、雇用関係でトラブルに遭ったときにも対処できそうだ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 24 | 困ったときに利用できる公的なサービスについて、知っておくことは大切だ。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 25 | 国民の義務なので、税金はしっかり払おうと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 26 | ローンを組むときは返済の見通しをしっかり立てたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 労働者の権利について、機会があれば調べたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 28 | 経済的に失敗しても、公的な支援制度に頼ることができると思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 29 | 納税を、自分のこととして受け止めている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 30 | 家計の運営についてはわからないことが多い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 31 | 労働に関する法律には興味がない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 32 | 困ったときにどのような公的支援が受けられるのか、よくわからない。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

次の質問に答えて下さい。

1. 性別　（　男　・　女　）

2. 年齢　（　　）歳

3. 学科・学類　（　　）

4. 学年　（　　）年

5. 現在アルバイトをしていますか？　（　はい　・　いいえ　）

6. 現在のお住まい　（　　都・道・府・県　）

7. 現在の居住形態について　（　一人暮らし　・　実家暮らし　・　その他　）

8. 中学生のとき、あなたのご実家の経済的な生活の程度はどのくらいでしたか。
下の選択肢の中でいちばん近いと思うものにOをつけてください。
（　上　・　中の上　・　中の中　・　中の下　・　下　）

質問は以上で終わりです。
回答に漏れがないか確認の上、ご提出ください。
ご協力ありがとうございました。